

資ニ任ス副部長及書記ハ前項部長及書記ノ任務ニ同シ
 第十一條 近衛師團監督部課長疾病事故ニ由リ代理ヲ要スル
 トキハ部長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理スヘシ
 第十二條 近衛師團監督部ノ事務ハ各課ニ於テ概テ左ノ事項
 ヲ分掌ス但臨時ノ事項ハ部長ニ於テ適宜各課ニ分掌セシム
 ルコトヲ得

第一課
 一 本部及管内軍吏部人事ニ關スル事項
 一 軍吏部下士補充教育ニ關スル事項
 一 本部並司計部經營部官員兵籍及名簿調整ニ關スル事項
 一 軍吏部下士及志願軍吏生教育ニ關スル事項
 一 金櫃事務ニ關スル事項
 一 俸給及諸給、旅費、雜給、兵器彈藥費、機密費ノ仕拂命令歲
 入監督及下検査ニ關スル事項
 一 仕拂證明書及經費ノ決算報告書調整ニ關スル事項
 一 司計部ニ關スル事項
 一 一月季年報ニ關スル事項
 一 本部ニ到達スル公文書ノ接受並記注送達ニ關スル事項

第二課
 一 糧食被服事務ニ關スル事項
 一 糧秣被服調達ノ方法及買收ニ關スル事項
 一 糧食費、被服費、馬匹費、演習及復習費、囚徒費ノ仕拂命令
 歲入監督及下検査ニ關スル事項
 一 委任經理ニ係ル糧食被服馬匹ノ物品會計ニ
 關スル事項

一 各地產出糧食品取調ニ關スル事項
 一 糧食被服等試驗ニ關スル事項

第三課
 一 建築工事ノ監督審査及土地建物ノ買賣貸借ニ關スル事項
 一 新營費、修繕費、治療費、測量費、應費ノ仕拂命令歲入監督
 及下検査ニ關スル事項
 一 官有財產及物品會計ニ關スル事項
 一 經營部ニ關スル事項

第二款 海軍徵募

○海軍志願兵徵募規則 明治二十二年五月
 勅令第六十八號

朕海軍志願兵徵募規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍志願兵徵募規則

第一條 海軍兵役ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ服役セシム

第二條 志願兵ノ職名ハ左ノ如シ
 水兵、信號兵、軍樂生、水雷夫、火夫、工夫、木工、鍛冶、看病
 夫、厨夫

第三條 志願兵ニ徵募スルトキノ年齡定限ハ左ノ如シ
 一 水兵、信號兵、火夫ハ滿十七年以上二十一年未滿
 二 木工、鍛冶、看病夫、厨夫ハ滿十七年以上二十六年未滿
 三 水雷夫、工夫ハ滿十七年以上三十二年未滿
 四 軍樂生ハ滿十四年以上十七年未滿

第四條 左ニ掲クル者ハ志願兵タルコトヲ許サス
 一 陸軍ノ豫備役後備役ニ在ル者

二 徵兵令第二十八條ニ當ル者
 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラシテ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處
 セラレタル者
 四 刑事被告人トナリ裁判未決ノ者
 五 身代限りノ處分ヲ受ク負債ノ義務ヲ免ラサル者

第五條 志願兵ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス
 現役ハ八箇年ニシテ入營ノ日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年
 ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス
 水雷夫ハ前項ニ依ラス十二箇年間現役ニ服セシメ豫備役ニ
 服セシメス但第一年ニ於テハ六箇月以内第二年ヨリ十一箇
 年間ハ毎年二箇月以内在營セシメ其餘ノ時日ハ歸休セシム

第六條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラシテ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰
 ニ處セラシテ又ハ逃亡シタル者其刑罰懲罰逃亡ノ日數ハ服
 役年期ニ算入セシム

第七條 服役期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ
 若クハ臨時ニ演習ノ學アルトキ若クハ航海中ハ其期限ヲ延
 スコトアルヘシ

第八條 豫備兵ハ戰時或ハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ
 召集ス平時ニ在テハ演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ但餘
 人ヲ以テ代フ可ラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及
 收入役ハ召集スルコトナシ

第九條 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ
 服役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但現役中疾病若ク
 ハ傷痕ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ
 滿十二箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム其永久服役ニ堪ヘ
 難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十條 水雷夫、工夫ヲ除クノ外志願兵ノ現役中ハ家族アル者
 ニ限リ其扶助金トシテ一日金貳錢七厘ヲ給ス

第十一條 志願兵徵募ノ爲メ別表ノ如ク海軍志願兵徵募區ヲ
 定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム

第十二條 志願兵徵募ノ人員ハ毎年海軍大臣之ヲ定メ各徵募
 區ニ配當シ鎮守府ヲシテ徵募セシム

第十三條 舊規則ニ依リ徵募シタル者ノ服役年期ハ舊規則ニ
 依ル

第十四條 舊規則ニ依リ一箇月金壹圓七拾五錢ノ家族扶助金
 ヲ給スル者ハ本年十月以後其現役滿期マテ一日金七錢五
 厘ノ家族扶助金ヲ給ス

別表(同上第二)
 (第三改正)

海軍志願 兵徵募區	所管鎮守府	府	縣	名
第一 橫須賀鎮守府	北海道	東海	神奈川	新瀧 埼玉
	群馬	千葉	茨城	栃木 三重
	愛知	靜岡	山梨	岐阜 長野
	秋田	福島	巖手	青森 山形
第二 吳鎮守府	京都	大阪	兵庫	奈良 滋賀
	福井	石川	富山	鳥取 島根
	岡山	廣島	山口	和歌山 德島
	香川	愛媛	高知	
第三 佐世保鎮守府	長崎	福岡	大分	佐賀 熊本
	宮崎	鹿兒島		

○海軍志願兵徵募細則 明治二十二年六月
 海軍省令第五號

海軍志願兵徵募細則

第一條 海軍志願兵ヲ志願スル者ハ本則ニ依リ徵募ス但軍樂生ハ横須賀鎮守府ニ於テ徵募シ水雷夫ハ別ニ定ムル規則ニ依リ徵募ス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正ス)

第二條 志願兵徵募ノ數額ハ毎年一月ニ於テ告示ス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正ス)

第三條 前條ノ告示アリタルトキ地方長官ハ其年海軍志願兵徵募規則第三條ノ年齡ニ適スル者ヲシテ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市長及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り四月一日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒ス可シ

第四條 鎮守府司令長官ハ志願人ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地方ニ配當ス可シ

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當表ヲ作り第三條第一項ノ志願人員表ト共ニ海軍省ニ送附ス可シ(二十三年二月海軍省令第十三號ヲ以テ追加ス)

第五條 鎮守府司令長官ハ五月一日後左ノ諸官ヲ派出シ志願人ヲ検査シ採用セシム

海兵團徵募官 志願人検査採用ノ事務ヲ掌ル

軍醫官 志願人ノ身體検査ヲ掌ル

筆記 徵募官ニ屬シ庶務ニ從事ス

看護手 軍醫官ニ屬シ身體検査ニ從事ス

第六條 地方長官ハ徵募官ノ巡廻ニ先テ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシム可シ

第七條 地方長官島司郡市長ハ徵募官ノ巡廻ニ際シ屬書記ヲ

派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシム可シ

第八條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方應管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ撰ミ概テ一郡市ニ一箇所ヲ設ケ可シ但志願人十名ニ滿タサル郡市ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス

志願人ノ數一地方應管轄地ヲ通シテ十名ニ滿タサルトキハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス(二十三年省令第二號ヲ以テ追加ス)

第九條 徵募官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡廻日割及毎日検査ヲ行フ可キ人員ヲ定メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達ス可シ

第十條 島司郡市長ハ徵募官ノ巡廻日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭セシム可シ

第十一條 徵募官軍醫官ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ム可シ

第十二條 志願人身幹左ノ定尺ニ達シ身體完全強健精神異常ナキ者ヲ身體検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス(二十三年六月海軍省令第十號ヲ以テ改正ス)

一 水兵、火夫、看病夫志願者ニ在テハ五尺二寸

二 軍樂生志願者ハ齒列齊正ニシテ十五年以上ニ在テハ五尺十五年未満ニ在テハ四尺八寸

三 木工、鍛冶、廚夫志願者ニ在テハ五尺

第十三條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

第十四條 木工、鍛冶ニ志願ノ者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限リ採用ス其證明書ハ市町村長ヨリ巡廻ノ徵募官ニ出ス可シ

第十五條 軍樂生、看病夫、廚夫志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖モ讀書、作文、算術ノ試験ニ合格セザレハ採用セス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正ス)

讀書ハ平易ナル漢字交リ作文ハ通俗文算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス

第十六條 身體ノ検査及讀書作文算術ノ試験ニ合格スト雖モ他ノ原因ニ依リ徵募官ニ於テ海軍兵ニ適セザル者ト認ムルトキハ採用セザルコトアル可シ(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正ス)

第十七條 検査合格ノ者ニハ一地方ノ検査ヲ了リタル後徵募官ヨリ郡市長ヲ經テ採用證書ヲ附與シ誓約ヲ爲サシム

第十八條 合格者ノ數採用スヘキ人員ニ超過スルトキハ軍樂生、看病夫、廚夫ニ在テハ學術成績優等ノ者ヨリ採用シ其他ニ在テハ甲種合格者又ハ乙種合格者中更ニ體格ノ等位ヲ細別シ順次ニ採用スルモノトス(二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ改正ス)

合格者ノ數採用スヘキ人員ニ滿タサル地方アルトキハ其不足人員ヲ他ノ地方ニ於テ配當人員ニ増加シ徵募スルモノトス(二十三年二月海軍省令第十三號ヲ以テ追加ス)

第十九條 市町村長ハ採用セラザル者ノ戶籍明細書ヲ作り徵募官又ハ海兵團ニ出ス可シ

第二十條 検査呼出ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之ヲ爲メ日時ヲ遷延シ更ニ検査所ヲ開クコトナシ但甲地志願人乙地検査所ニ至リ更ニ検査ヲ願フ者ハ之ヲ許可スルコトアル可シ

第二十一條 徵募ノ兵員入營ノ期限ハ一地方ノ検査ヲ了リタル後徵募官ヨリ地方長官ニ通牒ス可シ地方長官ハ其兵員ヲ便宜ノ場所ニ集メ其人員ノ多少ニ應ジ屬官又ハ郡市町村吏員ヲ附シ同時ニ出發セシム可シ但五人未満ナルトキハ單行セシム可シ

第二十二條 兵員入營ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入營ノ延期ヲ願フ者ハ徵募官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第二十三條 徵募官ハ一地方應管轄地ノ募兵事務終ルコトニ志願兵検査表ヲ作り募兵事務完結シタルトキハ志願兵總検査表ヲ作り海兵團長ヲ經由シテ鎮守府司令長官ニ出スヘシ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍省ニ送附ス可シ(二十三年二月海軍省令第十三號ヲ以テ追加ス)

第二十四條 附添人旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入營迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但検査所ヘ往復ノ費用並ニ検査ヲ受ケル爲メ滞在ノ費用ハ自辨トス

第二十五條 本規則中市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長若クハ區書記之ヲ掌ル可シ

第二十六條 (二十三年八月六日海軍省令第十三號ヲ以テ削除ス)

○海軍志願兵徵募細則中志願人員表採用證書及戶籍明細書様式

明治二十二年九月 海軍省訓令第八號

本年六月省令第五號海軍志願兵徵募細則第三條ノ志願人員表ハ第一様式ニ依リ調製スヘシ

同細則第十七條ノ採用證書ハ第二様式ニ依ルヘシ又誓約ヲ爲サシムルニハ第三様式ノ誓約書ニ本人ヲシテ氏名ヲ記入シ捺印セシムヘシ

同細則第十九條ノ戶籍明細書ハ第四様式ノ用紙ニ記入セシム

第一様式

何府縣海軍兵役志願人員表

用紙美濃紙

郡市	兵	和	水	兵	火	夫	木	工	鍛	冶	看	病	夫	厨	夫	計
	合計															

第二様式

五尺出

右海軍水兵何々ニ徵募ス

明治年月日

何鎮守府海兵團

印

第何海軍志願兵徵募區
府(縣)郡(市)町(村)住
氏名

曲尺七寸

第三様式

誓約書

海軍志願兵ニ御採用ニ付テハ御規則ヲ嚴守シ誓テ海軍ニ從事可仕候也

明治年月日

氏名印

第四様式

用紙美濃紙

本管族籍	住所	姓名	戸主カ子	第カ	家族ノ名	其	生	年	月	日	家族ノ名	其	生	年	月	日

右之通相違無之候也

市町村長 姓名 名印

本管族籍	住所	姓名	戸主カ子	第カ	家族ノ名	其	生	年	月	日	家族ノ名	其	生	年	月	日

右之通相違無之候也

市町村長 姓名 名印

○海軍下士服役條例制定ニ附從前ノ
退職下士ハ免官ト心得元海軍某官
ト稱セシム 明治二十二年五月
海軍省告示第五號

本年四月勅令第五十六號海軍下士服役條例公布ニ依リ從前ノ退職下士ハ免官ト心得自今元海軍某官ト稱スヘシ

○海軍准士官及徵兵ノ後備役志願兵ノ豫備役滿期並ニ豫備ニ入ル者ハ
辭令ヲ用井ス 明治二十三年三月
海軍省告示第八號

海軍准士官後備役滿期トナリ海軍志願兵豫備役滿期トナリ海軍徵兵後備役滿期トナリタルトキハ辭令ヲ用井ス准士官下士ハ免官卒ハ免役トス
豫備ヨリ後備ニ入ル者ハ辭令ヲ用井ス豫備滿期トナリタルトキハ後備トス

○海軍豫備後備兵兵籍編入方

明治二十三年一月
海軍省告示第一號

海軍豫備兵後備兵ハ現住地ノ屬スル海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ノ兵籍ニ編入ス

○父母ノ重病ヲ看護ノ爲メ海軍現役下士卒ノ歸郷ヲ要スルトキハ親族若クハ近隣戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村長又ハ區長ノ證印ヲ受ク醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人服務ノ艦團隊校應ニ願出ツヘシ

○海軍志願兵身體檢查格例

明治二十二年六月
海軍省告示第八十五號

海軍志願兵身體檢查格例左ノ通定ス

海軍志願兵身體檢查格例

第一條 海軍志願兵身體檢查ニ於テハ身體強健精神異狀ナシ全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍兵役ニ適スル者ヲ甲種合格者トシ多少其對稱ヲ失スルモ海軍兵役ニ適スル者ヲ乙種合格者トス

第二條 海軍兵役ニ適セザル疾病畸形等ハ大約左ノ如シ

- 一 水兵水雷夫火夫看病夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺三寸體重十四貫目胸圍二尺六寸五分胸廓擴張二寸活量百五十立方寸ヲ達セザル者
二 工夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺體重十二貫目胸圍二尺六寸胸廓擴張二寸活量百五十立方寸ヲ達セズ木工鍛冶厨夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺體重十四貫目胸圍二尺六寸胸廓擴張二寸活量百五十立方寸ヲ達セザル者
三 軍樂生志願ノ者滿十五年以上ニ在テハ身幹五尺體重十二貫目胸圍二尺五寸胸廓擴張一寸八分活量百四十立方寸ヲ達セズニ達セズ十五年未滿ノ者ニ在テハ身幹四尺八寸體重十貫五百目胸圍二尺三寸胸廓擴張一寸五分活量百三十立方寸ヲ達セザル者
四 身體發育ノ不全體力ノ薄弱慢性病或ハ負傷等ニ起因スル全身衰弱
五 全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病痕臭全身微毒若クハ吸角蝨針發泡打膿等ノ痕跡甚シキ者
六 頭部醜形頭蓋骨折傷陷凹精神異狀白癩癩癩麻痺言語妨害
七 眼目不透明ニシテ健體ノ容貌ヲ呈セザル者片眼若クハ

兩眼ノ失明視力二十ノ二十ニ達セザル者諸色不全斜視淚管眼瞼下垂

- 八 聽官ノ遲鈍片耳又ハ兩耳聾外耳道及鼓膜ノ疾病
九 鼻骨鼻軟骨ノ疾病及鼻痔
十 咽喉口蓋扁桃腺ノ疾病不真ノ齒牙齒齦全身病ニ起因スル呼吸ノ惡臭頸腺ノ癰癤病癩癩性潰瘍斜頸或ハ自殺的受傷ノ痕痕
十一 心臟及ヒ血管ノ官能的若クハ器質的ノ疾病胸廓ノ畸形縮少鎖骨下扁平肺勞略血氣管支炎呼吸短息聲音嘶啞慢性咳嗽其他肺結核ノ諸兆
十二 腹部ノ腫脹若クハ膨脹非常ノ肥滿肝脾腎ノ疾病脫腸腹輪ノ弛緩痔瘡尿道狹窄小便失禁或ハ尿道ノ瘻孔症片單若クハ兩單ノ下降セザル者精系靜脈張器丸莢膜腫脹器丸病
十三 痔瘡肛門皸裂痔疾脫肛或ハコンヂロマツ
十四 四肢ノ麻痺海弱收縮關節運轉ノ不全動脈靜脈怒張手足若クハ指趾ノ畸形醜形體性結構
十五 脊梁骨胸廓諸骨骨盤ノ負傷或ハ全身病ニ起因スル歪形
十六 前條掲ケル者ノ内輕症ナル者ニシテ氣候及ヒ職務ニ關セズ少クモ十年間職務ニ堪ユルノ目的アル者ハ合格ト爲スモ妨クナシ又體動ニ障礙ナキ理學的ノ狀況ニシテ不適合ト爲スニ至ラザル瘦體肥體體毛過冗軀幹若クハ四肢輕度ノ不同内彎膝彎脚扁平足齒牙及ヒ消食器ノ異常輕症ノ精系靜脈怒張等ハ成男ニ於テ可トシ少年ニ在テハ不可トス

海軍志願兵身體檢查格例發布前

徵募セル下士卒再服役者ノ身體

檢査方

本年六月達第百八十五號海軍志願兵身體檢查格例發布前ニ徵募シタル下士卒再服役者ノ身體檢査ハ本人徵募ノ時ノ檢査ニ準シ行フハシ

海軍工夫徵募細則

海軍工夫徵募細則左ノ通定ス

海軍工夫徵募細則

第一條 海軍工夫ハ造船部兵器部造兵廠火藥工廠水路部小野濱造船所ニ於テ補缺ヲ要スルトキ人員ヲ告示シ志願人志願手續及志願人心得ハ造船部兵器部ハ鎮守府ヲシテ廣告セシメ造兵廠火藥工廠水路部小野濱造船所ハ海軍省第一局ヲシテ廣告セシム

第二條 志願人ノ身體檢査ハ其要スル部廠所ニ於テ軍醫之ヲ行ヒ其合格ヲ定ム

第三條 志願人身幹五尺以上身體完全強健精神異狀ナキ者ヲ身體檢査合格トシ否ヲサル者ヲ不合格トス

第四條 志願人身體檢査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

第五條 志願人身體檢査ニ合格シタルトキハ之ヲ備職工トシ十五日以上三十日以内其業ヲ試ミ工夫ト爲スヘキ目途アル者ハ更ニ六箇月間通勤セシメ工夫ト爲スヘキ目途ナキ者ハ直ニ解僱ス

第六條 志願人備職工タル間ハ其服業日數ニ應ジ相當ノ日給ヲ給ス

第七條 志願人六箇月間備職工タリシ後所要ノ人員ト服業ノ巧拙勤怠ニ依リ順次ニ工夫ヲ命ジ誓約ヲ爲サシム

第八條 志願人工夫ヲ命セラレタルトキハ本籍市町村長東京市京都市ニ在テハ印アル戸籍明細書ヲ各部廠所ニ出スヘシ

第九條 補缺ヲ要スル人員寡少ナルトキハ第一條ノ手續ニ依ラス鎮守府又ハ海軍省第一局ノ指示ニ依リ部廠所ニ於テ臨時其備職工中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ身體檢査ノ上工夫ニ採用スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五條ノ試業及通勤ヲ要セス

海軍水雷夫徵募細則

海軍水雷夫徵募細則左ノ通定ス

海軍水雷夫徵募細則

第一條 水雷夫ハ水雷隊ヲ置ク地ノ附近ニ於テ徵募スルモノトス

第二條 水雷夫ノ徵募ヲ要スルトキハ豫メ其人員徵募區域及期限ヲ告示シ志願手續ハ鎮守府ヲシテ地方廳ニ通知セシム

第三條 前條ノ通知アリタルトキ地方長官ハ郡區長ヲシテ志願人ヲ調査セシメ志願人員表ヲ作り水雷隊司令ニ通知セシム可シ

第四條 鎮守府司令長官ハ水雷隊司令ヲシテ徵募事務ヲ管セシメ分隊長軍醫看護手主帳ヲ派出シ志願人ヲ檢査シ採用セシム

現行日本法令大全

第五條 徵募ヲ要スル人員寡少ナルトキハ分隊長以下ヲ派出セシメ水雷隊ニ於テ検査ヲ施行ス

第六條 志願人ハ左項ノ一ニ適合ノ者タル可シ

- 一 海軍豫備後備役ニ在ル者
- 二 舟夫又ハ一箇年以上舟夫ノ業ニ従事シタル者
- 三 漁夫又ハ一箇年以上漁夫ノ業ニ従事シタル者

第七條 志願人身軀五尺ニ達シ身體完全強健精神異常ナキ者ヲ合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス

第八條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

第九條 検査合格者ニハ水雷隊司令ヨリ郡區長ヲ經テ採用證書ヲ附與シ誓約セシム

第十條 合格者ノ數採用スヘキ人員ニ超過スルトキハ先ツ豫備兵又ハ後備兵ノ合格者ヲ採用シ其他ニ在テハ甲種合格者又ハ乙種合格者中更ニ體格ノ等位ヲ細別シ順次ニ採用スルモノトス

第十一條 志願人採用セラレタルトキハ本籍町村長ノ印アール戸籍明細書ヲ水雷隊ニ出ス可シ

第十二條 水雷隊司令ハ採用シタル者ノ履歷ヲ履歷表ニ記入シ其人名戸籍明細書其他履歷上必要ノ件ハ之ヲ本管海兵團ニ送附ス可シ

第十三條 水雷夫入營期限ハ検査ヲ了リタル後水雷隊司令ヨリ郡區長ニ通知ス可シ

第十四條 入營期限ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入營延期ヲ願フ者ハ水雷隊司令ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第十五條 徵募事務終ルトキハ水雷隊司令ハ検査表ヲ作り軍

港司令官若クハ要港司令官要港司令官ナキトキハ經由シ鎮守府司令官ニ出ス可シ鎮守府司令官ハ之ヲ海軍省ニ送附ス可シ

第十六條 水雷夫各自居住ノ地ヨリ入營マテノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但検査所往復ノ費用並検査ヲ受クル爲メ滞在ノ費用ハ自辨トス

海軍下士服役條例

明治二十二年四月 勅令第五十六號

海軍下士服役規則ヲ廢止シ海軍下士服役條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二年以上十六箇年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シ滿十六箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第三條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレシ者ハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレシ又ハ逃亡シタル者其刑期懲罰逃亡ノ日數ハ服役年數ニ算入セス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母 父母ナキトキハ親族若クハ祖父母ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナリタル爲メ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限ニ在ラス

現行日本法令大全

前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第五條 現役中傷痕若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷痕若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第七條 服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ時變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

第八條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條 (同上)

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

海軍下士卒再服役條例

明治二十二年四月 勅令第五十七號

海軍下士卒再服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 現役滿期ノ下士卒再ヒ現役ニ服センコトヲ欲スルトキハ艦團長其他直屬ノ長官ニ請フコトヲ得

第二條 再服役ハ滿三年ヲ以テ一期トシ每期之ヲ請フコトヲ得

第三條 再服役ハ志操忠實品行善良ニシテ技能アル者ニアラ

サレハ之ヲ許可セス

第四條 再服役ハ艦團長ニ於テハ艦團長、諸官廳ニ於テハ直屬ノ長官之ヲ許可シ其誓約ヲ爲サシム可シ

第五條 再服役中轉艦若クハ轉職又ハ轉職セシムルコトアルモ從前ノ誓約ハ新クニ屬スル所ノ艦團長若クハ直屬ノ長官ニ移ルモノトス

第六條 再服役中傷痕若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ再服役ヲ停止ス

第七條 再服役中傷痕若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ服役ヲ免ス

第八條 再服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第九條 海軍下士服役條例制定以前艦内教授警吏ニ任シタル下士ニハ再服役ヲ許サス

海軍下士卒再服役許可手續

明治二十二年五月 海軍省令第二百一十一號

海軍下士卒再服役許可手續左ノ通定ス

海軍下士卒再服役許可手續

一 艦團長其他下士卒ヲ直轄スル長官ハ翌年中ニ現役滿期ト爲ル下士卒ニシテ再服役ヲ請願スル者ノ有無ヲ毎年十一月十日以前ニ調査シ海軍下士卒再服役條例第三條ニ適當スル者ノ再服役ヲ許可シ誓約ヲ爲サシメ其月十五日限結

了ス可シ而シテ期日ヲ過キ願出ル者アルモ一切受理スハカラス

再服役志願者三箇年以内ニ於テ年限ノ年齡ニ達スル者ハ年齡滿限マテ再服役ヲ許可スルコトヲ得(二十三年二月海軍令(以テ本) 第六十四號)

二 下士卒ニ再服役ノ誓約ヲ爲シシムルニハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ出シシムヘシ

再服役誓約書

今般願ニ依リ再服役許可相成候ニ付テハ明治何年何月何日ヨリ何箇年間御規則ヲ嚴守シ誓ア服役可仕候也

明治年月日

官(職)氏 名印

三 再服役ヲ許可シタル下士卒ノ官職姓名(職名ハ姓名ノ上ハ艦團長ニ職名ト記シ)若クハ下士卒ヲ直轄スル長官ヨリ其年十二月十五日マテニ本省第一局第一課及下士卒ノ本籍アル海兵團ニ通知ス可シ又再服役ノ許可ヲ取消シタルトキハ其都度前同様通知スヘシ(二十五年二月海軍省令(第二號)ヲ以テ本項改正)

第三章 戒嚴令 徵發令

○戒嚴令 明治十五年八月 布告第三十六號

戒嚴令別冊ノ通制定ス

戒嚴令 (別冊)

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ陸戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 陸戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ陸戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮壓營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰時上陸機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮壓營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(十九年十一月三十日勅令第七十四號ヲ以テ)
(臨時司令官若クハ分遣隊長ノ十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ暴ニ布告シタル所ノ陸戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 陸戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若

クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

- 第一章 皇室ニ對スル罪
- 第二章 國事ニ關スル罪
- 第三章 靜謐ヲ害スル罪
- 第四章 信用ヲ害スル罪
- 第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

- 第一章
 - 第一節 謀殺故殺ノ罪
 - 第二節 毆打創傷ノ罪
 - 第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
 - 第七節 脅迫ノ罪
- 第二章 強盜ノ罪
- 第七節 放火失火ノ罪
- 第八節 洪水ノ罪
- 第九節 船舶ヲ覆没スル罪
- 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境内ニ裁判所ナク又管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境内ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸事件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

- 第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト
- 第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト
- 第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ押收スルコト
- 第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海道路ヲ停止スルコト
- 第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壊燬燒スルコト
- 第六 合圍地境内ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り検査スルコト
- 第七 合圍地境内ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト
- 第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖トモ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス
- 第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

○法律規則中戰時ト稱スル場合

明治十五年八月
第三十七號布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告
ヲ以テ定ムルモノトス

○徵發令 明治十五年八月
布告第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス

徵發令 (別冊)

- 第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部
又ハ一部ヲ動かスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課
シテ徵發スルノ法トス
- 但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス
- 第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ
- 第三條 左ニ列記スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長
若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官官艦隊司令官分遣
艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長
- 第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區ニ準テ之ヲ定ムル
コト左ノ如シ
- 一 第十二條第一項ハ 府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村

- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ
停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車
場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セ
シムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ
豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ
供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知
事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費
用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍
官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給
ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ之ヲ使用ス
ルコトヲ得
- 第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事
縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スハ
シ
- 第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ
- 一 米麥秣藁鹽味醬油漬物梅干及ヒ薪炭
- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍庭園及ヒ倉庫

- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道汽車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲ク
ルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍
ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具藥劑治療器械及細帶具
- 四 水車搗磨ノ類
- 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ
如シ
- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ
如シ
- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物

- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院養兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノノ使用ハ其原用ヲ轉
シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此
限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六
里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越
ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地
ニ使用スルコトヲ得
- 第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除ク
ノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコト
ヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
- 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ
一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
- 第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ
都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ
- 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ
轉移セシムルコトヲ許サス庭園倉庫亦同シ
- 第二十二條 宿舍庭園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人
馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日
ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
- 第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼
ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際シ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際シ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡シシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セズ

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越エルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船橋會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ賃價及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平

常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船賃及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ

代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船橋會社ノ店長其處置ヲ爲サ、ルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲家ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ別官ヲ附加ス

○徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ
 怠納者處分方及右費用ニ關シ不
 服アル者出訴方

明治十六年八月
 布告第三十一號

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス右費用

ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ

○徵發事務條例 (別冊) 明治十五年十二月 大政官布達第二十六號

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

徵發事務條例 (別冊)

- 第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス
- 第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ
- 第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得
- 第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長團長師團長艦隊司令官官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得
- 第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣隊長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖トモ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セザルニテハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官官ノミ之ヲ有ス
- 第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長下ハ諸國隊ヲ統フル長以上トシ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長トシ言ヒ艦長トハ

- 先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ國隊若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニハルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
- 徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス(二十三年九月三日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)
- 第七條 徵發ニ應ジタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ
- 第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人其町村内親族又ハ預リ主又ハ同物品營業立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セザルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セザルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ
- 第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒズ本人ニ受領證票ヲ交付スル

ニ止ル

- 本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ
- 徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府知事ニ付スルコトヲ得(二十三年九月三日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)
- 第十一條 徵發ノ命令ヲ受クタルモノハ晝夜ヲ別メ速ニ其處置ヲ爲ス可シ
- 第十二條 徵發書ヲ受クタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ
- 町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ク郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受クタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ検査セシムルコトアルヘシ
- 郡區長府知事縣令其報告ヲ受クタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ
- 第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受クタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告スヘシ
- 第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ
- 第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス
- 第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

- 第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上クニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ
- 第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノノ解船及ヒ船ヲ借切トシテ徵發スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアル可シ
- 第十九條 徵發令第十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ
- 第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セザルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ
- 二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量
- 三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量
- 第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表

ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(十九年五月十四日閣令十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ離形ニ依リ毎年十二月三十一日測ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新クニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ(同上)

第二十二條 (同上閣令ヲ以テ本條ヲ刪除ス)
 第二十三條 (同上)
 第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號ニ依リ離形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ(同上)
 第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一三三ノ離形ニ依リ西洋形船舶器械製造修繕場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三系以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ(同上)
 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一三三ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三三ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得(同上)
 第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル器具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
 第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船

ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス
 第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸座敷賣店等ヲ包含ス
 第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ
 一 廨署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室
 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
 五 下士又ハ同等軍屬一名 一廨半乃至二廨
 六 卒又ハ同等軍屬一名 一廨乃至一廨半
 七 徵發ニ應シタル人員三名 二廨
 第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿衛主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ
 第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之ヲ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス
 第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定置大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定置以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物
 二馬 駐軍中 朝大麥二升秣五百目喰藪五百目 晝秣五百目喰藪五百目 夕大麥二升秣五百目喰藪二百目 演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣一貫目喰藪五百目 小麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藪一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰藪二貫目
 藪藪又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣ニ代用スルトキ 朝藪藪又ハ裸麥一升喰藪一貫目 晝藪藪又ハ裸麥一升 夕藪藪又ハ裸麥二升喰藪一貫目
 第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢(兼)毎室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス
 第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セズ徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス
 第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラルモノハ公有家屋社食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル狀若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ
 第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ供給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引テ立ツ可シ
 第三十八條 食飼ノ定置ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ
 第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得(同上)
 第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(同上)
 第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得
 第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ
 第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引テ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ

記載スヘシ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領
證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ
請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ
賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ
消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ル
モノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使
用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ
應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタル官ノ都合ニテ不用トナリタルト
キハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シ
テ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條
ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ
受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官
憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ日長ニ届出可キモ
ノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調
査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキ
ハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セザルト
キハ評價委員ニ付ス可シ
日長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調
査書ヲ作り供給者ノ請求金額ア 其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可
シ但調査書コハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ
意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲ケル期日ヲ超エタル届出
ハ之ヲ受理ス可カラス但シ變災厄難ニ罹リタルノ確證アル
モノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市
場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雜形ニ依リ調
製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若
クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲
ニ臨時ニ騰貴セザル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル
第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲ケル平常
ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍
官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲ケル平常ノ賃價捐料及ヒ代價ハ日長ヨリ
陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可
キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條
ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其
現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊費トハ石炭油脂其他
日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物
品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノト
ス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ
操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵
用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキ

ノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從
ヒ府縣郡區吏員若クハ日長一名及ヒ其町村評價所ノ住民ニ
シテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他
若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依リテ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲ニ生シタル
地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣
吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以
テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ選用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキ
モノニシテ地方吏員若クハ日長ニ於テ選舉ス可キモノトス
其選舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ
得ス

第五十七條 其選舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ
該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ日長ノ派出ヲ要
スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令
郡區長若クハ日長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密
ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル
評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ
實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相
當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス
或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ
評價委員ハ評價單ノ後左ニ掲ケル要目ニ准シ所有主毎

ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ 何圖面何書類ニ依リタ
金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ 無タルニ依リ
其植物ノ前年平均額ヲ以テ賠償金額ヲ定メタル歟其損傷ノ程度分ニ止
マリ其幾分ニ保ル賠償金額ヲ全部收獲ノ前年平均額ヨリ算出シタル
ルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收獲額ニ應ジ賠償ス可キ金額中ヨリ
幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永年ノ草木ニシテ毎年收穫
アルモノノ損害受ケタルトキハ其損害ノ收買ニ止マルト枝幹ニ保ル
モノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫額ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル
歟

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長
若クハ日長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ日長ハ其
明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場
所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ
附錄 (第一號ヨリ第七號ニ
至ル表式ハ之ヲ參ス)

○徵發令第十二條第二項ノ乘馬馱馬
駕馬車輛并屬具ノ員數差出方

明治十九年十二月
陸軍省訓令第二號

徵發令第十二條第二項ノ乘馬馱馬駕馬車輛並ニ屬具ノ員數入
用候條左ノ項目ニ依リ取調左ノ書式ノ表面ヲ製シ來二十年二
月二十八日迄ニ無違滯所管鐵道ニ差出スヘシ
但徵發令第十四條並ニ乘馬飼養令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調
査ヲ要セス

第一 馬匹 馱馬馱馬 來二十年年齢五歳以上十六歳未満ノモノ
ニシテ第二項ヨリ第四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者ヲ
不合格トシ調査スヘシ

第三類 第三章 戒嚴令 徵發令

六百十二

但年齢ハ生年ヲ一歳トシテ計算スヘシ
 第二 乘馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ
 第三 駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ
 但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシ者ハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ
 第四 駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馬ニ役スルモノ

又ハ曾テ駕馬ニ役セシ者ヲ算入スヘシ
 第五 車輛ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車荷馬車馬ヲ算入スヘシ又器具完全ニシテ數日ノ運轉ニ耐ユルモノヲ甲トシ器具完全ナラサルモノ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ
 第六 屬具ハ鞍具鞍轡ニ限ル又材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲トシ材料完全ナラサルモノ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

考 備	計	郡 種 別		何年治何縣府馬車員數表															
		區 別	種 別	合 格						不 合 格									
				五歲以上十六歲未滿	乘馬	駕馬	駄馬	五歲未滿	乘馬	駕馬	駄馬								
		甲	乙	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引

第三類 第三章 戒嚴令 徵發令

六百十三

考 備	計	郡 種 別		何年治何縣府馬車員數表															
		區 別	種 別	合 格						不 合 格									
				五歲以上十六歲未滿	乘馬	駕馬	駄馬	五歲未滿	乘馬	駕馬	駄馬								
		甲	乙	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引	一頭引	二頭引	三頭引	四頭引

○徵發令第十二條ノ馬匹車輛竝
屬具等員數取調差出方

明治二十年十二月
陸軍省訓令第十五號

徵發令第十二條第二項ノ馬匹車輛竝ニ屬具等員數取調ノ儀昨
十九年十二月訓令甲第二號ニ基キ既ニ本年二月迄ニ各府縣ヨ
リ所管鎮臺ヘ差出シタル諸表中其員數ノ増減ハ來二十一年ヨ
リ毎年二月廿日迄ニ無遲滯所管鎮臺ヘ申報スヘシ
但車輛ニ關スル増減ハ別ニ申報スルヲ要セス

○徵發事務條例附錄第三號ノ

一書式中記載心得

明治二十三年十月
陸軍省訓令第十六號

勅令第九十六號ヲ以テ改正相成候徵發事務條例附錄第三號
ノ一表式中船舶ハ日本形ノミ記載ノ例ニ候處徵發物件取調上
汽船ニ非ラサル西洋形船舶モ入用候條西洋形船舶ヲ二十噸
以上ハ日本形船舶五十石以上ノ區畫ニ二十噸未滿ハ靜漁小廻
ノ區畫ニ米書記入差出候様取計フヘシ

第四類 租稅

第一章 租稅總則 租稅徵收 租稅怠
納並犯則 地方稅 府縣稅徵
收 備荒儲蓄

第一款 租稅總則

○府縣直稅分署間稅分署ノ位置

明治二十三年十一月
大藏省令第二十九號

府縣直稅分署間稅分署ノ位置及管轄區域左表ノ通之ヲ定ム

府縣直稅分署間稅分署位置管轄區域表

府縣名		直稅分署位置		管轄郡市區島名	
東		幸 橋	京橋區芝區、麻布區、伊豆七島、小笠原島	管 轄 郡 市 區 島 名	京 橋
東		四ッ谷	麴町區、牛込區、四ッ谷區、赤坂區	管 轄 郡 市 區 島 名	麴 町 區、牛 込 區、四 ッ 谷 區、赤 坂 區
東		萬世橋	小石川區、本郷區、神田區	管 轄 郡 市 區 島 名	小 石 川 區、本 郷 區、神 田 區
東		新大橋	日本橋區、深川區	管 轄 郡 市 區 島 名	日 本 橋 區、深 川 區
東		麻 橋	淺草區、下谷區、本所區	管 轄 郡 市 區 島 名	淺 草 區、下 谷 區、本 所 區
東		品 川	荏原郡	管 轄 郡 市 區 島 名	荏 原 郡
東		淀 橋	南豐島郡、東多摩郡	管 轄 郡 市 區 島 名	南 豐 島 郡、東 多 摩 郡
東		板 橋	北豐島郡	管 轄 郡 市 區 島 名	北 豐 島 郡
東		千 住	南足立郡	管 轄 郡 市 區 島 名	南 足 立 郡
東		小 松 川	南葛飾郡	管 轄 郡 市 區 島 名	南 葛 飾 郡
京		京 都	京都市、愛宕郡、葛野郡	管 轄 郡 市 區 島 名	京 都 市、愛 宕 郡、葛 野 郡
伏 見		乙訓郡、紀伊郡、宇治郡、久世郡	管 轄 郡 市 區 島 名	乙 訓 郡、紀 伊 郡、宇 治 郡、久 世 郡	乙 訓 郡、紀 伊 郡、宇 治 郡、久 世 郡
大		會 根 崎	西成郡	管 轄 郡 市 區 島 名	西 成 郡
大		中ノ島	西區、北區	管 轄 郡 市 區 島 名	西 區、北 區
大		船 場	南區、東區	管 轄 郡 市 區 島 名	南 區、東 區
大		峯 山	中郡、竹野郡、熊野郡	管 轄 郡 市 區 島 名	中 郡、竹 野 郡、熊 野 郡
大		宮 津	與謝郡	管 轄 郡 市 區 島 名	與 謝 郡
大		舞 鶴	加佐郡	管 轄 郡 市 區 島 名	加 佐 郡
大		綾 部	何鹿郡	管 轄 郡 市 區 島 名	何 鹿 郡
大		福 知 山	天田郡	管 轄 郡 市 區 島 名	天 田 郡
大		園 部	船井郡	管 轄 郡 市 區 島 名	船 井 郡
大		周 山	北桑田郡	管 轄 郡 市 區 島 名	北 桑 田 郡
大		龜 岡	南桑田郡	管 轄 郡 市 區 島 名	南 桑 田 郡
大		木 津	相樂郡、綴喜郡	管 轄 郡 市 區 島 名	相 樂 郡、綴 喜 郡

全大令法本日行現

新														崎				長				市
六日町	小千谷	長岡	與板	津川	三條	卷	新津	新發田	新瀉	對馬島應	武生水	福江	平戸	島原	諫早	大村	長崎	三原郡				
南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡	三島郡	東蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	中蒲原郡	北蒲原郡	新瀉市	上縣郡、下縣郡	壹岐郡、石田郡	南松浦郡	北松浦郡	南高來郡	北高來郡	東彼杵郡	長崎市、西彼杵郡					
千			玉				崎				瀨				十日町							
佐倉	松戸	千葉	杉戸	岩槻	忍	熊谷	本庄	大宮	松山	川越	浦和	相川	村上	糸魚川	高田	安塚	柏崎	十日町				
印幡郡、南相馬郡、下埴生郡	東葛飾郡	千葉郡、市原郡	北葛飾郡、中葛飾郡	南埼玉郡	北埼玉郡	大里郡、幡羅郡、榛澤郡、男衾郡	兒玉郡、賀美郡、那珂郡	秩父郡	比企郡、横見郡	入間郡、高麗郡	北足立郡、新座郡	雜太郡、加茂郡、羽茂郡	岩船郡	西頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	刈羽郡	中魚沼郡				

第四類 第一章 第一款 租稅總則

全大令法本日行現

川										奈				神				阪					
厚木	小田原	松田	大磯	藤澤	横須賀	府中	八王子	青梅	神奈川	横濱	收方	八尾	富田	岸和田	堺	茨木	池田	天王寺					
愛甲郡	足柄下郡	足柄上郡	大住郡、滝綾郡	高座郡、鎌倉郡	三浦郡	北多摩郡	南多摩郡	西多摩郡	橋本郡、都筑郡	横濱市、久良岐郡	茨田郡、交野郡、讚良郡	丹北郡、大縣郡、高安郡、若江郡、河内郡、澁川郡	石川郡、安宿郡、錦郡、丹南郡、八上郡、志紀郡、古市郡	南郡、日根郡	堺市、大島郡、泉郡	島上郡、島下郡	豐島郡、能勢郡	東成郡、住吉郡					
庫										兵													
洲本	篠山	柏原	村岡	和田	豐岡	山崎	赤穂	龍野	田原	姫路	加古川	社	明石	三田	伊丹	西宮	神戶	中野					
津名郡	多紀郡	水上郡	七美郡、二方郡	養父郡、朝來郡	城崎郡、美含郡、出石郡、氣多郡	宍粟郡	赤穂郡、佐用郡	揖東郡、揖西郡	神東郡、神西郡	姫路市、飾東郡、飾西郡	加古郡、印南郡	加東郡、加西郡、多可郡	明石郡、美薨郡	有馬郡	川邊郡	菟原郡、武庫郡	神戸市、八部郡	津久井郡					

第四類 第一章 第一款 租稅總則

全大令法本日行現

重															三					奈										
鳥	名	上	宇	相	松	久	津	白	龜	四	大	桑	五	御	三	奈	大	矢												
羽	張	野	治	可	阪	居		子	山	日	泉	名	條	所	輪	瓦	田	板												
答志郡、英虞郡	名張郡、伊賀郡	阿拜郡、山田郡	度會郡	多氣郡	飯高郡、飯野郡	一志郡	津市、安濃郡	菟婁郡、河曲郡	鈴鹿郡	三重郡、朝明郡	員辨郡	桑名郡	宇智郡、吉野郡	高市郡、葛上郡、葛下郡、忍海郡	式上郡、式下郡、宇陀郡、十市郡	添上郡、添下郡、山邊郡、廣瀨郡、平群郡	那須郡	鹽谷郡												
知															愛															
豐	御	新	田	足	舉	岡	西	知	半	津	稻	小	西	勝	熱	名	木	尾												
橋	油	城	口	助	母	崎	尾	立	田	島	澤	折	枇	川	田	古	本	鷲												
渥美郡	寶飯郡	南設樂郡	北設樂郡	東加茂郡	西加茂郡	額田郡	幡豆郡	碧海郡	知多郡	海東郡、海西郡	中島郡	丹羽郡、栗栗郡	西春日井郡	東春日井郡	愛知郡	名古屋市	南牟婁郡	北牟婁郡												

第四類 第一章 第一款 租稅總則

全大令法本日行現

城															茨					葉						
宗	下	江	谷	土	麻	鉾	松	太	菅	笠	水	北	木	大	茂	東	銚	佐								
道	館	戶	田	浦	生	田	原	田	谷	間	戶	條	更	多	原	金	子	原								
結城郡、岡田郡、豐田郡	真壁郡	信太郡、河内郡	筑波郡	新治郡	行方郡	鹿島郡	多賀郡	久慈郡	那珂郡	西茨城郡	水戸市、東茨城郡	安房郡、平郡、朝夷郡、長狹郡	望陀郡、周准郡、天羽郡	夷隅郡	長柄郡、上埴生郡	山邊郡、武射郡	海上郡、匝瑳郡	香取郡								
木										枅					馬					群						
眞	宇	鹿	枅	佐	足	伊	館	桐	太	沼	中	安	富	藤	高	前	取	境								
岡	都	沼	木	野	利	勢	林	生	田	田	ノ	中	岡	岡	崎	橋	手	境								
芳賀郡	河内郡	上都賀郡	下都賀郡	安蘇郡	足利郡、梁田郡	佐位郡、那波郡	邑樂郡	山田郡	新田郡	利根郡、北勢多郡	吾妻郡	碓氷郡	北甘樂郡	綠野郡、多胡郡、南甘樂郡	西群馬郡、片岡郡	東群馬郡、南勢多郡	北相馬郡	西葛飾郡、猿島郡								

第四類 第一章 第一款 租稅總則

全大令法本日行現

長															阜									
須賀川	鹽崎	大町	豊科	松本	福島	飯田	伊那	上諏訪	上田	岩村	白田	高山	中津川	土岐津	御嵩	太田	八幡	上野	武儀郡					
上高井郡	埴科郡、更級郡	北安曇郡	南安曇郡	東筑摩郡	西筑摩郡	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡	小縣郡	北佐久郡	南佐久郡	大野郡、益田郡、吉城郡	蕨那郡	土岐郡	可兒郡	加茂郡	郡上郡							
福					城					宮					野									
須賀川	郡山	二本松	桑折	福島	角田	大河原	石巻	本吉	佐沼	築館	涌谷	古川	吉岡	長町	仙臺	飯山	長野	中野	下高井郡					
岩瀬郡	安根郡	安達郡	伊達郡	信夫郡	伊具郡、亶理郡	柴田郡、刈田郡	牡鹿郡、桃生郡	本吉郡	登米郡	栗原郡	遠田郡	志田郡、玉造郡	黒川郡、加美郡	名取郡	仙臺市、宮城郡	下水内郡	上水内郡							

第四類 第一章 第一款 租稅總則

全大令法本日行現

山										岡										靜				
龍王	畷澤	石和	日下部	甲府	氣賀	濱松	見付	森川	掛波	靜波	藤枝	静岡岡	江尻	吉原	沼津	三島	下田	富岡	八名郡					
中巨摩郡	南巨摩郡、西八代郡	東八代郡	東山梨郡	甲府市、西山梨郡	引佐郡、鹿玉郡	敷知郡、長上郡、濱名郡	磐田郡、豊田郡、山名郡	周智郡	佐野郡、城東郡	榛原郡	志太郡、益津郡	静岡市、有渡郡、安倍郡	庵原郡	富士郡	駿東郡	君澤郡、田方郡	加茂郡、那賀郡							
岐					賀					滋					梨									
北	揖	大	高	高	笠	岐	今	木	長	彦	愛	八	水	草	大	猿	谷	韭	北					
方	斐	垣	田	須	松	阜	津	本	濱	根	知	幡	口	津	津	橋	村	崎	北					
本真郡、席田郡	大野郡、池田郡	安八郡、不破郡	多摩郡、上石津郡	海西郡、下石津郡	羽栗郡、中島郡	岐阜市、厚見郡、各務郡、方縣郡	高島郡	伊香郡、西淺井郡	阪田郡、東淺井郡	犬上郡	神崎郡、愛知郡	蒲生郡	甲賀郡	栗太郡、野洲郡	滋賀郡	北都留郡	南都留郡	北巨摩郡						

第四類 第一章 第一款 租稅總則

現行日本法令大全

非 福														田 秋									
高	雲	敦	朝	武	大	三	福	花	湯	横	大	本	鹿	能	土	秋	米	長					
濱	濱	賀	日	生	野	國	井	輪	澤	手	曲	庄	巢	代	崎	田	澤	井					
大阪郡	遠敷郡	敦賀郡、三方郡	丹生郡	南條郡、今立郡	大野郡	阪井郡	福井市、足羽郡、吉田郡	鹿角郡	雄勝郡	平鹿郡	仙北郡	由利郡	北秋田郡	山本郡	南秋田郡	秋田市、河邊郡	米澤市、南陽郡	西陞賜郡					
取 島							山 富			川 石													
松	二	米	倉	吉	郡	島	出	高	魚	富	飯	輪	七	羽	金	松	小	大					
江	部	子	吉	岡	家	取	町	岡	津	山	田	島	尾	昨	澤	任	松	聖					
松江市、島根郡、秋鹿郡、意宇郡	日野郡	汗入郡、會見郡	河村郡、久米郡、八橋郡	高草郡、氣多郡	八上郡、八束郡、智頭郡	鳥取市、邑美郡、法美郡、岩井郡	磯波郡	高岡市、射水郡	下新川郡	富山市、上新川郡、婦負郡	珠洲郡	鳳至郡	鹿島郡	羽咋郡	金澤市、河北郡	石川郡	能美郡	江沼郡					

第四類 第一章 第一款 租稅總則

現行日本法令大全

手 巖										島									
宮	遠	盛	一	水	花	盛	中	富	平	三	石	白	棚	高	阪	喜	若	田	
古	野		關	澤	卷	岡	村	岡		春	川	河	倉	田	下	方	松	島	
東閉伊郡、中閉伊郡、北閉伊郡	西閉伊郡、南閉伊郡	氣仙郡	西磐井郡、東磐井郡	膽澤郡、江刺郡	稗貫郡、東和賀郡、西和賀郡	盛岡市、南巖手郡、北巖手郡、紫波郡	行方郡、宇多郡	檜葉郡、標葉郡	菊多郡、磐前郡、磐城郡	田村郡	石川郡	西白河郡	東白川郡	大沼郡	河沼郡	耶麻郡	北會津郡	南會津郡	
形 山										森					青				
高	酒	鶴	藤	新	楯	寒	天	山	八	田	七	五	黑	弘	鯉	青	福	久	
畑	田	岡	島	庄	岡	江	童	形	戶	部	戶	所	石	前	少	森	岡	慈	
東磐賜郡	飽海郡	西田川郡	東田川郡	最上郡	北村山郡	西村山郡	東村山郡	山形市、南村山郡	三戶郡	下北郡	上北郡	北津輕郡	南津輕郡	弘前市、中津輕郡	西津輕郡	東津輕郡	二戶郡	南九戶郡、北九戶郡	

第四類 第一章 第一款 租稅總則

現行日本法令大全

和歌山															山口																						
德島	新宮	田邊	御坊	湯淺	橋本	岩田	和歌山	長府	萩	深川	大田	舟木	山口	三田尻	徳山	室積	岩國	屋代	廣島	大東	今市	掛合	大森	川本	濱田	益田	津和野	隱岐島	岡山	金川	本庄	西大寺	味野	倉敷	玉島	笠岡	總社
德島市、名東郡、勝浦郡	東牟婁郡	西牟婁郡	日高郡	有田郡	伊都郡	那賀郡	和歌山市、名草郡、海部郡	赤間關市、豊浦郡	阿武郡、見島郡	大津郡	美禰郡	厚狹郡	吉敷郡	佐波郡	都濃郡	熊毛郡	玖珂郡	大高郡	能義郡	仁多郡、大原郡	出雲郡、楯縫郡、神門郡	飯石郡	遷摩郡、安濃郡	邑智郡	那賀郡	美濃郡	鹿足郡	周吉郡、穩地郡、海士郡、知夫郡	岡山市、御野郡	津高郡、赤阪郡	和氣郡、磐梨郡	邑久郡、上道郡	見島郡	都宇郡、窪屋郡	淺口郡	小田郡、後月郡	下道郡、賀陽郡
愛					川					香					島					德																	
那	久	川	西	今	松	長	土	觀	丸	阪	高	池	脇	川	撫	石	日	富	高	新	久	津	勝	英	弓	廣	吳	廿	可	吉	西	忠	尾	福	府	三	庄
中	万	之	條	治	山	尾	庄	音	龜	出	松	田	町	島	發	井	和	岡	梁	見	世	山	間	田	削	島	島	市	部	田	條	海	道	山	中	次	原
下浮穴郡、伊豫郡	上浮穴郡	宇摩郡	新居郡、周布郡、桑村郡	越智郡、野間郡	松山市、風早郡、和氣郡、温泉郡、久米郡	大内郡、寒川郡、三木郡	小豆郡	三野郡、豊田郡	那珂郡、多度郡	阿野郡、鶴足郡	高松市、山田郡、香川郡	三好郡	美馬郡	阿波郡、麻植郡	板野郡	名西郡	海部郡	那賀郡	上房郡、川上郡	香多郡、阿賀郡	大庭郡、真島郡	西北條郡、西南條郡、東北條郡、東南條郡	勝南郡、勝北郡	英田郡、吉野郡	久米南條郡、久米北條郡	廣島市	安藝郡	佐伯郡	沼田郡、高宮郡、山縣郡	高田郡	加茂郡	豐田郡	御調郡、世羅郡	深津郡、沼隈郡、安那郡	蘆田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡	三次郡、三鷺郡	奴可郡、三上郡、惠蘇郡

第四類 第一章 第一款 租稅總則

現行日本法令大全

岡															根															島														
總社	笠岡	玉島	倉敷	味野	西大寺	本庄	金川	岡山	隱岐島	津和野	益田	濱田	川本	大森	掛合	今市	大東	廣島	廣島	大東	今市	掛合	大森	川本	濱田	益田	津和野	隱岐島	岡山	金川	本庄	西大寺	味野	倉敷	玉島	笠岡	總社							
下道郡、賀陽郡	小田郡、後月郡	淺口郡	都宇郡、窪屋郡	見島郡	邑久郡、上道郡	和氣郡、磐梨郡	津高郡、赤阪郡	岡山市、御野郡	周吉郡、穩地郡、海士郡、知夫郡	鹿足郡	美濃郡	那賀郡	邑智郡	遷摩郡、安濃郡	飯石郡	出雲郡、楯縫郡、神門郡	仁多郡、大原郡	能義郡	上房郡、川上郡	香多郡、阿賀郡	大庭郡、真島郡	西北條郡、西南條郡、東北條郡、東南條郡	勝南郡、勝北郡	英田郡、吉野郡	久米南條郡、久米北條郡	廣島市	安藝郡	佐伯郡	沼田郡、高宮郡、山縣郡	高田郡	加茂郡	豐田郡	御調郡、世羅郡	深津郡、沼隈郡、安那郡	蘆田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡	三次郡、三鷺郡	奴可郡、三上郡、惠蘇郡							
島					廣					山																																		
庄	三	府	福	尾	忠	西	吉	可	廿	吳	廣	弓	英	勝	津	久	新	高	梁	見	世	山	間	田	削	島	島	市	部	田	條	海	道	山	中	次	原							
奴可郡、三上郡、惠蘇郡	三次郡、三鷺郡	蘆田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡	深津郡、沼隈郡、安那郡	御調郡、世羅郡	豐田郡	加茂郡	高田郡	沼田郡、高宮郡、山縣郡	佐伯郡	安藝郡	廣島市	久米南條郡、久米北條郡	英田郡、吉野郡	勝南郡、勝北郡	西北條郡、西南條郡、東北條郡、東南條郡	大庭郡、真島郡	香多郡、阿賀郡	上房郡、川上郡																										

第四類 第一章 第一款 租稅總則

○國稅地方稅區別

明治八年九月
布告第四百十號

從來ノ租稅賦金ヲ國稅府稅ノ二款ニ分テ左ノ通處分係條此旨
布告候事

國稅

全國一般ノ賦課スヘキ分ニシテ大藏省ニ收入シ國費ニ供スル
モノヲ云

府稅(十一年第十九號布告ヲ以テ府縣國民稅)
縣稅(十一年第十九號布告ヲ以テ府縣國民稅)
府稅(十一年第十九號布告ヲ以テ府縣國民稅)
縣稅(十一年第十九號布告ヲ以テ府縣國民稅)

○市制町村制中直接稅間接稅ノ類別

明治二十一年七月
大藏省告示第九十五號

本年法律第一號市制第三百三十一條町村制第三百三十六條直接稅
間接稅ノ類別ハ左ノ諸稅ヲ以テ直接稅トシ其他ハ間接稅トス
但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以
テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示
セシム

國稅

地租 所得稅

府縣稅 (二十五年八月大藏省告示
第三十九號ヲ以テ改正)

地租割 戶數割 家屋稅 營業稅 雜種稅

市町村稅

直接國府縣稅附加稅

段別割

○所有地所在ノ戶長役場所轄内ニ
居住セザルトキ地租地方稅等ヲ

納ムル爲メ代人ヲ定メ戶長役場
ハ屆置方

明治十八年六月
大藏省告示第九號

土地所有者ニシテ其土地所在ノ戶長役場所轄内ニ居住セザル
トキハ地租地方稅備荒儲蓄金區町村費ヲ納ムル爲メ代人ヲ定
メ土地所轄ノ戶長役場ハ屆置カシムヘシ

○租稅官損稟申方

明治二十年五月
大藏省訓令第三十四號

租稅官損稟申方等明治十八年六月第三十四號ヲ以テ相違置候處
更ニ左ノ通改定ス

一 明治十年第七十九號布告ニ據リ內國稅不納者公賣處分ノ末
官損ニ歸シタル金額ハ甲號様式ニ倣ヒ調成シ毎稅納期限後
五十日以内ニ稟申スヘシ

一 前項既往年度ニ屬スルモノハ乙號様式ニ倣ヒ前後半年年度ニ
區分調製シ前半年年度分ハ十月二十日以内後半年年度分ハ翌年
四月二十日以内ニ稟申スヘシ

一 荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或
ハ貸與取調中若クハ水火災ニ罹リ家屋蕩盡シ納期徵稅シ能
ハザルトキ其延期ヲ爲ヌ得ヘシ(二十一年六月九日訓令第三
號ヲ以テ本項ヲ改正ス)
但其延期二箇月以外ニ涉ルモノハ其旨申報ス可シ

○租稅不納者處分規則ニ據リ處分ノ
末官損ニ歸スルモノ取扱方

明治二十一年五月
大藏省訓令第二十六號

租稅不納者處分規則ニ據リ處分ノ末官損ニ歸スルモノハ二十
一年度以降稟申ニ及ハス該金額ハ本年當省訓令第十二號徵稅
額訂正表ヲ以テ減額報告ヲ爲スヘシ

但他ノ事故ノ訂正表ト區別シテ調製スヘシ

○課稅ニ關スル處分ニ付訴方

明治十五年五月
布告第二百二號

課稅ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ
其旨ヲ申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日以
内ニ訴出ツヘシ
但納稅期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至ンハ課額ヲ
上納スヘシ

第二款 租稅徵收

○國稅徵收法

明治二十二年三月
法律第九號

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス

第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付
スルノ義務アルモノトス

前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依
ル

前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付
スヘシ

第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シ

タルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第五條 市町村ハ避クヘカラザル變災ニ罹リ其徵收シタル稅
金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏
大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セザルトキハ別ニ定
ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス

第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ
其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス

第二章 徵收

第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵
收スルトキハ市町村ニ對シ其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ各
納稅人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ(二十二年九月二十一
日法律第二十三號ヲ
以テ)

第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ
各納稅人ニ發スヘシ

第十條 納期アルモノハ別段ノ規定アルモノヲ除ク外該納
期ノ十五日以前納期日ニ涉ルモノハ利 隨時收入ニ係ルモノハ其
納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ

第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ市
町村收入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅
ノ義務ヲ了ルモノトス但町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ收入
役ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

第十二條 市町村長ハ市町村收入役ニ於テ受領シタル稅金ヲ

第八條第二項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ稅金ヲ金庫ニ拂込
ミ其別符附領收證ヲ得テ之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離
及領收證ノ檢印ヲ得テ其納稅義務ヲ了ルモノトス

現行日本法令大全

受取之ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其義務ヲ了ルモノトス

第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ税金ヲ完納セザル者アルトキハ其滞納ノ税目金額及滞納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ

第十四條 納税人他ノ負債ニ依リ身代限リノ處分ヲ受ルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ未ダ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先テ其税金ヲ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テ酒類釀造石稅ニ限リ其課額既ニ定リタル税金ハ未ダ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先テ之ヲ徵收スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ費入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先テ其負債金額ニ充テタル後税金ヲ徵收スヘシ

第十六條 地方稅備蓄金市町村稅ヲ滞納シタル爲メ滞納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ

第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セシメテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ經過スルトキハ納税人ハ其義務ヲ免ル、モノトス

第十八條 納税人法律命令ヲ犯シ脫稅ヲシタル場合ニ於テ其公斷ノ期滿免除ト爲ルトキハ其脫稅金ノ追徵モ亦同時ニ免ル、モノトス

第十九條 國稅期滿免除ノ期限內ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ〔區戶長〕ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

○國稅徵收法施行細則 明治二十三年二月 大藏省令第三號

明治二十二年三月大藏省令第五號國稅徵收法施行細則左之通收正シ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

國稅徵收法施行細則

第一條 徵收法第八條市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號樣式ニ依リ各納税人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ收入官吏ニ達スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ地租船車稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地若クハ船車ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ變異ノ傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 各納税人ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令

現行日本法令大全

書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ税金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號樣式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十三號第十五條及第十六條ニ據リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 各納税人若クハ市町村長ハ税金ヲ金庫ニ納付シタルトキハ即時別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フヘシ

第八條 各納税人若クハ市町村長ヨリ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ請フトキハ收入官吏ハ即時ニ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第九條 收入官吏ハ其切離シタル別符ニ領收證檢印濟ノ年月日ヲ記入シ其傍ニ檢印シ之ニ據リ收入證及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第二號ノ領收證ヲ發シ同時ニ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十一條 收入官吏現金ヲ金庫ニ拂込タルトキハ其別符附領收證ヲ府縣知事ニ送付シ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第十二條 府縣知事ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ヲ記入シ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第十三條 府縣知事ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢シタルトキハ毎月其檢定報告書ヲ翌月七日以内ニ之ヲ

大藏省ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏ハ毎日領收證ヨリ切離シタル別符及拂込額ノ總計金額ト金庫ヨリ毎日報告スル税金領收日計表ノ金額ト照査スヘシ

第十五條 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第四號ニ據リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日マテニ府縣知事ニ送付スヘシ

第十六條 府縣知事ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ヲ取纏メ同式ノ毎月收入集計書ヲ添ヘ收入官吏ヨリ送付スル所ノ收入報告書及收入金月計對照表ヲ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第十七條 收入官吏ハ第五號第六號樣式ニ據リ徵稅簿ヲ備ヘ測定額、收入額、收入未濟額、損額、損額ヲ記載スヘシ

第十八條 收入官吏ニ於テ調製セル收入簿現金出納簿ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第十四號及第十八號ニ依ルヘシ

第十九條 收入官吏ハ第七號樣式ニ據リ各納期後五十日以内ニ收入額、收入未濟額及損額報告書ヲ調製シ府縣知事ニ送付スヘシ

第二十條 府縣知事ハ前條ノ報告書ヲ取纏メ更ニ同式ノ集計報告書ヲ調製シ各納期後六十日以内ニ大藏省ニ送付スヘシ

第二十一條 收入檢定簿、檢定報告書其他事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

第一號樣式

用紙適宜 縱四寸五分 横三寸五分

徵 稅 令 書		第 四 類	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	地 租	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	收 稅 部 何 地 出 張 所		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 何 年 何 月 何 日 限 何 地 金 庫 へ 納 付 ス ヘ シ	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 府 縣 知 事 氏 名	
用 紙 寸 法 同 上			
第 一 號 樣 式		第 二 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	葉 子 稅	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	製 造 稅		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 何 年 何 月 何 日 限 何 地 金 庫 へ 納 付 ス ヘ シ	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 府 縣 知 事 氏 名	
用 紙 寸 法 同 上			
第 一 號 樣 式		第 二 號 樣 式	

納 付 書		證 書	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 分	第 何 號
明 治 何 年 度	地 租	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	收 稅 部 何 地 出 張 所		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 領 收 候 也	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 地 金 庫 印	
用 紙 寸 法 同 上			
第 四 號 樣 式		第 三 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	酒 造 稅	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	釀 造 酒 稅		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 領 收 候 也	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 地 金 庫 印	
用 紙 寸 法 同 上			
第 四 號 樣 式		第 三 號 樣 式	

徵 稅 令 書		第 三 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	酒 造 稅	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	釀 造 酒 稅		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		納 稅 人 數 多 ア リ テ 記 入 シ 能 ハ ヲ ル 時 ハ 令 書 ニ ハ 合 計 ノ ミ テ 記 載 シ 一 人 別 仕 譯 書 テ 添 付 ス ヘ シ	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 府 縣 知 事 氏 名	
用 紙 寸 法 同 上			
第 三 號 樣 式		第 四 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	酒 造 稅	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	釀 造 酒 稅		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 何 年 何 月 何 日 限 何 地 金 庫 へ 納 付 ス ヘ シ	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 府 縣 知 事 氏 名	
用 紙 寸 法 同 上			
第 三 號 樣 式		第 四 號 樣 式	

領 收 證 書		第 四 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 分	第 何 號
明 治 何 年 度	地 租	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	收 稅 部 何 地 出 張 所		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 納 付 候 也	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 郡 何 町 長 氏 名 印	
用 紙 寸 法 同 上			
第 四 號 樣 式		第 三 號 樣 式	
第 何 號	經 常 租 稅	何 郡 何 町 長 氏 名 納	第 何 號
明 治 何 年 度	酒 造 稅	明 治 何 年 第 何 期 分	明 治 何 年 度
收 入 官 吏 官 氏 名 振	釀 造 酒 稅		收 入 官 吏 官 氏 名 振
一 金 何 程		右 領 收 候 也	
明 治 何 年 何 月 何 日		何 地 金 庫 印	
用 紙 寸 法 同 上			
第 四 號 樣 式		第 三 號 樣 式	

現 行 日 本 法 令 大 全

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

六百三十四

記簿凡例
 一 收入官吏ハ府縣知事ヨリ納額ノ違ヲ受ケタルトキハ其納額ヲ一市町村毎ニ第五號ノ帳簿ヘ④印ノ如ク記載シ其増額ハ⑤印ノ如ク記載シ其減額ハ⑥印ノ如ク記載スルモノトス
 二 税金收入済ニ至リ納税人ニ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ之ヲ納額ニ照合シ⑦印ノ如ク記載シ其殘高ヲ⑧印

ノ如ク掲記スルモノトス
 三 滞納處分ノ未追徴シタル税金ハ⑨印ノ如ク記入シ其缺損ヲ生セシモノハ⑩印ノ如ク掲載スルモノトス
 四 隨時收入ニ係ル各納税人別ノ納額ノ通知ヲ受ケタルトキハ第六號帳簿ヘ④印ノ如ク記載シ税金收入済ニ至リ檢印ヲ與ヘ別符ヲ切離シタルトキハ⑤印ノ如ク記載スルモノトス

第五號様式

何年度畑租

徵 稅 簿

(此帳簿ハ目限リ納期毎ニ調製スヘシ)

年 月 日	摘 要	調 定 額	減 額	額 收 入	額 缺 損	未 済
六月十五日	納額ノ違ヲ受ク	① 三千圓				② 三千圓
七月三十日	領收證檢印			③ 五百圓		④ 貳千五百圓
八月十日	同			⑤ 千圓		⑥ 千五百圓
八月二十一日	何々ニ依リ減		⑦ 百圓			⑧ 千四百圓
九月一日	領收證檢印			⑨ 千四百圓		完 結

應 名

何 郡 甲 村

現 行 日 本 法 令 大 全

第六號様式

何年度何稅(隨時收入)

徵 稅 簿

(此帳簿ハ目限リ半年毎ニ調製スヘシ)

年 月 日	摘 要	調 定 額	減 額	額 收 入	額 缺 損	未 済
六月十五日	納額ノ違ヲ受ク	① 千五百圓				② 千五百圓
八月三十一日	領收證檢印			③ 千圓		④ 五百圓
八月三十一日	何々ニ依リ増額ノ分納額ノ違ヲ受ク	⑤ 百圓				⑥ 六百圓
九月二日	領收證檢印			⑦ 四百圓		⑧ 二百圓
九月二十日	滞納處分ノ未追徴			⑨ 百圓		⑩ 百圓
九月二十日	同上缺損				⑪ 百圓	完 結

應 名

何 郡 乙 村

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

六百三十五

一 船車檢印ニ關スル事項
 一 諸印紙賣下ニ關スル事項
 一 市ノ國稅徵收ニ關スル事項
 一 國稅徵收法第十一條第十二條中收入官吏ノ職務ニ關スル事項

○市町村ノ徵收スル國稅 明治二十二年三月勅令第三十三號
 朕市町村長ヲシテ國稅ノ徵收ヲ爲サシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲グル國稅ハ明治二十二年三月法律第九號國稅徵收法第三條第一項ニ依リ市町村之ヲ徵收スヘシ但菓子稅以下六項ハ隨時收入ニ係ルモノヲ除ク(二十三年勅令第十七號ヲ以テ)

一 所得稅
 一 酒造稅則附則自家用料酒酒糶札料
 一 菓子稅中製造稅、製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅
 一 煙草稅中製造營業稅、仲買營業稅、小賣營業稅
 一 賣藥稅中營業稅
 一 船稅
 一 車稅
 一 牛馬賣買免許稅
 一 銃獵免許稅

○北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收方 明治二十三年二月法律第四號
 朕北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼(東京府管轄小笠原ニハ明治二十二年三月法律第九號國稅徵收法中第六條第七條第十條第十四條乃至第十九條ノ外他ノ條項ヲ施行セス此法律ニ據リ國稅ヲ徵收ス)
 第二條 北海道ニ於テハ水產稅ハ郡區長ヨリ水產物營業人組合ニ對シ其他ノ國稅ハ郡區長ヨリ戶長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ
 町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島司ヨリ戶長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ
 第三條 水產物營業人組合ハ其組合中ノ水產稅ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付スヘシ
 第四條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發スヘシ
 第五條 各納稅人ハ稅金ヲ戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ
 第六條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ其領收シタル稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ
 第七條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滞納ノ稅目金額及滞納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ
 第八條 戶長ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ
 水產物營業人組合ハ過誤怠慢ニ依リ其取纏メタル稅金ヲ亡

失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第九條 戶長又ハ水產物營業人組合ハ避クヘカヲサル變災ニ罹リ稅金ヲ亡失シタルトキハ北海道廳長官若クハ縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收手續 明治二十三年三月大藏省訓令第二十號

北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徵收ノ手續ハ左ノ各項ノ外明治二十三年大藏省令第三號國稅徵收法施行細則ニ準據取扱フヘシ

一 收入官吏現金ヲ領收シ之ヲ金庫ニ拂込タルトキハ其別符付領收證ヲ島司又ハ郡區長ニ送付シ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

一 島司又ハ郡區長ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ニ記入シ領收證ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

一 島司又ハ郡區長ニ於テ前項ノ領收證ヲ檢シタルトキハ毎月檢定報告書ヲ製シ翌月七日以内ニ之ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ

一 北海道廳長官府縣知事ハ前項ノ報告書ヲ取纏メ其月十五日以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

一 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第四號ニ依リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日マテニ島司郡區長ヲ經テ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ

一 收入官吏ハ明治二十三年大藏省令第三號書式第七號ニ據リ

收入額收入未濟額及缺損額報告書ヲ調製シ各納期後五十日以内ニ島司又ハ郡區長ヲ經テ北海道廳長官府縣知事ニ送付スヘシ

○沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收 明治二十二年十二月勅令第四十一號
 朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納稅人ハ稅金(沖繩縣酒類出港稅ヲ除ク)ヲ金庫ニ拂込ミ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條 國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

○國稅徵收法施行細則附屬徵稅令書及納付書樣式中記名心得方 明治二十三年四月大藏省訓令第六十五號

明治二十三年二月大藏省令第三號國稅徵收法施行細則附屬徵稅令書及納付書樣式中ニ取扱主任ノ收入官吏官氏名ヲ記入スヘキ儀規定シ有之候處右ハ其取扱應ノ便宜ニ從ヒ同時ニ二名ノ收入官吏ヲ置ク場合ニ於テハ連帶責任ノ趣旨ヲ以テ右徵稅

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

六百四十一

令書及ヒ納付書ニモ二名ノ收入官吏ヲ連署スヘキ筈ニ付金庫ニ於テ收入官吏毎ニ區分スヘキ帳簿ニハ總テ其連署セル二名ヲ以テ一口座トナシ税金領收日計表歳入金月計對照表ヲモ連署セル二名ノ收入官吏ニ宛テ差出シ而シテ月計對照表ニ證明ヲ受クルニモ亦連署セル二名ノ收入官吏ノ證明ヲ受クル儀ト心得ヘシ

但シ本文二名ノ收入官吏連署責任ノ場合ニ於テ其一名交替セシトキハ他ノ一名モ同時ニ交替セシモノト見做シ其都度帳簿上新ニ口座ヲ設ケテ記帳シ月計對照表等モ同様新規ニ調製シ前月ノ累計等ハ掲ケサル儀ト心得ヘシ

○國稅收入官吏二名ヲ置キタルトキ
徵稅令書納付書及現金拂込書ニ記名方
明治二十三年四月
大藏省訓令第六十七號

國稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヲ一箇所ニ二名ヲ置キタル地方ニ於テハ其徵稅令書及ヒ納付書中ニ其二入ノ官氏名ヲ記載シ收入官吏現金拂込書ハ其二名ヲシテ連署セシムヘシ

○徵稅額表及歳入報告書訂正追加手續
明治十九年十月
大藏省訓令第四十九號

歳入取扱順序第三條第四條及第二十四條ニ係ル徵稅額表及歳入報告書ノ訂正及追加スヘキモノアルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一歳入徵稅額表及歳入報告書ノ誤記訂正方ハ別紙書式ニ據リ開申スヘシ(但別紙ハ主計局ヨリ送付ス)(別紙)

一同上ノ追加報告ニ係ルモノハ第十八號及第二十號書式ニ據

リ何年度第何號徵稅額表追加及何年度何月分第何號歳入報告書追加ト表記スヘシ

○歳入徵稅令書納額告知書歳出支拂案内書等誤記訂正方
明治二十一年三月
大藏省訓令第十一號

歳入歳出納規則ニ據リ發行スル歳入徵稅令書納額告知書若シクハ歳出支拂案内書等ニ目ノミテ誤記シタル場合ニ於テハ來ル二十一年四月以降其訂正方ヲ金庫ニ請求スルニ不及但歳入歳出報告書ノ儀ハ右ノ場合ニ於テ從前ノ通り夫々訂正スル儀ト心得ヘシ

○市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業鑑札訂正方
明治二十二年三月
大藏省訓令第九號

市町村制施行ノ爲メ國稅諸規則ニ關スル營業其他ノ鑑札ニ異動ヲ生シタルモノハ朱書訂正ニ止メ書換ヲ爲スニ及ハス尤モ稅務取扱上差支無之モノハ其鑑據置市町村改正事務ノ都合ヲ見計ラヒ漸次ニ訂正スヘキ義ト心得ヘシ但訂正スルモノハ鑑札料ヲ徵收スヘカラス

○郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式ヲ定ム
明治十九年四月
大藏省訓令第十四號

郡區役所戸長役場租稅徵收ニ關スル帳簿式別冊ノ通之ヲ定メ明治十七年當省第六十三號達諸帳簿式ハ自今廢止ス但帳簿式ハ別冊ニ之ヲ送付ス(別冊略ス)

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

六百四十一

○現納金下戻計算書金庫名記入方
明治二十年六月
大藏省訓令第四十七號

年度内ニ係ル既納歳入金下戻計算書ヘ記載スル現金支出場所ハ彙ニ納入シタル金庫名ヲ記載スヘシ

○地方長官ヨリ郡長ニ委任シタル條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徵收額告知書發付方心得
明治十九年十一月
大藏省訓令第五十五號

北海道廳長官府縣知事ヨリ郡區長ニ委任シタル事務條件ニ附帶スル第二部歳入ノ徵收ハ郡區役所會計主任ノ書記ヲシテ額告知書ヲ發シシムルコトヲ得ル儀ト心得ヘシ

○歳入徵稅令書及歳入報告書收納區分記載方
明治二十年一月
大藏省訓令第一號

第一部歳入徵稅令書徵稅額表及第一部歳入報告書ニ收納區分記載等ノ儀左ノ通心得取扱ヘシ

一徵稅令書書式中明治何年第何期分トアル欄内ニ記載スヘキ收納區分ハ別表ニ據リ之ヲ記載スヘシ

一徵稅額表及歳入報告書ニ收納區分ヲ記載スルニハ前項徵稅令書ニ記載ノモノト同一ナルヘシ

一新規營業等ニテ豫定納規格外隨時收入ニ係ルモノト雖モ別表收納區分ニ據リ記載シ徵稅令書ヲ發シシ年度ニ編入整理スヘシ

一前項新規收入ニ係ルモノヲ徵稅額表及ヒ歳入報告書ニ編入シタルトキハ摘要欄内ニ新規トシテ其金員ヲ附記スヘシ

一廢業等ニテ豫定納規格外隨時收入ニ係ルモノハ其現收スヘキ當該期ノハ其月數ヲ據ヘシテ記載シ徵稅令書ヲ發シシ年度ニ編入整理スヘシ

但酒造稅ニ於テ十月ヨリ翌年三月マテ醬油稅菓子稅ニ於テ一月ヨリ三月マテニ廢業セシモノニ係ル收入ハ前年ノ末期分ヘ編入整理スヘシ

一土地買上等ニヨリ月割ヲ以テ收入スヘキモノハ其月數ヲ徵稅令書ヘ記載シ市街宅地租ハ當該納期ニ編入其他ハ最近ノ期租ヲ收入スルトキハ第三期ヘ編入一期ニ編入整理スヘシ

但一月ヨリ三月マテニ屬スル地租ヲ出納開始以前ニ收入スヘキ場合ニ於テハ田租ハ前年ノ第五期市街宅地租ハ前年ノ後半分ヘ畑租ノ類ハ前年ノ第二期ヘ編入整理スヘシ

一過年度ニ屬スル收入ハ徵稅令書ヘ所屬曆年ヲ記載シ其徵稅令書ヲ發シシ年度ヘ編入整理スヘシ

項		目		收納區分	
地	租田	畑	村宅地	何年第一期	同 第四期
		鹽	泉	同 第二期	
		池	沼	同 第三期	
		山	野	同 第二期	
租	同	同	同	同	同

全大令法本日行現

Table with 12 columns: 鹽麴營業稅, 酒造稅, 株式取引所稅, 米商會所稅, 北海道物產稅, 訴訟用印紙料, 證券印稅, 國立銀行稅, 市街宅地租, 延納年賦, 地券印稅, 證券印稅. Includes sub-categories like 酒造免許稅, 釀造酒稅, 再製酒稅, 漁業探藻營業稅, 海魚介稅, 小切手押印稅, 手形用紙稅, 同前半年分, 同後半年分, 同第一期, 同第二期, 同第三期.

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

全大令法本日行現

Table with 4 columns: 車稅, 度量衡稅, 牛馬賣買免許稅, 銃獵免許稅. Includes sub-categories like 馬力車稅, 荷牛車稅, 牛馬賣買免許稅, 銃獵免許稅. Includes text: 租稅檢查員ニ各派出所所在勤ヲ命セシム, 租稅檢查員ノ備來五月一日以降各派出所所在勤ヲ命スヘシ.

○島廳、郡區役所ニ於ケル印紙類、國稅ニ關スル鑑札ノ出納命令官及會計監督主任、會計官吏充用方
明治二十二年六月
大藏省訓令第六十一號

第四類 第一章 第二款 租稅徵收

Table with 12 columns: 醬油稅, 菓子稅, 煙草稅, 賣藥稅, 船稅. Includes sub-categories like 營業稅, 製造稅, 仕入鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料, 營業鑑札料.

島廳又ハ郡區役所ニ於テハ明治二十二年八月大藏省訓令第五十八號ノ印紙類並ニ國稅ニ關スル鑑札ノ出納命令官及ヒ其會計監督主任ハ島司又ハ郡區長ヲ以テ之ニ充テ其會計官吏ハ屬若クハ郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ
○內國稅徵收費所屬經費ニ係ル官吏任命方
明治二十三年四月
大藏省訓令第五十五號
明治二十三年度以降內國稅徵收費所屬經費ニ係ル明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十七條ノ檢査官吏及第百條第一項第二項ノ場合ニ要スル官吏ハ仕拂命令被任者ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得

○他廳ノ委託ヲ受ケ租稅ヲ徵收スルトキ其徵稅令書及納付書ニ捺印方
明治二十二年六月
大藏省訓令第三十九號
他廳ノ委託ヲ受ケ租稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其徵稅令書及納付書ニ「某廳主管」ノ印ヲ捺捺スヘシ
○市町村徵收ノ國稅ハ一人別徵稅元帳ヲ備置キ其手續ヲ爲サシム
明治二十二年五月
大藏省訓令第三十八號
明治二十二年三月勅令第三十三號ニ依リ市町村ヲシテ徵收セシムル國稅ハ市町村ニ於テ適宜一人別徵稅元帳ヲ備ヘ置之ニ據リ徵收ノ手續ヲ爲サシムヘシ
但所得稅菓子稅及ヒ隨時收入ノ諸稅ヲ除ク外一人別ノ賦稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々市町村ヘ達スヘシ

○徵稅令書ヲ受ケタル納税人
期限内ニ分納方

本年三法律第九號國稅徵收法第八條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納税人若シ其納期限以内ニ於テ分納セントスルトキハ本年三大藏省令第五號國稅徵收法施行細則第四條第四號様式ニ準シテ納付書ヲ添付シテ金庫ヘ納付シ其別符ノ切離及ヒ領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フコトヲ得

○税金分納ノトキ手續

明治二十二年四月當省訓令第三十一號ニ依リ各納税人ヨリ税金ヲ分納スルトキハ右ニ關スル徵稅令書ヲ添付セシムヘシ金庫ニ於テハ該令書ノ納期日ヲ認メ納期日以内ニアリテハ納付書ニ依リ現金ヲ領收シ該令書ハ納入ニ返付スヘシ

○金庫局及國庫金出納所ニ雜部預入
レノ各廳官吏取扱金整理順序中心
得方

本年三六藏省訓令第二十六號第三條各廳ヘノ納入直納金ニシテ金庫ノ預リ證書ヲ未タ納入ヨリ差出サ、ル前ト雖モ各廳ニ於テ金庫ノ通知書乙ヲ受入レアル分ハ其通知書ヲ同訓令第三條ノ引繼手續ヲ以テ會計法規ニ據リ定ムル處ノ收入官吏ヘ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ
但本年當省訓令第二十六號第三條中領收證書トアルハ預リ證書ノコト、知ルヘシ

○市町村徵收ノ國稅納期ヲ過キ
督促令狀發付前ニ其滞納税金
上納ノトキ取扱方

納付書 領收書 右納付候也 明治何年何月何日 住所 氏名 第何號 經常 租稅 住所 氏名 明治何年度 項 目 明治何年 第何期分 收入官吏官氏名扱 收稅部何地出張所 一金何程

右領收候也

明治何年何月何日 何地金庫印 第何號 經常 租稅 住所 氏名 明治何年度 項 目 明治何年 第何期分 收入官吏官氏名扱 收稅部何地出張所 一金何程 明治何年何月何日何地金庫ヘ納付

乙號 收稅部何地出張所 收入官吏官氏名承認檢印

○納期後督促令狀發付前國稅
上納セントスル者アルトキ取扱
方

納税人ニ對シ直ニ徵稅令書ヲ發シ徵收スヘキ國稅ニシテ其令書ノ發付ヲ受ク納期經過後督促令狀發付以前ニ於テ該税金ヲ上納セントスル者アルトキハ本年三月當省訓令第四十三號乙

號式ニ倣ヒ收入官吏ニ於テ其徵稅令書ヘ裏書ヲ爲シ税金ハ本人ヲシテ直ニ金庫ヘ納付セシメ其領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ請ハシムヘシ

○國稅金ノ内金庫ヘ納付後其徵稅
令書及納付書ノ誤記發見ノトキ
訂正方

國稅金ノ内金庫ヘ納付後ニ於テ其徵稅令書ヘ記載ノ年度科目項以ノ誤記ヲ發見スルトキハ府縣知事若シハ郡長ヨリ之カ訂正ヲ金庫ヘ照會スヘシ其納付書ノ誤記ニ係ルモノハ之ヲ納付セシ者ヨリ金庫ヘ訂正ヲ請求スヘシ

○戶長ニ於テ税金分納ノトキ徵稅令
書ヲ亡失シタル場合ニ於テ取扱
方

歲入取扱順序第六十一條ニ據リ戶長ニ於テ税金ヲ分納スルトキ事故アリテ徵稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ左ノ通取扱フヘシ
一 水火災盜難等ニ罹リ徵稅令書ヲ亡失シタルトキハ戶長ハ其事由ヲ具シテ郡區長ニ開申スヘシ
一 郡區長ハ前項ノ開申ヲ得ルトキハ未納殘額ヲ取調ヘ其殘額ノ徵稅令書ヲ發スヘシ
一 前項未納殘額ノ徵稅令書ハ金額ノ右側ニ左ノ如ク記載スヘシ
金何圓何錢ノ内未納殘

○租稅徵收取扱收入官吏提出ノ
 計算書下検査委任方 明治二十四年五月
 大藏省訓令第百四十五號
 租稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヨリ提出スル會計規則第九十五
 條第九十七條第九十九條ノ計算書下検査ハ自今北海道廳長官
 府縣知事ニ委任ス

○内國稅未納追徵整理順序

明治十九年七月
 大藏省訓令第百三十三號

内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年九月第五十九號及
 十七年七月第五十七號當省達ハ廢止ス
 但甲乙號樣式ハ別ニ之ヲ送付ス(甲乙號樣式密ス)

内國稅未納追徵整理順序

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ甲號樣式ノ如ク内國稅未納
 臺帳ヲ調製スヘシ
 第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日マテニ徵
 收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ臺帳ニ登記ス
 ヘシ但後日追徵シタルトキハ其時々臺帳ヘ記載スヘシ
 第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財產ノ所在
 不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ年々未納臺帳
 へ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキ
 ハ未納ニ係ル毎期ノ税金追徵スヘシ但未納ノ當初ヨリ滿三
 十年ヲ經過シ尙完結セサルモノハ其際更ニ處分方稟議スヘ
 シ
 第四條 北海道廳長官府縣知事ハ每年度ノ末ニ於テ乙號書式

ノ如ク既往年度未納殘高仕譯書ヲ製シ四月三十日限リ大藏
 省ヘ送付スヘシ
 第五條 北海道廳長官府縣知事ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他
 管ヘ移住送籍スルトキハ不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管應ヘ
 引繼テナシ同時ニ大藏省ヘ報告スヘシ
 第六條 前條引繼ヲ受ケタル管應ニ於テハ之ヲ臺帳ニ記入シ
 追徵ノ手續ヲ爲スヘシ

○内國稅未納追徵整理順序樣式

明治二十一年二月
 大藏省訓令第百七號

凡例中ヲ改正ス

十九年七月訓令第三十三號内國稅未納追徵整理順序甲乙號樣式
 凡例中左ノ通り改正ス
 甲號樣式凡例第二項

一 追徵處分ノ未官損ニ歸セシモノハ其徵稅令書ヲ發セシ年
 度ノ臺帳ヘ記入スルモノトス但徵稅令書ヲ發セサルモノ
 ハ其指令三月三十一日已前ニ係ルモノハ該當年度四月一
 日已降ニ係ルモノハ翌年度ノ臺帳ヘ記入ス
 乙號樣式凡例第三項

一 未納減額ノ内官損及缺損額並追納額ハ本年度未納臺帳ニ
 登記セシ金額ヲ記入ス

○租稅收入證明規程(租稅調定ニ
 關スル證憑書類調理順序

明治二十三年八月
 大藏省訓令第百二十四號

租稅收入證明規程及租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序會
 計検査院ニ於テ左ノ通之ヲ定ム此旨心得ヘシ

但本年當省第百二號訓令收入官吏交替ノトキ證明スヘキ計
 算書ノ内租稅ニ關スル分ハ自今總テ此規程ニ準據スヘシ
 計算書及ヒ明細書樣式ハ主稅局ヨリ別ニ之ヲ頒ツ

租稅收入證明規程

第一條 會計規則ニ據リ收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算
 書現金出納計算書ハ第一號及第二號書式ニ依リ之ヲ調製ス
 ヘシ
 第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官
 吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏
 ノ計算額ヲ併算スヘシ
 第三條 租稅收入未済ノモノ又ハ滯納處分ヲ爲セシモノアル
 トキハ第三號及第四號書式ニ依リ其明細書ヲ調製シ租稅收
 入計算書ニ添付スヘシ
 第四條 前年度ニ於テ證明濟ニ係ル繰越未收入額ニ異動ヲ生
 シタルモノアルトキハ租稅收入計算書ニハ其修正額額ヲ登
 記シ別ニ其明細書ヲ調製添付スヘシ
 第五條 國稅滯納處分法第十一條ニ據リ管轄地外ノ收入官吏
 ニ於テ滯納處分ヲ爲セシモノアルトキハ受託收入官吏ハ第
 四號書式ニ依ヒ適宜其明細書ヲ調製シ他ノ書類ト共ニ囑托
 收入官吏ニ送致シ囑托收入官吏ハ一般租稅收入計算書ト共
 ニ證明スヘシ
 第六條 國稅滯納處分法ニ據リ滯納處分ヲ爲セシモノアルト
 キハ左ノ書類ヲ滯納處分明細書ト共ニ提出スヘシ
 一 財產賣却調書
 二 債主又ハ滯納者ヘ交付金額收書

三 國稅滯納者ノ財產其處分費ヲ償フテ過剩ヲ得ル見込ナ
 シ國稅滯納處分法第五條ニ據リ直ニ缺損處分ヲ爲シタ
 ルモノアルトキハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ事實ヲ認
 メタル保證書
 第七條 現金出納計算書ニハ金庫ノ領收證書ヲ添付スヘシ
 前項ノ領收證書ハ其所屬年度ニ依リ區分編纂スヘシ
 第八條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期日内ニ
 其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但運輸不便又ハ遠
 隔ノ地ニアル收入官吏ノ計算書ニシテ其期限ニ依リ難キモ
 ノハ豫メ其事由ヲ具シ會計検査院ノ承認ヲ受クヘシ
 一 租稅收入計算書ハ翌年度十二月二十五日以内
 二 現金出納計算書ハ翌年度七月二十五日以内
 第九條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載ス
 ヘシ

一 計算書明細書其他證憑書類ノ件名册數
 二 租稅收入計算書ハ收入簿ト現金出納計算書ハ現金出納
 簿ト符合ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實施
 行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書
 ヲ以テスルコトヲ得
 三 計數正確ノ保證
 四 法律命令ニ背戻シ又ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項
 ノ金額事由
 五 證憑書類中必要ノモノニシテ検査結了ノ上返付ヲ要ス
 ル書類ノ件名
 第十條 收入官吏ニ對スル審理書及其答辯書ハ總テ下検査官
 吏ヲ經由スヘシ

第十一條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅ノ證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序

第一條 北海道廳長官及ヒ府縣知事ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ毎會計年度租稅調定額明細書過誤納額明細書荒地低價地及開墾地下期地明細書ヲ調製シ毎年度經過後七箇月以內ニ大藏省ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第二條 租稅調定ニ關スル證憑書類ハ第三條以下各條ニ依リ之ヲ調理スヘシ其提出ヲ要スルモノハ毎年度豫メ會計検査院ニ於テ之ヲ指定ス

第三條 地租ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 官有地ヲ民有地ト爲セシモノアルトキハ土地登記規則第三條ニ依リ登記所ヨリ送致セル土地所有移轉ノ通知書及地價檢定ニ係ル指令原證書

二 免租地ヲ有租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原證書及ヒ地價檢定ニ係ル指令原證書

三 地目變換開墾地下期期明又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノアルトキハ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ年度ニ於テ地價檢定ニ係ル指令原證書

四 荒地成若クハ有租地ヲ免租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原證書

五 民有地ヲ官有地ト爲セシモノアルトキハ登記所ノ通知書

六 低價年期明又ハ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復シ若クハ他ノ地目ニ變シタルモノアルトキハ地價檢定ニ係

ル指令原證書

七 延納年賦額ノ増減アルトキハ主管廳ノ認許書其應限リノ處分ニ係ルモノニハ其決議書類

一時上納ニ對シテハ其決議書類

八 地盤丈量誤認訂正其他ノ原由ニテ物件稅額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其證憑書類ハ前各項ノ規定ニ準據スヘシ

第四條 所得稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 調査委員會ノ決議書但所得稅法第二十九條但書ニ該當スル北海道及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ其上官ノ査定書

二 府縣知事郡長ニ於テ調査委員會ノ決議ニ對シ意見アルトキ若クハ納稅者ニ於テ等級金額ヲ不當トシ所得稅法第二十條ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲セシモノアルトキハ府縣常置委員會ノ決議書

三 納稅者其納期以前ニ於テ所得金額十分ノ五以上ヲ減損シ所得稅法第二十三條ニ依リ稅額ヲ輕減又ハ免除セシモノアルトキハ其所得金額減損事由書

四 納稅者他管ヘ轉居セシモノアルトキハ其年月氏名轉居地名及ヒ所得金額稅額ヲ詳悉セル事由書

第五條 酒造稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 酒類造石稅ニハ造石檢査簿若シ造石稅免除ニ係ルモノアルトキハ其理由調書此理由書ニハ納稅簿ト納稅未済ニ關スル區別ヲモトメ亦明瞭ナラシムヘシ

二 酒造免稅稅ニハ酒造營業人ノ出願書但前期限リ廢業セシモノアルトキハ其屆書

三 自家用料酒酒類料ニハ其製造者ノ屆書

第六條 醬麴營業稅ニ關スル證憑書類ハ該營業人ノ出願書トス

第七條 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅船稅車稅牛馬賣買免稅稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅ノ新規營業稅ニハ其出願書但菓子營業稅ニハ尙ホ雇人ノ員數氏名屆書ヲ要ス

二 烟草稅菓子稅賣藥稅ノ鑑札料ニハ其出願書

三 醬油造石稅ハ第五條酒類造石稅ニ同シ

四 菓子製造稅ニハ賣上金高屆書

五 船稅車稅牛馬賣買免稅稅ニハ其出願書但船稅ニ於テハ船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタルモノアルトキハ其鑑札ノ引換願書

六 廢業又ハ船車ノ破解若クハ他管ヨリ轉入ノモノニハ各其屆書他管ヘ轉出ノモノニハ轉入先ヨリ送致セル編入濟ノ報告書

第八條 米商會所稅株式取引所稅ニ關スル證憑書類ハ各會所ヨリ送致セル納稅仕帳トス

第九條 度量衡稅ニ關スル證憑書類ハ其製作受負人ヨリ差出シタル調書トス

第十條 銃獵免許稅ニ關スル證憑書類ハ其出願書トス但東京府ハ警視廳ノ通知書

第十一條 租稅期滿免除ニ係ルモノアルトキハ租稅調定額明細書ノ備考ニ其金額事由ヲ記載スヘシ若シ事ノ複雜ニ涉ルモノアルトキハ別ニ其說明書ヲ添付ス可シ

第十二條 證憑書類ノ編纂ハ收稅部出張所毎ニ各目ニ區分シ

(各目ヲ合セテ簿冊ヲ成セシモノハ區分ヲ要セス)其枚數ヲ表記シ尙ホ細別ヲ要スルモノアルトキハ適宜區分スヘシ地租ニ關スル證憑書類ハ有租地成地目變換等ノ區分ヲ以テ適宜之ヲ編纂スヘシ

第十三條 第二條ニ據リ提出セシ證憑書類中返附ヲ要スルモノアル時ハ其提出ノ際會計検査院ニ請求スヘシ

第十四條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅調定ニ關スル證憑書類調理順序ハ別ニ之ヲ定ム

租稅收入證明規程中ノ保證書調製送付方

○租稅收入證明規程中ノ保證書調製送付方 明治二十三年八月 大藏省訓令第三百二十五號

內國稅徵收費所屬物品會計規程

○內國稅徵收費所屬物品會計規程 明治二十五年六月 大藏省訓令第三十七號

內國稅徵收費所屬物品出納規程

第一條 內國稅徵收費所屬ノ物品ハ總テ此規程ニ從フ

第二條 物品出納ノ命令ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏之ヲ行フヘシ

第三條 直稅署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トシ物品ノ保管及之レカ出納ヲ爲サシムヘシ但豫備ノ物品ヲ貯藏スル直稅分

現行日本法令大全

署間稅分署ニ在テハ直稅分署收稅屬若クハ間稅分署收稅屬ヲ以テ物品會計官吏トナスヘシ

第四條 消耗品中日常必要ノモノハ一箇月以內ノ期限ヲ定メ需用概算高ヲ以テ支拂フコトヲ得但概算渡ノ物品ハ遺摺精算ヲ爲サシムヘシ

第五條 物品ヲ大別シテ左ノ二類トス

第一類 器具器械備品及第二類ニ屬セザル物品

第二類 消耗品

第六條 物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ整理スヘシ但帳簿ノ様式ハ府縣知事適宜之ヲ定ムヘシ

第一類 物品出納簿

第二類 物品出納簿

第七條 前條帳簿ノ外別ニ補助簿ヲ備フルハ便宜ニ任ス

第八條 物品會計官吏ハ府縣知事ノ定メタル期限ニ於テ帳簿ト現品トノ照合ヲ爲スヘシ

第九條 物品ノ購入及賣却ハ會計法及會計規則ノ定ムル所ニ從ヒ府縣知事之ヲ處理スヘシ但便宜他ノ官吏ニ委任シテ處理セシムルコトヲ得

第十條 官吏以下職務上必要ノ物品ハ府縣知事豫メ其品類及買數ヲ定メテ之ヲ使用セシムヘシ

第十一條 官吏以下專用ノ物品ハ各專用者共用ノ物品ハ別ニ主任ヲ定メ保管ノ責ニ任セシメ物品會計官吏之ヲ監督スヘシ

第十二條 凡ソ故意怠惰ニ由リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其者ヲシテ物品又ハ代價ヲ以テ償辨セシムヘシ

物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出ザルコトヲ認知シ難キ場合

ニ於テハ其保管者辨償ノ責ニ任スヘシ但避クヘカラサル理由アルトキハ此限リニアラス

第十三條 府縣知事ハ臨時委員ヲ命シ貯藏及使用中ノ物品ヲ檢閲セシムヘシ

第十四條 物品會計規則第十五條ノ物品出納計算書ハ翌年度七月十五日限リ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十五條 前條ノ計算書ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受タル官吏ニ於テ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シ期限內ニ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十六條 物品會計規則第十一條ノ檢査官吏及第十三條ノ立會人ハ府縣知事之ヲ命スヘシ

第十七條 物品會計規則第十五條第二項但書ノ計算書ハ府縣知事他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十八條 物品出納命令ノ規程及使用中又ハ概算渡ヲ爲シタル物品ノ取扱ニ關スル處務順序ハ府縣知事之ヲ定メ大藏省ヘ申報スヘシ

○鑑札用品出納順序 明治二十三年五月 大藏省訓令第八十五號

大藏省所管國稅ニ關スル鑑札用品出納順序左ノ通相定メ本年六月一日ヨリ施行ス

但從前ノ訓令又ハ指令中此順序ニ抵觸スルモノハ同日ヨリ廢止ス

鑑札用品出納規程

第一條 鑑札用品ハ消耗品ノ一部トシ各地方長官ノ分任代理官ノ命令ニ由リ本廳屬ヲシテ之ヲ出納セシムヘシ

現行日本法令大全

第二條 鑑札用品ハ毎年三月及ヒ九月兩度ニ豫算ヲ以テ各地方收稅部出張所長又ハ島司郡長ヨリ地方長官ノ分任代理官ニ請求スヘシ但臨時必要アル場合ニ於テハ隨時之ヲ請求スヘシ

第三條 前條鑑札用品ノ配付ハ鑑札下付主任官吏之ヲ收受シ其種類買數ヲ記載セル領收證書ヲ製シ會計官吏ニ差出スヘシ

第四條 各收稅部出張所又ハ島廳郡役所ニ於テ直チニ製造シ又ハ買入ル、所ノ鑑札用品ト雖トモ其出納上ニ於テハ第二條第三條ノ式ヲ遵フヘシ

第五條 鑑札用品ノ支出ハ其請求書ニ命令官認印ヲ捺捺スルヲ以テ命令ト做ス

鑑札用品ハ會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ以テ出トシ鑑札下付主任官ノ領收證書ヲ以テ其支出ヲ完結スルモノトス

第六條 會計官吏及ヒ鑑札下付主任官吏ハ消耗品出納簿ヲ調製シ用品出納ノ事項ヲ記載スヘシ

第七條 物品會計規則第十七條ノ計算書下檢査ハ地方長官取總メ之ヲ執行シ直チニ檢査院ニ送付スヘシ

第八條 鑑札用品ノ大藏省製造ニ係ルモノ受拂報告書ハ適宜之ヲ取調ヘ差出スヘシ

○租稅ニ關スル諸帳簿管理其他 取扱方 明治二十二年六月 大藏省訓令第四十四號

本年七月一日以降租稅ニ關スル諸帳簿管理其他取扱方左ノ通心得ヘシ

明治十七年十二月當省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿様式第一

號附屬及第二號乃至第十七號ノ彙帳諸表並土地彙帳地圖ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

府縣廳ニ於テハ前様式ニ倣ヒ郡市限地租彙帳及附屬彙帳諸表ヲ設ク之ヲ整理スヘシ

明治十八年九月當省第六十四號達國稅彙帳ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

收稅部出張所ニ於テハ國稅每納期三十日以前ニ於テ其現在額ニ據リ郡内市町村ノ納額若クハ一人別ノ納額ヲ調査シ之ヲ府縣知事ニ申報セシメ其以後納期末日迄ニ係ル増減及隨時收入ニ係ル納額ハ其時々之ヲ申報セシムヘシ

郡長ニ於テ徵稅令書ヲ發スヘキ國稅ノ納額ハ每納期徵稅令書發付期日以前ニ其以後納期末日迄ニ増減アルモノ及隨時收入ノモノハ其時々府縣知事ヨリ之ヲ郡長ニ達スヘシ

明治十七年十二月當省第八十九號達地租ニ關スル帳簿第一號様式地租彙帳ハ之ヲ廢止ス

○每年度國稅賦課計算書調製手續 設定租稅計算整理順序 明治二十三年三月 大藏省訓令第二十九號

國稅賦課ノ成敗ヲ詳明ナラシムル爲メ左ノ手續ニ依リ每年度國稅賦課計算書ヲ調製シ明治二十二年度分ヨリ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

但明治二十年訓令第五十號租稅計算整理順序同第五十二號地租延納年賦異動報告ハ廢止ス

一國稅賦課計算書ハ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ依リ其所屬年度間ニ賦課シタル物件ノ買數及ヒ租稅額ヲ

<p>(第二號書式)</p> <p>明治何年度經常歲出</p> <p>內國稅徵收費</p> <p>概算支出金整理簿</p> <p>(臨時歲出アルトキハ之ニ準シ各款別ニ調製スヘシ)</p>				<p>何年度何月何日 明治何年何月何日 何内國稅 仕拂命令官</p>																																																													
<p>精算高</p> <table border="1"> <tr> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>45000</td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </table>				月	日	高	月	日	高			45000				<p>返納高</p> <table border="1"> <tr> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>5000</td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </table>				月	日	高	月	日	高			5000				<p>残</p> <table border="1"> <tr> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> <th>月</th><th>日</th><th>高</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>5000</td> <td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>78000</td> <td></td><td></td><td>2000</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>65000</td> <td></td><td></td><td>5000</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td>0</td> </tr> </table>				月	日	高	月	日	高			5000			0			78000			2000			65000			5000						0
月	日	高	月	日	高																																																												
		45000																																																															
月	日	高	月	日	高																																																												
		5000																																																															
月	日	高	月	日	高																																																												
		5000			0																																																												
		78000			2000																																																												
		65000			5000																																																												
					0																																																												
<p>〔備考〕</p> <p>一 概算渡ニ係ル仕拂命令額ハ仕拂豫算整理簿ニ記入セント雖トモ尙本簿ニ左ノ事項ヲ登記シ概算支出ノ整理ヲナスモノトス</p> <p>二 概算渡欄ハ仕拂命令額ヲ登記ス</p> <p>三 精算高欄ハ其精算額ヲ登記ス</p>				<p>總計</p> <p>明治何年何月何日 仕拂命令官</p> <p>何 應</p>																																																													

<p>揭載スヘシ</p> <p>一 前年度所屬ノ租稅ニシテ四月一日以降異動發見ニ係ル分ハ發見年度ニ於テ調理シ追加計算書表面ハ元年ヲ調製相當年度ノ賦課計算書ト共ニ送付スヘシ</p> <p>但賦課計算書記載方ノ誤謬ニ係ルモノハ會計年度經過後七箇月以内更正ヲ請フヘシ(二十四年六月大藏省訓令第五十二號ヲ以テ改正)</p> <p>一 國稅賦課計算書ハ第一號ヨリ第十五號マテノ様式ニ依リ調製シ地租ハ翌年三月以内其他ノ國稅ハ會計年度經過後二箇月以内ニ其應ヲ差立ヘシ</p> <p>但計算書様式ハ主稅局ヨリ送付スヘシ</p>		<p>シタルトキハ左ノ各項ニヨリ仕拂豫算ノ整理ヲナスヘシ</p> <p>一 仕拂命令官ハ左ノ第一號書式ニ據リ仕拂命令額報告書ヲ每年度二回ニ區分調製シ四月ヨリ九月マテノ分ハ其年十月七日以内十月ヨリ三月マテノ分ハ翌年四月七日以内ニ大藏省ヘ送付スヘシ但年度後ノ仕拂命令額ハ完了後日數七日以内ニ報告スヘシ(二十四年四月六日大藏省訓令第三十二號ヲ以テ本項及第一號書式ヲ改正ス)</p> <p>一 仕拂命令官ハ左ノ第二號書式ノ概算支出金整理簿ヲ備エ概算渡ニ係ル仕拂命令額、精算額、返納額ヲ登記スヘシ</p> <p>一 仕拂命令官ハ一周年度仕拂命令額及殘高報告書ヲ翌年度七月十日以内ニ其應ヲ發シ當省ニ送付スヘシ</p> <p>但本項報告書ハ明治二十四年四月當省訓令第三十七號様式ニ準據シ「殘高」ノ次ニ「事由」ノ一欄ヲ設ケ毎月殘高ニ對スル事由ヲ詳細掲記スヘシ(明治二十五年二月大藏省訓令第六號ヲ以テ本項改正)</p> <p>一 臨時歲出ニ係ル仕拂豫算ヲ達シタルトキハ前各項ニ準據シ款別ニ整理スヘシ(同上訓令ヲ以テ四項六項ヲ削除シ本項ヲ四項ト爲ス)</p>																									
<p>○明治二十三年度以降大藏省所管內國稅徵收費仕拂豫算整理方</p> <p>明治二十三年三月 大藏省訓令第三十一號</p>																											
<p>應出何月何日 經常歲出何月何日 徵收費額報告書</p>		<p>(又ハ何應何島應)</p> <p>アルトキ各款 ハ之レニ準シ 別ニ調製スヘシ</p>																									
<p>仕拂命令額</p> <table border="1"> <tr> <th>月</th><th>日</th><th>額</th> <th>月</th><th>日</th><th>額</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		月	日	額	月	日	額							<p>定額戻入額</p> <table border="1"> <tr> <th>月</th><th>日</th><th>額</th> <th>月</th><th>日</th><th>額</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </table>		月	日	額	月	日	額						
月	日	額	月	日	額																						
月	日	額	月	日	額																						
<p>氏名圖</p> <p>(料紙美濃紙摺砂引)</p>																											
<p>〔括弧内及印章ハ朱〕</p>																											

年月日		摘要	備考	概算渡
何	何	何ノ某何地出張ニ付 付上精算濟過剩ノ分 同同上ニ付過剩ノ分 告知書何號	何月何日領收證檢印濟 何月何日領收證檢印濟	50000
何	何	何某何地出張ニ付 同同上ニ付過剩ノ分 告知書何號	何月何日領收證檢印濟	80000
何	何	何某何地出張ニ付 同同上精算濟 同同上追給ノ分 命令何號	何月何日領收證檢印濟	60000
何	何	同同上		500

○內國稅徵收費支辨旅費支給方

明治二十四年三月
大藏省訓令第二十一號

內國稅徵收費支辨旅費支給方左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

官等	收稅長	收稅屬
一汽車 一海船 一管外車馬賃 一管內車馬賃 一管外日當 一管內日當	上等實費 六錢 十五錢 十二錢 一圓三十錢 一圓	中等實費 五錢 八錢 六錢 七十錢 五十錢

但明治十九年六月當省訓令第二十八號第二項及明治二十三年十一月訓令第四百七十七號本年訓令第六號ハ本訓令施行ノ日ヨリ相廢ス
一普通旅行ハ內國旅費規則ニ據リ左表ノ通支給スヘシ

一土地検査員所轄内ノ巡回旅費ハ月額金十五圓ヲ支給スヘシ
一開稅検査員所轄内ノ巡回旅費ハ月額金十二圓ヲ支給スヘシ
一土地及開稅ノ検査員其分署所在地市町村内ノ巡回ハ旅費ヲ給セズ

一分署所在地市町村ニ接續スル町村若クハ其町村ノ一部落小支所ニシテ分署所在地市町村ト別ニ區分ヲ要セサルモノハ分署所在地市町村ニ準スルコトヲ得但此場合ニ於テハ府縣知事ニ於テ其町村若クハ部落ヲ定メ届出ヘシ

一土地及開稅ノ検査員巡回日數一箇月ニ滿タルモノハ月額三十分一ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ支給スヘシ

一內國旅費規則ノ定額ノ旅費又ハ月額ノ旅費ヲ減少セントスルトキ若クハ別ニ月額旅費ヲ設クントスルトキハ府縣知事ニ於テ適宜支給額ヲ定メ其支給額及施行期日ヲ届出ヘシ

一旅費ノ旅費ハ左表金額以内ヲ以テ府縣知事ニ於テ適宜之ヲ定メ其支給額及施行期日ヲ届出ヘシ

但支給方ハ第一項及第六項ニ準スヘシ
(二十四年九月農商務省訓令第三十八號ヲ以テ五項改正)

汽車賃	汽船賃	海馬賃	一日當	一月額
三錢	四錢	八錢	五十錢	十二圓

○內國稅徵收費ノ實蹟及各稅別費用

報告方 明治二十五年二月
大藏省訓令第七號

明治二十四年度以降左ノ各項ニ據リ內國稅徵收費ノ實蹟及各稅別費用ヲ取調主稅局ヘ報告スヘシ

一府縣知事ハ年度經過後毎會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ直間稅署直間稅分署ニ區分シタル報告書ヲ調製シ其年四月三十日限主稅局ヘ送付スヘシ

但島廳ニ屬スルモノハ別冊ニ調製スヘシ

一府縣知事ハ年度經過後毎會計年度ニ屬スル一歲所要ノ費額ヲ各稅ニ分配シタル報告書ヲ調製シ其年五月三十一日限主稅局ヘ送付スヘシ

一臨時歳出ニ係ルモノハ款別ニ調製シ第一項ノ日限ト同時ニ主稅局ヘ送付スヘシ

一前各項ノ書式ハ毎年度主稅局ヨリ送付スヘシ

○租稅其他缺損額臺帳備置整理並ニ前年度末現在及増減金額事由書取調報告方

明治二十四年十一月
大藏省訓令第七十九號

租稅其他ノ缺損額臺帳ヲ備ヘ盜難等ニ因リ缺損ヲ生シタルトキハ該金額及事由ヲ之ニ記載シ置キ其整理ヲ爲スヘシ
但毎年度ノ始メニ於テ前年度末ノ現在額及其一週年度中増減セシ金額事由等ヲ右臺帳ニ據リ取調ヘ適宜製表ノ上四月三十日限リ報告スヘシ

○租稅徵收取扱收入官吏提出ノ計算書下検査委任方

明治二十四年五月
大藏省訓令第四十五號

租稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヨリ提出スル會計規則第九十五條第九十七條第九十九條ノ計算書下検査ハ自今北海道廳長官府縣知事ニ委任ス

第三款 租稅怠納並犯則

○國稅滯納處分法 明治二十三年十二月
法律第三十二號

國稅滯納處分法

第一章 總則

- 第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス
- 第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサルモノアルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ
- 第三條 滯納者督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財産ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ
- 第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟テ以テ終ルモノトス
- 第五條 滯納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ
- 第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財産ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第七條 酒類醬油造石稅ニ付滯納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滯納税金ト併セ

テ之ヲ徵收スヘシ

- 第八條 滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ヨシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ
- 第一 督促令狀手数料
- 第二 差押調査及賣却調査調製費
- 第三 滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費
- 第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料
- 第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費
- 第六 公告費
- 第七 訴訟ニ要スル諸費
- 第九條 滯納者ニ於テ賣却執行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘシ
- 第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ
- 第十條 滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス
- 第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第二章 差押
- 第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ
- 第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜

ニ依リ順序ニ拘ハラス之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スルハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

- 第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券
- 第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品
- 第三 第一第二ニ掲ケタル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物
- 第四 債主權
- 第五 不動産
- 第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク
- 第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス
- 第十五條 滯納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財産一部ヲ差押ヘラシタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ
- 第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滯納者所有ノ家屋倉庫其他滯納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滯納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得
- 第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却執行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ
- 第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
- 第一 滯納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、履

具、家具及廚具

- 第一 滯納者及其同居家族ノ入口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭
- 第二 實印
- 第三 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地
- 第四 滯納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類
- 第五 滯納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
- 第六 滯納者ノ同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
- 第七 勳章其他名譽ノ章票
- 第八 修學上必要ナル教科書、器具
- 第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類
- 第十 滯納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券
- 第十九條 但所得稅ニ關シテハ此限ニ在ラス
- 第二十條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サルモノトス
- 第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料
- 第二 職業ニ必要ナル器具及材料
- 第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滯納者ノ家屋倉庫其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得
- 滯納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得
- 收入官吏滯納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條 收入官吏滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滯納者若クハ其同居家族他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ

滯納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滯納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條 財産差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印シ其原本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ク第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ク其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滯納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲シムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滯納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件ノ處分費、税金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課稅地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滯納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル場所ノ外近傍人民群衆地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一回未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏職員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ期限ニ拘ハラス之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收穫前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メタルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押アルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メタル場合ニ於テ他ニ差押アヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セザルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尚ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尚ホ豫定價格ニ達セザルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ク其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上クタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尚ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其原本ヲ滯納者ニ交付スヘシ

質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其原本ヲ交付スヘシ

買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札違書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尚ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シテ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ尚ホ殘餘アルハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尚ホ殘餘アルハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ原本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

五日以内ニ滞納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滞納處分ニ關シ滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ愛クヘキ者違隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘要シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書

類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ヲクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應ゼサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滞納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長ニ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖

細縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ

抵觸スル條項ハ總テ廢止ス

○國稅滞納處分法施行細則

明治二十三年一月

大藏省令第一號

國稅滞納處分法施行細則左ノ通定ム

國稅滞納處分法施行細則

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服、器具、家具、厨

具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名

二 助産ハ其名稱、種類、數量

三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地畧帳ニ記スル地價、地租

四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五 登記簿ニ登記アル賃入書入ノ金額、利率及其返還期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ賃入書入ノ登記アラザルコト

六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項、返還期限又ハ其期限及賃金

七 差押ノ事由及手續

第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額

二 差押ノ事由

三 滞納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨

四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認メサル旨ヲ申出ツヘキ旨

第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名

二 助産ハ其名稱、種類、數量

三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地畧帳ニ記スル地價、地租

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名

二 助産ハ其名稱、種類、數量

三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地畧帳ニ記スル地價、地租

四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五 號賣若クハ入札ノ場所、日時

六 開札ノ場所、日時

七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額

八 代金納付ノ期限

九 條件附ノ不動産ナレハ其條件

十 其他臨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第六條 號賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏號賣人ヲ命ジテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ

第七條 賣却物件ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 助産ハ其名稱、種類、數量

二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地畧帳ニ記スル地價、地租

三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

四 公告及賣却ヲ爲シタル方法

五 號賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時

六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名

七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由

八 保證金ヲ徵シタルコト及其金額

九 落札代價及落札人ノ住所氏名

第十代金納付ノ日限
 第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ
 第十條 滞納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ
 第十一條 處分法第十一條ニ依リ滞納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ扣除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滞納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ
 第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滞納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ
 一 物件賣却代金
 二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額
 三 處分費各費目ノ金額及税金
 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
 五 滞納者ニ還付スヘキ金額
 第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ
 第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直ニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十五條 督促令狀ヲ受タル後滞納者又ハ第三者ニ於テ滞納處分費及税金ヲ完納スルトキハ滞納處分費ハ第四號様式税金ハ第五號様式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ
 第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第一號様式 用紙寸法適宜 (印章ハ執モズ)

督 令 狀	何 號 經 常 租 稅	何 (項)	何 (目)	明 治 何 年
督 促 令 狀 手 數 料	一 金 何 程	一 金 三 錢	督 促 令 狀 手 數 料	明 治 何 年 何 月 何 日

右金額此令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ當出張所へ上納スヘシ若シ其期限ヲ過クルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ

何縣收稅部何出張所收入官吏 氏 名 印

第二號様式 用紙寸法適宜

差 押 命 令 書	滞 納 者 住 所 氏 名	送 押 執 行 シ タル 月 日 時	送 押 執 行 シ タル 月 日 時	送 押 執 行 シ タル 月 日 時
右 之 通 取 扱 候 也	右 何 稅 何 年 何 月 何 日 限 納 期 ノ 分 金 何 程 滞 納 ニ 付 國 稅 滞 納 處 分 法 ニ 據 リ 本 人	送 押 執 行 シ タル 月 日 時	送 押 執 行 シ タル 月 日 時	送 押 執 行 シ タル 月 日 時

第三號様式 用紙寸法適宜

所有ノ財産ヲ差押フヘキ者也

明治何年何月何日 府縣廳之印

何縣知事氏名

何縣收稅部何出張所 收入官吏氏名印

送達書

一(送達スヘキ書名)一通

右使丁ヲ以テ(何縣)下何郡何町何番地何某へ送達セシムル者也

明治何年何月何日 收稅部出 張所ノ印

何縣收稅部何出張所 收入官吏氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

同居人若クハ市町村長ヘ書類ヲ渡シタルトキハ其事由

右致送達候也

使丁氏名印

第四號様式 用紙適宜(縦四寸五分ノモノニ枚數四寸五分ノモノ一枚接綴)

第何號經常租稅入

明
治
何
年
度
維
入

一
金
何
程

右
納
付
候
也

明
治
何
年
何
月
何
日

住
所
氏
名
印

第何號經常雜收入

明
治
何
年
度
維
入

住
所
氏
名

第何號經常雜收入

明
治
何
年
度
維
入

住
所
氏
名

住
所
氏
名

右
之
通
取
扱
候
也

使
丁
氏
名
印

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

六百六十六

同		其三		其四		其五		其六		其七		其八		其九		
何税	收入額	損失額	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	何税	
備考	一 他管廳へ處分囑托セシモノハ相當欄へ組入ルヘシ	二 通貨ヲ差押へ徴收シタルモノニ係ル稅額人員ハ第一表第八欄へ組入レ該額ハ同欄内ニ朱書ヲ以テ内書スヘシ	三 評價ヲ以テ賣却徴收シタルモノニ係ル稅額人員ハ第一表第九欄へ組入レ該額ハ同欄内ニ朱書ヲ以テ内書スヘシ	四 物件欄内へハ課稅品ト雜件トヲ區別シ土地ハ段別、家屋倉庫ハ棟數、公債證書株券手形ノ類ハ額面ノ金額、債主權ハ其金額、船車ハ艘數輛數、其他ノ雜件ハ石、貫目、箇數等ニ區別シ其員數ヲ記載スヘシ	五 解除物件ノ欄へハ財產差押後賣却公告著手以前ニ完納セシモノニ對スル物件ヲ記載スヘシ	六 公告後ノ解除物件ノ欄へハ處分法第九條ニヨリ完納又ハ代納シタルモノニ對スル物件ヲ記載スヘシ	七 裁判所へ照會シテ徴收シタル金額ノ欄へハ處分法第十五條ニ據リ裁判所へ照會シテ徴收シタル金額ヲ記載スヘシ	八 滯納處分費中財產差押前ニ係ル金額ハ朱書ヲ以テ相當欄内ニ内書スヘシ	九 官損稅金額内へハ處分法第五條ニ係ル金額ヲモ合算記載スヘシ	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

○間接國稅犯則者處分法 明治二十三年九月法律第六十六號

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間稅官吏タルノ證憑ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出コリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

六百六十七

第六條 間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ本人ニ之ヲ預ク其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ク又ハ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁ズルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 本人ノ氏名年齢身分職業住所

二 犯則事件發見ノ手續及日時場所

三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述

四 差押ヘタル證據物件及種類數量並ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯罪事件ノ調査及其他ノ書類ヲ調査シ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其犯罪ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品並ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條 前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十三條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過シ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十四條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 間稅官吏犯罪事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯罪事件禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十六條 犯則者犯罪事件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調査ヲ作リ發告ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

一 犯則者逃走ノ恐アルトキ

二 證據湮滅ノ恐アルトキ

第十八條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第十九條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十一條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十二條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十三條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十四條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十五條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十六條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十七條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十八條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第二十九條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第三十條 證據湮滅ノ恐アルトキ

第十七條 間稅署長若ハ分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

第十八條 前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十九條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間稅國稅ノ検査若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

第二十條 間稅官吏ハ直接ト間接ト間接トハ差沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十一條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス

○間稅國稅犯則者處分法施行細則

明治二十三年十一月
大藏省令第三十一號

間稅國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム

間接國稅犯則者處分法施行細則

第一條 間稅國稅犯則者ノ處分ハ其犯罪發覺ノ地ノ間稅官吏ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯罪ノ地ト犯罪發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯罪ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯罪ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯罪ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一罪ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 間稅官吏犯罪事件ノ證據採取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯罪事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯罪事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 間稅官吏ハ犯罪物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條 間稅官吏犯罪事件ノ捜査ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證據不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲ササル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間稅分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ間稅官吏ヨリ間稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯罪事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタル

トキハ間稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯罪事件ヲ調査スルモ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第十二條 前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十三條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十四條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ請求スヘシ

第十五條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若クハ本人ニ預クタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十六條 間稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ掲ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 間稅署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收書ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ發送スヘシ

第十九條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘ

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

キ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間稅分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間稅署長ニ於テ各分署管轄内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條 間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セザルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條 凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條 間稅分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日期限管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第二十四條 處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第一號様式

用紙厚紙權三寸橫一寸五分

第何號 間稅官吏 何縣收稅處何某

證 票 之 間 稅 署 印

送達書

一(送達スヘキ書名) 一册

一(同) 一通

右使丁ヲ以テ(何縣)下何郡何町何番地何某(一)送達セシムル者也

明治何年何月何日 何府(何縣)間稅署長(分署)之印

何府(何縣)間稅署長(分署)官氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルトキハ其理由

送達シタル月日時

送達シタル場所

同居人若クハ市町村長(ハ書類ヲ渡シタルトキハ其事由

右致送達候也 使丁氏名印

第四類 第一章 第三款 租稅怠納並犯則

此ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ間稅署若クハ間稅分署へ還納スヘシ

第三號様式

納證

一金何程 何々

一金何程 何々費

第四號様式

明治何年何月分犯則者處分表

犯目	年犯	月日	則受理月日	罰金	沒收物件	收退金	徵罰額	科金	裁判所	犯則者住所	同上人名	何間稅分署長		
												官	氏名印	
何稅則第何條	何年何月何日	何月何日	何月何日	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
合計				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
總件數				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
前月分越高				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
新受				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
既濟				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓
未濟				何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓	何拾何圓

凡例

一 檢察者ヨリ直チニ告發シタルトキハ本表受理月日通告月日ノ欄ヨリ罰金納否ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ

一 受理シタル犯則事件ニシテ罪トナラス若クハ何々ト認メ

○ 間接國稅犯則者處分ニ關スル

棄却シタルモノハ本表受理月日通告月日ノ下欄ニ棄却ト記シ以下裁判所へ告發月日ノ欄マテ斜線ヲ施スヘシ

一何々 若干(目錄ノ通)

右ハ私何々稅則違犯事件ニ付年月日付通告書ニ對シ納付致シ候也

年月日 何間稅(分)署長宛

納入 住所氏名印

書類送達

明治二十三年十月
勅令第三百三十二號

除間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 間接國稅犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間稅署若ハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アツルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

第四款 地方稅

地方稅規則

明治十三年四月
布告第十六號

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正條此旨布

告候事(二十三年法律第三十五號府縣郡)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
一 地租三分一以内(十三年布告第四十八號ヲ以テ本項中改正ス但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)
一 營業稅并ニ雜種稅
一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
(十五年法律第二號布告)
(十五年法律第二號布告)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ
(十五年法律第二號布告)
(十五年法律第二號布告)
一 警察費
一 警察廳舍建築修繕費
一 土木費
一 區町村土木補助費
一 衛生及病院費
一 教育費
一 區町村教育補助費
一 郡區廳舍建築修繕費
一 郡區吏員給料旅費及應中諸費
一 教育費
一 難破船諸費(二十一年法律第一號)
一 諸達書及揭示諸費
一 勸業費
一 戶長以下給料旅費(十七年布告第十三號ヲ以テ本項中改正ス但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)
一 地方稅取扱費(府縣郡廳ニ屬スル爲換方給料爲(二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ地方稅ノ種消滅ス)

一府縣廳舍建築修繕費

一府縣監獄費

一府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年布告第六十五號ヲ以テ本項ニ依リ消滅ス)及豫算ノ臨時不足ニ充ツ者(改正ス但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス))

右ノ外特ニ費目ノ增加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一週年度トシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十七年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)
地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得(十五年法律第六十九號布告ヲ以テ本項追加但二十三法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

第五條 非常ノ費用ハ(豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサルモノヲ云フ)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)
前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年布告第六十九號ヲ以テ本項追加但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年布告第五號ヲ以テ全條ヲ改訂ス但二十三年法律第三十五號府縣郡制發布ニ依リ消滅ス)

第八條 (十四年布告第五號)
第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條 (十三年第二十六號布告ヲ以テ追加)
(十四年第八號布告ヲ以テ廢止)

營業雜種稅規則 明治十三年四月
布告第十七號

明治十一年十二月二十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告)

商業
工業
第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(上)
料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類
湯屋
理髮人
備人受宿
遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優帶間藝妓ノ類
市場
演劇其他興行遊覽所

遊技場玉輿大馬路等

人寄席
遊技場玉輿大馬路等
船中遊藝及五車馬車人力車積積馬車積積大七六
船中遊藝及五車馬車人力車積積馬車積積大七六
但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ
若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府
縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ
政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (同上)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目
中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條

府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣
會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ(同上(決議ヲ以テ)

第六條 (同上)

第七條 (同上)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣
令ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スル
モノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ
具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(同上(決議ヲ以テ)下(第三條稅)

地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件

明治二十年十一月
勅令第五十六號
朕地方稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

第一條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金銀物
件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル用途又ハ使用
ニ充ツヘシ

第二條 地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シ府縣會ノ議
定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ
地方稅ヲ賦課セズ 明治十七年十月
太政官達第八十三號

○官用ノ船舶車馬ハ地方稅ヲ賦課
スルヲ得ズ 明治十五年十月
內務大藏兩省達乙第七十五號

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方稅賦課不相成候條

此旨相違候事

○貸座敷、引手茶屋、娼妓ノ賦金賦課

編入及警察機密費、檢査費支辨方
明治二十二年八月
閣令第十二號

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課
シ地方稅雜收入ニ編入スヘシ(二十年十一月十六日閣令第二
十八號ヲ以テ刪除ス)警察機
密費 高等警察ニ屬ス ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費ハ衛生病院
費中ノ一科目トシ地方稅ヨリ支辨スヘシ

○地方稅經濟ニ關スル樹木拂下

處分方 明治二十年七月
內務省訓令第四十號

地方稅經濟ニ屬スル樹木拂下ノ儀ハ自今其應限リ處分シ翌年
二月二十日ヲ發送期限トシ當省ニ報告スヘシ

○府縣管理ニ管スル飲用水道及公葬

墓地維持保存方法經費徵收方法等
屆出方 明治二十年十月
內務省訓令第四十四號

府縣管理ニ係ル公園飲用水道及公葬墓地ノ維持保存方法經費
徵收方法及其所屬現在ノ建物種類 測量繪圖 軒數等取調本年
十二月限リ屆出仍ホ將來之ヲ變更増減スルニトアルニ於テハ
其都度可伺出經費ノ儀ハ收出豫算並精算共毎年豫算ハ前年度一月
限リ當省ニ報告スヘシ

○地方稅豫算議案精算報告書式

明治十五年十二月
內務省達乙第七十二號

地方稅豫算議案並精算報告書式別冊之通相違候條此旨相違候
事 (別冊) (括弧内ハ米)

一金 (內) 警 察 費

一金 (內) (地 方 稅) (國庫下渡金)

一金 (內) 俸 給

一金 (內) 雜 給

一金 (內) 應 費

一金 (內) 警察廳舍建築修繕費

一金 (內) (地 方 稅) (國庫下渡金)

一金 (內) 建 築 費

一金 (內) 修 繕 費

一金 (內) 土 木 費

一金 (內) 道路橋梁費

一金 (內) 治 水 堤 防 費

儀下心得可シ此旨更ニ相違候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來
官費ニ係ル者支辨方 明治十二年二月
太政官達第六號
明治十一年七月第十九號布告地方稅費目第十項管内限諸達書及
揭示諸費并郡區役所ニ設置スル布告類揭示場新築修繕諸費ノ
儀ハ從來官費ニ係ル部分ト確モ自今地方稅ヨリ支辨スヘシ此
旨相違候事

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方

明治十二年四月
內務大臣國庫下渡金達第十七號
客年第三十九號公布中各業ノ者ハ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖モ
鑑札料手數料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相違候事
但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ
支辨シ收稅上ヨリ下附スルモノハ地方稅廳費中ヨリ支辨可
致儀ト可相心得事

○逃亡失踪ノタメ諸營業稅及船車稅
滯納處分ヲ了セシ者次納期ニ至リ
尙ホ所在不明ノトキ取扱方

明治二十三年三月
大藏省訓令第三十七號
國稅中諸營業稅及船舶稅車稅ヲ納ムル者ニシテ逃亡若クハ失
踪シ納期限ヲ過キ滯納處分ヲ了シタル者次ノ納期ニ至リ徵稅
ノ手續ヲナスノ際尙ホ其所在ヲ知ル能ハサルトキハ廢業又ハ
物件紛失ノ取扱ニ準シ國稅彙帳ヨリ之ヲ除去スヘシ

○地方稅不納者公賣ノ未欠額及地方
稅年度末殘額處分方

明治十一年十一月
內務省達乙第七十九號
本年第十九號公布中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相違候事
一地方稅ヲ不納スルモノハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課
スヘシ
一地方稅年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル
時ハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ(十三年乙第四十四號)
號者達ヲ以テ削除)

○府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ
割合

明治二十一年八月
勅令第六十一號
朕地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ
割合左ノ通改定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫
下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ十分ノ四トシ其他ノ府縣
(沖繩縣)ハ六分ノ一トス
第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人
ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス
第三條 本令ハ明治二十二年ヨリ施行ス

○府縣委託金ヲ地方稅經濟ニ移ス

明治二十三年三月
勅令第六十六號
朕府縣委託金ヲ地方稅經濟ニ移スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第一條 從來府縣應ニ存在スル府縣委託金及之ニ屬スル財產
ハ明治二十三年三月三十一日ノ現況ヲ以テ其府縣ノ地方稅
經濟ニ下付スヘシ

第二條 府縣委託金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモ
ノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知事ヨリ發シタル命令ハ之ヲ
履行スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ內務大臣農商務大臣ノ
認許ヲ經ルニ非サレハ之ヲ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ
內務大臣農商務大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之ヲ支消ス
ルコトヲ得ス

第四條 元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ利
業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得

第五條 府縣委託金中獻金又ハ寄附金等ヨリ成立ツモノニシ
テ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノハ將來ト雖モ其使用ノ途
ヲ變スルコトヲ得ス

第六條 府縣委託金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

○道路並木枯損木排代金並寄附金額
物件整理方 明治二十一年十一月
內務省訓令第三號
一地方稅ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木排代金ハ明治二十一
年度ヨリ該年度地方稅土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該
土木費ヨリ支出ス可シ

一地方稅ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議
案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金
ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方稅ト寄附金ト內譯

ヲ爲ス可シ

一物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモ
ノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得
一明治十五年十二月二十九號內務大臣農商務大臣乙第七十二號地方稅收入豫
算議案並精算報告書式中戶數割ノ次合計以下明治二十一年
度ヨリ左ノ通改正ス
(收入豫算議案並精算報告書式略之)

○尋常師範學校附屬小學校授業料ハ
府縣會ノ議定ニ付ス

明治二十年十一月
內務省訓令第四十九號
尋常師範學校附屬小學校授業料ハ本年勅令第五十六號ノ議定
ニ據リ地方稅一般ノ雜收入ト混淆スヘカラサルモノニ付右授
業料ノ收支豫算ハ別議案ヲ以テ府縣會ノ議定ニ付スヘシ

○傳染病ニ罹ル赤貧者ノ費用衛生費
ヨリ支辨

明治十六年二月
第八號達
明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相違候事
傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留
旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支
辨スヘシ
但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ據リ官費支給スルコトアル
ヘシ

○從來地方議會ニ付セサル公共財產
及共立學校病院等管理方

明治二十二年一月
內務省訓令第一號
一地方稅ノ支辨ニ係ル公共財產及共立學校病院等管理方

第一條 從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財產ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ職定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラズ府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ職定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長百長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條 前條ノ財產ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條 公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモノ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

○地方稅又ハ區長村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路等ニ屬スル收支取扱方

明治二十一年七月
內務省訓令第十七號

地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布賃渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居布等ニ屬スル竹木柳代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ

但本文ニ概觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス

一 修繕費ノ全部ヲ地方稅ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方稅ヘ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ

一 修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方稅ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ

一 地方稅ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ

一 地方稅ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ

一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植木及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ

一 前各項ノ收入金ニシテ府縣應ヘ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

○監獄慈善ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ地方稅ニ編入ス

明治二十三年六月
內務省訓令第二十三號

監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈善ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ退テ開ク所ノ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅雜收入ニ編入シ其金額ハ監獄費內課ニ慈善費ノ科目ヲ設テ支辨スヘシ

○沖繩縣及小笠原島地方費支辨法

明治二十三年五月
法律第三十七號

沖繩縣及小笠原島地方費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及小笠原島ノ地方經濟ニ屬スル費用ハ其地方人民ノ負擔スルモノヲ除クノ外從前ノ通り國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第五款 府縣稅徵收

○府縣稅徵收法

明治二十三年九月
法律第八十八號

府縣稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其市町村ニ交付スヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第三條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

市町村ハ其徵收シタル稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第九條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受クルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先チ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依リ

第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲メヘキ職務ハ百長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事ニ決定ムヘシ

第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス

第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス

○府縣非常災害ノ爲メ土木費借入方

明治二十三年一月
法律第三號

一 府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲナスコトヲ得

二 前條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ內務

大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分一マテ借入ル、コトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

○府縣制施行ノ地方ハ非常災害ノ爲メ土木費借入ノ法律ヲ廢止ス

明治二十三年八月
法律第七十四號

朕明治二十三年法律第三號ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限リ之ヲ廢止ス但シ府縣制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲シ未タ其借入ヲ了セサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

○北海道地方稅徵收ニ係ル納人告知

書押印ノ件

明治二十四年三月
大藏省訓令第十五號

北海道地方稅ノ徵收ニ係ル納人告知書ハ他ノ徵入金ト區別スルヲメ北海道地方稅ノ印ヲ捺捺シテ發行スヘシ

北海道地方稅ニシテ納入告知書ニ記載アル納期ヲ經過シ督促令狀發付以前ニ於テ該稅金ヲ上納セントスル者アルトキハ明治二十三年當省訓令第四十三號及第百三號ニ準シ取扱フヘシ但本文ノ順序ヲ經タルモノニアラザレハ金庫ハ領收ヲ拒絕ス

スヘシ

第六款 備荒儲蓄

○備荒儲蓄法

明治三十一年六月
法律第三十一號

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度一月一日ヨリ施行候條明治八年七月第百二十二號達窮民一時救助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

備荒儲蓄法(別紙)

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租ノ部分ニテ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 備荒儲蓄金ヲ分ツテ中央儲蓄金府縣儲蓄金ニトス(二十三年二月法律第五號)以テ本條ヲ改正ス

中央儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ中央儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス

府縣儲蓄金ハ明治二十二年度迄ノ府縣儲蓄金及ヒ之ヨリ生スル利殖金ヲ以テ成立スルモノトス(上同)

第三條 中央儲蓄金ハ國庫ニ備置キ大藏大臣之ヲ管理シ府縣儲蓄金ノ補助ニ充ツヘキモノトス(上同)

第四條 府縣儲蓄金ノ管守支給及ヒ利殖ノ方法ハ府縣知事之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ內務大藏兩大臣ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ(上同)

第五條 削除(同上)

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超エヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一日拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一日貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラザレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上ヲ供用支出スルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ內務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ(同上本條改正)

第八條 從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行セル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣內儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍ホ內務大藏兩大臣ニ報告スヘシ(同上本條改正)

大藏大臣ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ

第十一條 此方法ハ貳拾ケ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

附則

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ當置委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得(同上)

○中央備荒儲蓄金運用ノ件

明治二十三年四月
法律第三十三號

朕米穀供給ノ爲メ中央備荒儲蓄金運用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ハ國內米穀供給ノ爲メ必要アルトキハ中央備荒儲蓄金ヲ以テ米穀購入ノ資金ニ運用スルコトヲ得此場合ニ於ケル損益ハ中央備荒儲蓄金ノ負擔トス

○備荒儲蓄法當分沖繩縣ヘハ施行セズ

明治三十三年七月
太政官達第三十九號

本年六月第三十一號布告備荒儲蓄法ノ備ハ當分沖繩縣ヘハ施行ニ及ハス就テハ該縣ヘ配付スヘキ補助金ノ儀ハ各府縣ヘ配付候條此旨爲心得相違候事

○備荒儲蓄金ニ關シ不服アリテ

出訴方

明治十五年十二月
布告第七十四號

備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第二十二號布告ニ依ルヘシ

○公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ
 年度ニ限ル 明治十六年四月
 內務大臣府令第十五號
 明治十三年十一月第五十號布告但書ニ依リ公儲金ヲ免除スルハ
 其罹災ノ年度ニ限ルヘキ儀ト心得ヘシ此旨相違候事
 但從前ノ令違之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分法
明治二十二年十二月
 法律第三十三號

朕地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
 レシム
 地方稅及備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之
 ヲ徵收スヘシ但備荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者
 ハ備荒儲蓄金ヲ免除スヘシ
 明治十三年十一月第五十號布告ハ廢止ス

○備荒儲蓄金取扱順序 明治二十三年三月
 大藏省訓令第三十四號
 (明治二十五年三月訓令第十
 六號ヲ以テ收支科目中改正)

備荒儲蓄金取扱順序明治二十三年度以降左ノ通心得ヘシ
 但收支科目及報告書式ハ別ニ頒ツ(書式附ス)
 備荒儲蓄金取扱順序
 第一條 備荒儲蓄法第四條ニ因リ府縣儲蓄金ノ管守支給及利
 殖ノ方法ヲ定メ附可ヲ得タルトキハ府縣知事ハ該年度ノ收
 支概計書 別紙第一號ヲ製シ大藏大臣ヘ差出スヘシ
 第二條 府縣儲蓄金ノ内現金ヲ銀行等ヘ預入シテ預入トキハ

其金額ニ對スル抵當ヲ要スヘキハ勿論其抵當ハ公債證書ヲ
 取置クヘシ
 第三條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納
 シ能ハサルトキハ之ヲ豫豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケン
 トスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
 第四條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ其返納年限内ニ於テ利引
 ヲ以テ一時上納ナラシムル爲メ該府縣儲蓄金利率平均ノ分
 合ニ準シ利引ノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議
 定セシムヘシ
 第五條 米穀貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料
 等ニ係ル諸費用 郡市町村並旅費ノ如
 キハ此限ニアラス 並米穀公債證書ノ賣買等ニ
 關スル諸雜費及損失ヲ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方法
 ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
 第六條 備荒儲蓄法第七條ニ因リ府縣儲蓄金ノ百分ノ五 前年
 超過(貸付金ハ其年返納スヘキ額ヲ除算ス)及其年
 收入スヘキ金額ヲ合セタル總額ニ對シ計算スヘシ 以上ヲ供用支出セシ
 トスルトキハ豫メ災害ノ景況及救助額ノ概算ヲ內務大臣
 大臣ニ具狀シ中央儲蓄金ノ補助ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ
 ハ時トシテ內務大臣兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ查閱スルコ
 トアルヘシ
 第七條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其額
 未テ管下ヘ告示スヘシ
 第八條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半年報告書 別紙第二號ヲ製
 シ上半年十月中下半期八翌年四月中其地ヲ發シ大藏大臣
 ヘ差出スヘシ
 第九條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿 現金米穀公債證書
 等ノ受拂ハ總括ス
 ルモノ 及内附簿 現金米穀公債證書ノ所在ヲ分チ或ハ收支ノ科ヲ製シ附
 ナラフ 目ニ因リ出納ノ内附簿明カニスル帳簿ヲ設ケ

※常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ
 第十條 備荒儲蓄法第十條ニ因リ府縣儲蓄金ノ精算報告書 別
 紙第三號ヲ製シ府縣會ヘ報告ノ後內務大臣兩大臣ヘ差出ス
 第十一條 大藏大臣ハ官吏ヲ派遣シ每歲又ハ臨時ニ府縣儲蓄
 金或ハ貯積米ヲ検査セシムヘキニ因リ府縣知事ハ現金預金
 金及米穀ノ所在報告書 別紙第四號ヲ製シ毎年四月中ニ大藏
 大臣ヘ差出スヘシ
 第十二條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ
 便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セシ直ニ其所在ニ就キ検査スル
 コトアルヘシ此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令
 書ヲ携帶スルモノトス

○中央備荒儲蓄金ニテ購入セル
 公債證書賣却ノ件 明治二十四年十一月
 勅令第三百一十一號

朕中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當
 リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
 ム
 中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ
 臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意契約ニ依ルコトヲ
 得

第二章 各種稅則

第一款 地租

○地租條例 明治十七年三月
 布告第七號
 地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租
 改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノ
 ハ廢止ス
 但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣
 ハ當分從前ノ通タルヘシ (十九年布告第一號ヲ以テ函館札幌
 根室ノ三縣ヲ廢シ北海道廳ヲ置ク)
 地租條例(別冊)
 第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス
 但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ
(二十二年十一月二十九日法
 律第三十號ヲ以テ修正)
 第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス
 第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス
 第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鐵泉地、
 第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地 (同上本
 條修正)
 第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト
 謂フ
 第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ
 第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海
 成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地
 ト謂フ
 第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、
 井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免
 ス (同上
 條修正)
 第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以
 テ步ト爲シ拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲

第四類 第二章 第一款 地租

六百八十八

ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換、開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告ス

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井濇、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鐵下年期ノ許可ヲ受クヘシ鐵下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水而テ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 鐵下年期ノ許可

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ鐵下年期ヲ許可ス

第十九條 鐵下年期明地價据置年期明新開免租年期明トキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第四類 第二章 第一款 地租

六百八十九

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成、コシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖、ニ歸スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逃脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ

ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納ム

○地租條例施行細則

地租條例施行細則左ノ通定ム

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一、間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨テ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘位未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若シハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却シ其歩數ヲ外書トス

畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ缺入ニ必要ナル本地ハ之ヲ土地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若シハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス

第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地方ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級

ヲ測ヘ其願屆書ニ記入スルモノトス

前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ(二十四年三月三十一日大藏省令第六號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第十條 條例第十三條第一項未段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項屆書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載ス可シ

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徵租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳ニ差出ス可キ願屆書式ハ府縣知事之ヲ定ム

○地租條例及地租條例施行細則
取扱方 明治二十二年十二月 大藏省訓令第七十六號

地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ

第一條 條例第三條ノ收場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但摺乳營業ノ爲メ獸類ヲ察養スル場所ハ此限ニ在ラス

第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其距離ナキヲ視認シタル上著手ス可シ(二十四年三月三十一日大藏省訓令第七十六號ヲ以テ本條中別條ニ依リ同條ニ依リ)

第四條 (同上)

第五條 (同上)

第六條 條例第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ハルトキハ其狀況ヲ具シ當省ヘ稟議ス可シ(同上)

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願屆書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ隣シタル土地アルトキハ地種組換ノ手續ヲ爲ス可シ

第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地畧帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

○北海道地租定率 明治九年十二月 布告第六十一號

北海道地租ノ備當分地價百分ノ一ニ相定候條此旨布告候事

○北海道開墾地地租免除ノ件 明治二十二年六月 法律第十八號

朕北海道開墾地地租地方稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡

村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄ニ特ニ地租地方稅ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方稅ヲ課セス

○買上地拂下地潰地等收稅除稅區分 明治十年二月 布告第十八號

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅除稅區分左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ル時其年分ノ稅ハ買上タル前月分迄月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ル時其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

第三條 民有地ヲ官ノ許可ヲ得テ川溝溜池道路堤塘敷其他潰シ地トナス時ハ工事著手ノ月ヨリ除稅スヘシ一旦著手スルモ若シ工事ヲ中止シテ六ヶ月ニ及フモノハ工事ヲ施シタル部分ヲ除キ其中止間ハ除稅ノ限ニアラス(十五年布告第三十五號ヲ以テ全條改正)但七ヶ月以上ニ渉ルヘキ工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ除稅ノ區域ヲ定ムルモノトス

○島廳郡役所ニ關スル地租事務取扱手續 明治二十二年三月 大藏省訓令第十五號

島廳郡役所ニ關スル地租事務ハ左ノ手續ニ從ヒ取扱ハシムヘシ

但府縣廳ニ於テ本項ノ事務ヲ取扱フ者モ此手續ニ依ルヘシ

島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續 (二十二年六月二十日大藏省訓令第四十五號ヲ以テ改正ス)

第四類 第二章 第一款 地租

第一條 地租ニ關スル願書ハ其筆限字番號地目段別等級地價地租及所有者氏名ヲ土地臺帳及地圖ニ照査シ主任官ニ檢印シ處分ノ手續ヲ爲スヘシ(修正)
 地租ニ關スル定期及臨時檢査ハ既定ノ手續ニ從ヒ收稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ但島廳所轄ニ係ルモノハ從前ノ通
 第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願書ニシテ段別地價ノ分配合併其當テ得ル者ハ收稅部出張所ニ於テハ其處分ノ手續ヲハ島應ニ於テハ直ニ之ヲ許可スヘシ(同)
 第三條 前二條ノ指令書ハ市町村長ヲ經テ下附ノ手續ヲ爲シ直ニ土地臺帳地圖及地租臺帳ヲ整理スヘシ(同)
 第四條 土地所有ノ移轉又ハ質入及其解約ニ係ル登記所ノ通知ヲ得タルトキ並ニ住所氏名異動ノ届出ヲ得タルトキハ直ニ土地臺帳ヲ訂正スヘシ
 第五條 前條ノ訂正ヲ經タルモノハ納期毎ニ納租者異動表ヲ作り各納期三十日以前之ヲ町村長ニ通報スヘシ其以後納期末日迄ニ係ル者ハ其時々之ヲ通報スヘシ
 第六條 土地臺帳ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ即日之ヲ下付スヘシ
 第七條 地租ノ前年ニ遡リ徵收スヘキ者ハ明治十七年當省第八十九號達地租帳簿式第一號付屬表ニ準シ追加地租臺帳ヲ調製シ之ニ記入スヘシ
 第八條 毎年一月ニ於テ土地臺帳總計上ニ就キ前年中ノ異動ヲ加除シ之ヲ地租臺帳ニ照合シ明治二十年當省訓令第五十號租稅計算整理順序付屬第一號乃至四ノ様式ニ準シ地租表ヲ調製シ二月十五日限リ府縣知事ニ申報スヘシ但地租追加

ニ係ルモノモ本表ト共ニ申報スヘシ(同)
 ○地租金ノ内田方代米納廢止
 明治二十年九月勅令第七號
 朕明治十年第八十號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十年十一月第八十號布告本年年限廢止ス(第八十號布告ハ地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ代米納送附ノ件)
 ○田畑地價特別修正 明治二十二年八月法律第三十二號
 朕地租改正以來ノ實際ニ徵シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限リ地價低減ノ必要ヲ認め地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ(修正額ヲ爲ス府縣國郡及其修正地價總額ニ依リ地價低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム)
 第二條 修正額ニ依リ地價低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

○荒地等ノ段別年期增減取調差出方
 明治二十二年六月大藏省訓令第四十一號
 荒地低價地開墾地ノ段別年期ノ增減ハ別紙様式ニ依ヒ一箇年分取調翌年二月二十八日限(二十年分ハ本年六月三十日限リ)差出サスヘシ(別紙様式ハ主税局ヨリ送附ス)
 但明治十七年四月號外達地租條例取扱心得書様式第五號第六號第七號第八號ノ届出ハ自今廢止ス

別紙

明治何年荒地增減表

事 由		増		何 府 縣										減	
再	荒	計	田	別	年	期	反	計	田	別	年	期	反	計	田
				六四六二八廿九年迄	十	年				五〇〇九	十	年			
				三一〇二廿八年迄	九	年				四〇〇九	十	年			
				四一七四二六廿七年迄	八	年				三三三二二四	十	年			
				八	年										
				八	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										
				九	年										

全大命令本日行現

入組地滯遺					地價低規新					事由地目	増	明治何年低價地増減表	何府縣						
計	田				計	田								反	別	年	期		
										事由地目									
																<small>△五八二七廿五年迄六ヶ年</small>			
																一八九二九廿三年迄四ヶ年			
																六四一〇八廿四年迄五ヶ年			
地荒					官有地成				低價及明期低價ノ實據					事由地目					
																		反	
																		別	
																		年	
																		期	
																		<small>△五六四二七</small>	
																		九七一一八	
																		四二二〇二	
																		<small>△五</small>	

年月日

主税局長宛

收稅長印

第四類 第二章 第一款 地租

六百九十五

全大命令本日行現

合計	正訂認誤			入組地滯遺			換組期年			成地					
	計	田		計	田		計	田		計	田				

第四類 第二章 第一款 地租

六百九十四

現行日本法令大全

現行日本法令大全

入組漏遺		換組期年				期年繼				止廢	
計	田	計	田	計	田	計	田	計	田	計	田

新規則開墾												事由		增		合計					正訂認誤									
田												地目的	反	別		年		期		合計	田				田					
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			△	二七〇七	廿九年迄	十	夕年												
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	△	二七〇〇	四	十九年ヨリ	十	夕年													
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			二六	十九年ヨリ	九	夕年													
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			三一七	七二五	十九年ヨリ	八	夕年												
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			四七五	二九	十九年ヨリ	七	夕年												
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、																			

明治何年開墾地増減表

新規則開墾												事由		減		合計					正訂認誤		成								
田												地目的	反	別		年		期		合計	田				田						
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			△	二七〇〇	四	十九年ヨリ	十	夕年												
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			二六	十九年ヨリ	九	夕年														
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			三一七	七二五	十九年ヨリ	八	夕年													
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、			四七五	二九	十九年ヨリ	七	夕年													

何府縣

右之通候也

主稅局長宛

收稅長印

右之通候也 年月日	合計	正訂謬誤					合計	成地價	成計		
		計	田							計	田
主税局長宛											
收税長印											

○地租ニ關スル諸帳簿様式

明治二十三年三月
大藏省訓令第十號
明治十七年十一月十二日
當省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿様式別冊ノ通更正ス

別冊ハ當省主税局ヨリ之ヲ送付ス(別册略ス)
但新設帳簿ノ外ハ現存帳簿ノ使用ヲ終リ新規調製ノ際ヨリ本様式ニ據ルヘシ

○地租徵收期限改正

明治二十四年三月
法律第三號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地租徵收期限改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス
但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限
リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期 該年九月一日ヨリ
二期 同九月三十日ヨリ
細方及宅地
林原野牧場
五分

二期	該年十一月一日ヨリ	同	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	田方	貳分五厘
四期	該年一月十五日ヨリ	同	貳分五厘
五期	該年二月二十八日ヨリ	同	貳分五厘
六期	該年三月三十一日ヨリ	同	貳分五厘

○北海道地租納期ヲ改正ス

明治二十二年十月
大藏省訓令第十二號
北海道地租納期左ノ通改正ス

第一期	該年七月一日ヨリ	宅地及雜地	五分
第二期	該年八月三十一日ヨリ	田畑鑛泉地池沼及山林原野	五分
第三期	該年十一月一日ヨリ	宅地及雜地	五分
第四期	該年十二月十日ヨリ	田畑鑛泉地池沼及山林原野	五分

○北海道地方税ノ徵收ニ係ル納入告知方

明治二十四年三月
大藏省訓令第十五號
北海道地方税ノ徵收ニ係ル納入告知書ハ他ノ歳入金ト區別スルヲメ「北海道地方税」ノ印ヲ捺捺シテ發行スヘシ

北海道地方税ニシテ納入告知書ニ記載アル納期ヲ經過シ督促令狀發付以前ニ於テ該税金ヲ上納セントスル者アルトキハ明

治二十三年當省訓令第四十三號及第百三號ニ準シ取扱フヘシ
但本文ノ順序ヲ經タルモノニアラサレハ金庫ハ領收ヲ拒絕スヘシ

○震災地方租稅特別處分法

明治二十五年六月
法律第一號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ三重縣愛知縣滋賀縣岐阜縣及福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源瀆渫水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年率ヲ附與スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若ハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若ハ市街ニ準スヘキ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年率ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年率期ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受タルモノハ被害ノ狀況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失倒壊若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第九條 醬油菓子賣糖烟草度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失倒壊若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ左ニ掲クル税金ニ限リ減免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ税金

一 醬油營業稅菓子營業稅賣糖營業稅烟草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ税金

第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受クントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受ルコトヲ得ス

第二款 所得稅

○所得稅法 明治二十年三月勅令第五號

朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證券其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦貸與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應ジ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備荒儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間平均高ヲ以テ算出スヘシ但シ所得收入以來未タ三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準テ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費、傷疾疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

稅率

第一等 所得金高三萬圓以上 百分ノ三

第二等 所得金高貳萬圓以上 百分ノ二半

第三等 所得金高壹萬圓以上 百分ノ二

第四等 所得金高千圓以上 百分ノ一半

第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高八圓位未滿ノ端數ヲ算セス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ税金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調査委員ヲ置キ毎年調査委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則

第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサ

ル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達テ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此

現行日本法令大全

場合ニ於ケルモ其税金ハ違テ受ケル金額ニ從テ之ヲ納ム
 第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣
 常置委員會ニ付テ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘ
 シ但其處分納稅後ニ沙ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ
 追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ
 第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査
 上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得
 第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者
 ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス
 第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金額十分ノ五以上ヲ
 減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ
 審査シテ其稅額ヲ減シ所得金額一箇年三百圓ヲ下ルモノハ
 之ヲ免稅スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セズ
 第二十四條 所得金額ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金額
 三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問
 ハス
 第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下
 ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ壹圓以上壹圓九十
 五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十七條 此稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再
 犯加重、數罪併發ノ例ヲ用ヒス
 第二十八條 此稅法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第二十九條 此稅法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス
 但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニ於テ

ハ官府ヨリ受ケル俸給、手當、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ
 内ニテ施行セズ
 附則
 本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日迄ニ差出スヘシ
 ○所得稅法施行細則 明治二十年五月
 大藏省令第八號
 所得稅法施行細則左ノ通相定ム
 所得稅法施行細則
 第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合
 ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ
 以テ届出納稅スヘキモノトス
 第二條 稅法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得
 ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均
 若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノ
 トス
 第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算
 出スヘシ
 第四條 稅法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ
 第五條 左ニ掲ケル者ハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ「戶
 長」ヲ經テ郡區長ニ届出此稅法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨
 セシムヘシ
 一 此稅法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生
 スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者
 一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此稅法ヲ施行セサル地
 ニ寄留スル納稅者

現行日本法令大全

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住
 地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得
 額ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ
 第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ
 郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ
 其意見ヲ附スヘシ
 第八條 納稅者他ノ郡區役所管轄内ニ轉居セントスルトキ及
 ヒ轉居シタルトキハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ
 第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タ
 ルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居
 先ノ郡區長ニ通報スヘシ
 第十條 郡區長ハ其所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得
 額ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一
 個人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得
 第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ
 依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ
 第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣
 知事之ヲ定ム
 第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已
 ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル
 第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署
 名スヘシ
 第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十
 日マテニ之ヲ達スヘシ
 第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府
 縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク一區内ヲ數部ニ

劃シ毎部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ
 所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得
 第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北
 海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ查定スヘシ
 第十八條 調査委員召集ニ應ゼサルカ又ハ會員過半数出席セ
 ス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテ
 ニ調査ヲ了セザルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付
 シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指
 揮ヲ請フヘシ
 第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル
 者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 附則
 本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十
 二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ(二十年九月十五日大藏省令第
 十三號ヲ以テ本項ヲ改正ス)
 (書式第一號)
 所得金額届
 △稅法第二條第一項ノ所得金ハ公債證券株券貸金等
 給其他其稅法ノ規定ニ從ヒ各別項ニ記スルヲ要ス
 何々ノ利息又ハ利益配當金又ハ何々
 一金何圓
 貸金ノ利息
 一金何圓
 △稅法第二條第二項ノ所得金營業並ニ資産ノ種類ヲ別テ之ヲ記スルヲ
 要ス但各該種別ニシテ所得額ヲ分別シ種別ノハ之ヲ合記スヘシ其支店
 分店及ヒ居住外地外ニ屬スルモノハ毎箇所ノ所得額ヲ別記スヘシ其所得
 額ハ別記スヘシ若シ其所得額同スルモノハ之ヲ合記スヘシ又
 別記スルハ別記スヘシ
 何々ノ所得
 一金何圓
 外
 金何圓 何租、何稅、區町村費、備荒儲蓄金
 金何圓 製造品原質物、代金、商品原價

第四類 第二章 第二款 所得稅

七百四

金何圓 借地借家料、何々借入料、何々修繕料
 金何圓 種代、肥代、何々買入代金
 金何圓 雇人給料、何々手當、何々費
 金何圓 何々ニ係ル負債ノ利息
 小以金
 所得高計金
 右之通ニ候也

年月日

何縣何町何村居住(又ハ寄留)

何 誰

(若シ管理人ナルトキハ)
何縣何町何村何能納稅管理人

何 誰

郡長宛

(書式第二號)

所得稅納入地届

▲所得及扣除金ノ區分力ハ總
ノ第一號書式ニ遵ヒテスヘシ

一金何圓 何々ノ所得
一金何圓 何々ノ所得
外

金何圓 何々
金何圓 何々

小以金

所得高計金何圓

右ハ御所轄郡區内ノ所得金ニ有之候處稅金ハ何縣何町何村
ニ於テ合算ノ上相納候ニ付此段及御届候也

(書式第三號)

郡長宛

年月日

何縣何町何村居住(又ハ寄留)

何 誰

(若シ管理人ナルトキハ)

何縣何町何村何能納稅管理人

何 誰

明治 年

何縣何町

何等所得稅金、
右所得稅ノ等級金額頭書ノ通相定ム但之ヲ不當トスル
トキハ所得稅法第十九條ニ據リ申出ヘシ

年月日

何縣長 何 誰印

○所得稅納稅者届出ノ書面誤謬訂正

申立取扱方

明治二十一年七月
大藏省訓令第三十五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申
出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限リ
左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ
之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ
郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議
後ニ係ル者ハ所得稅法第十八條及第二十條ニ據リ處分ス

○市制町村制施行地ノ所得稅

明治二十二年四月
法律第十四號

市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得稅法第六條ノ屆書ハ町村ニ
於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ
之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東
京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九
條ノ調査委員ノ選舉人被選舉人ノ現住ハ調査委員會設置區域
内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大
阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區
長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見ヲ
ルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十
五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十
五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サ
シムルコトヲ得

○市制施行地ニ於ケル所得稅其他

諸稅等ニ關シ心得方

明治二十二年五月
大藏省令第七號

市制施行ノ地ニ於テハ所得稅法施行ニ關シ府縣知事大藏大臣
ノ認可ヲ受テ若干名ノ臨時取調掛ヲ置キ所得稅調査ニ關スル
下調ヲ爲シシムルコトヲ得

市制施行ノ地ニ於テハ諸稅ニ關スル當省令違告示中郡區長又

第二款 酒稅

○酒造稅則

明治十三年九月
布告第四十號

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ従前ノ酒
類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則(別冊)

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳
ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相
當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スガ若ハ資産ヲ有スル保證人
ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(二十三年七
十九號ヲ以テ本項
以下四項ヲ追加ス)

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條
ノ處罰ヲ受テ滿三年ヲ經過セサル者

二 酒類造石稅ノ滞納處分ヲ受テ滿三年ヲ經過セサル者

三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者

現行日本法令大全

保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒酒類其他釀造酒類

二類 蒸溜酒 燒酎酒類再製酒類其他(十五年第十七號布告ヲ以テ)ノ下ノ酒類

三類 再製酒 酒類酒類白濁等釀造酒類(酒類ノ下ノ酒類)又ハ之ヲ元トシテ製造シタル酒類

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

酒造場一箇所ニ付 金三十拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラザンハ免許セズ(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

清酒 百石

濁酒 十石

一類酒類 二類酒類 五石

新ニ酒造營業ヲサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ(十五年第十七號布告ヲ以テ全條改正)

第六條 免許證札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許證札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セントキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納稅 造石檢査

第八條 免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石稅ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(九號ヲ以テ全條改正)

第一期 四月十五日限

第二期 八月十五日限

第三期 十一月十五日限

六月一日ヨリ九月三十日迄檢査濟石數ニ係ル稅額ノ全數

並ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期 一月十五日限

前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出檢査ヲ受ケヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受テ現石數ニ付納稅スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上檢査ヲ受ケヘシ

第十一條 營業免許後不動產ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於テハ第一條第二

現行日本法令大全

項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立ラシムヘシ

前項ノ保證物ヲ差出サス若ハ保證人ヲ立サルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラス檢査濟酒類ニ係ル造石稅ヲ納メシムヘシ(二十三年七月法律第四十號ヲ以テ全條改正)

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖トモ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條 檢査未濟ノ酒類ヘ檢査濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 檢査未濟ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル時ハ第一條ノ納期ニ拘ハラス時ハ造石稅ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 檢査濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢査濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ檢査ヲ受ケヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢査ヲ受ケヘシ

第十六條 檢査濟酒類納稅以前ニ於テ廢敗シ若ハ天災其他避クヘカナル事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ檢査ヲ受ケ其造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得(上同)

第十七條 前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應ジ造石稅ヲ納ムヘシ(上同)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒も其仕込込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受ケヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出ツ可シ(十六年第二十六號布告ヲ以テ全條改正)

造酒著手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スレバ諸器械ヲ酒造場外ヘ移ストテ許サス(二十三年七月法律第四十九號ヲ以テ全條改正)

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もト販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もト不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ非ス(十五年第十七號布告ヲ以テ全條改正)

第二十二條 他ノ委託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正)

第二十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(上同)

檢査既濟ノ酒類ヘ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許證札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒用諸器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直チニ管廳ヘ届出テ再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期酒類出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則(明治十九年八月勅令第六十號)

○ 酒造營業者醉元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ該稅則ニ準據ス

○ 酒造營業者醉元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未済ノ酒類ヲ以テ醉ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ醉ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者醉製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘ

シ造フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○ 酒造稅則附則改正 (明治十九年七月勅令第六十號)

酒造稅則附則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十五年十二月第六十一號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

第一條 家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シテ製造セント欲スル者ハ其管轄廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ム可シ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一期トス

第三條 家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲ケタル者ハ家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受領小賣營業者

一 飲食店又ハ旅館屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石以上製造スル者ハ其起ユルヲ得ス

第六條 家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケラ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○ 酒造稅則施行細則 (明治二十三年八月大藏省令第二十號)

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則施行細則左ノ通相定メ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

但明治十七年八月第六十四號當省達及明治二十二年十月第十四號省令ハ同日ヨリ廢止ス

酒造稅則施行細則

第一條 稅則第一條第一項ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其願書ニ造石見込高ヲ記シ其酒造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數トニ拘ハラズ總テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管轄廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖トモ検査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管轄廳ノ許可ヲ受ケ酒造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

稅則第一條第二項ニ依リ保證物又ハ保證人ヲ要スルモノハ願

出ノ際保證物又ハ保證人ヲ定メ認可ヲ受クヘシ
 免許ヲ受ケタル後造石見込高ヲ増加シ又ハ土地建物等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ヘシ
 免許ヲ受ケタル者ニシテ翌期ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ其年十月一日迄ニ願書ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ差出シ免許ノ印ヲ受クヘシ
 稅則第一條二項一ノ年數ハ處罰ハ宣告ノ日滯納處分ハ完結ノ日ヨリ免許届出ノ日迄滿三年トス
 第二條 酒造場ヲ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ
 他ノ管轄地ヘ移轉セントスルトキハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受クヘシ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ
 第三條 免許鑑札ヲ賣買讓與セントスルトキハ雙方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ若シ他管廳ニ交渉スルトキハ前條ノ手續ニ依ルヘシ
 第四條 稅則第一條二項ニ依リ徵スヘキ保證物ノ種類左ノ如シ
 有利公債證書
 大藏省證券
 日本銀行株券
 正金銀行株券
 國立銀行株券
 政府ノ保證ヲ受クル會社株券債券
 府縣郡市町村ノ公債證券
 土地建物

第五條 前條保證物ノ保證價格ハ左ノ割合ニ依テ定ム
 一 公債證券ハ明治二十三年勅令第四號第三條ノ價格ニ依ル
 二 大藏省證券ハ其券面ノ金額ニ依ル
 三 銀行會社株券債券府縣郡市町村ノ公債證券ハ價格十分ノ八
 四 土地建物ハ價格十分ノ六
 第六條 稅則第一條二項三ノ所有不動産ノ價格及ヒ保證物トシテ差出スヘキ株券債券公債證券不動産ノ價格ハ各地現賣買ノ價格ヲ標準トシテ地方長官之ヲ定ム
 前項ニ依リ定メタル價格ニ付異議アルトキハ地方廳及ヒ其所有者ヨリ各二名ノ評價人ヲ撰ミ價格ヲ評定セシメ其評定價格ノ平均ニ依リ之ヲ定ム
 第七條 稅則第一條二項ニ依リ立ル所ノ保證人ハ不動産ヲ有シ又ハ所得稅ヲ納ムル丁年以上ノ男子ニシテ地方長官ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル
 第八條 保證物ハ土地建物ヲ除クノ外管廳ニ於テ之ヲ保管スヘシ
 第九條 當初ノ造石見込高ニ依リ其營業ヲ免許シタルノ後更ニ増石スルトキハ之ニ相當スル保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立ラシムヘシ
 第十條 保證ヲ徵セスシテ營業ヲ許可シタルモノ其造石數ヲ増加シタルトキ其所有不動産價格造石稅四分ノ一ヲ下リタルトキハ保證物ヲ徵シ又ハ保證人ヲ立ラシムヘシ
 第十一條 稅則第十一條營業免許後不動産ヲ賣渡讓渡及抵當ト爲ス場合ニ於テハ其不動産ノ位置番號名稱種類段別又ハ

坪數及土地臺帳記入ノ地價地租ヲ詳記シテ管廳ニ届出ツヘシ
 第十二條 酒造用容器ハ左ニ掲クル方法ニ依リ其容積ヲ量リ所轄稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號烙印及石數ノ記載ヲ受クヘシ
 酒造用類丈量法
 口徑口徑ヨリ第一洞徑口徑ヨリ全深四分第二洞徑口徑第三洞徑分ノ二下リタル箇所底徑ノ箇所ハ何ノ内側リニテ縱橫ニ測ルノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等點ノモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ
 但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ
 算則
 (一) 第二洞徑以上ノ分
 口徑ト第一洞徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
 第一洞徑ト第二洞徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
 口徑ト第二洞徑ノ和ハ第一洞徑ヲ乘シ丙トス
 甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四乘シ一位ヲ石位トシ丈量尺度ヲ乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル
 但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ
 (二) 第二洞徑以下ノ分
 第二洞徑ト第三洞徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
 第三洞徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
 第二洞徑ト底徑ノ和ハ第三洞徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四乘シ之ヲ四ニテ除シ其容量ヲ得ル
 右(一)(二)ヲ合算シ滿量桶ノ石數ヲ得ル
 第十三條 酒造用容器ヲ修繕シタルトキハ使用以前管廳ノ檢査ヲ受クルモノトス
 第十四條 甕類及胴張桶其他第十一條ノ丈量法及算則ニ依リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ測定スヘシ
 第十五條 稅則第十條ノ檢査ヲ受クヘキ酒類ハ其容器ノ口徑ヨリ一寸ヲ減シ容積ノ置クヘシ其入實容器測定ノ全數ニ充テサル端數ハ左ノ算則ニ依ルヘシ
 入實第一洞徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ第一洞徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘ト假定ス此四倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ底徑トス
 假定ノ口徑ト第一洞徑トノ和ヲ自乘シ甲トス
 假定ノ口徑ト第二洞徑トノ和ヲ自乘シ乙トス
 右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル
 入實第一洞徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ第一洞徑ヨリ第二洞徑ヲ減シ之ニ容積面ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ第一洞徑ヨリ第二洞徑ヲ減シ之ニ容積面ト假定ス此口徑ト第二洞徑トノ和ヲ自乘シ甲トス
 假定ノ口徑ト第二洞徑トノ和ヲ自乘シ乙トス
 右甲ヨリ乙ヲ減シ容積面ヨリ第二洞徑ヲ入實深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シタルモノニ第二洞徑以下ノ石數ヲ加ヘ現在ノ石數ヲ得ル
 入實第三洞徑以上若クハ以下ニアルトキハ前項ニ準據スヘシ

第十六條 稅則第十七條ニ依リ酒類ヲ變製セントスルトキハ更ニ其變製スヘキ酒類ノ種目及石數ヲ届出テ製成ノ上尙檢査ヲ受クルモノトス

第十七條 檢査未済ノ酒類腐敗其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ所轄稅檢査員派出所ニ届出檢査ヲ受クヘシ

第十八條 稅則第十八條造石稅免除酒類ハ一期中製造石高ヲ翌期十月中ニ届出ツヘシ

第十九條 檢査酒類及古酒買入酒等ヲ粕漉ニスルトキハ其時々届出檢査ヲ受ク尙製成ノ上檢査ヲ受クルモノトス但此ノ場合ニ於テ増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第二十條 濁酒白酒ハ醗ノ儘其他ノ酒類ハ製成ノ上（洋引ヲ要スルモノハ洋引ノ手續ヲ經テ）製造石數ノ檢査ヲ受クヘシ（明治二十三年九月二十五日大藏省令第二十號ヲ以テ改正）

第二十一條 造石稅納期以前免許證札ヲ賣買讓與シ又ハ廢棄スルモノ、檢査酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

第二十二條 營業人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

酒造原品受辨帳
仕込帳
酒粕目方帳
蒸溜帳
變製酒類原品受辨帳
酒類倉出帳
酒類賣上帳
酒類買入帳

第二十三條 此細則ニ關スル帳簿記入方其他書式等ノ手續ハ

地方長官之ヲ定ム
附則

第二十四條 第十二條ハ此細則實施以後新調修繕ニ係ル分ヨリ施行ス

第二十五條 第十五條ノ場合ニ於テ舊丈量ノ容器ニ係ルモノハ左ノ算則ニ依ルヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積而ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ容積ノ深サヲ乘シ定スニ倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假底ノ底徑トス）
假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

○自家用料酒類製造者心得
明治十九年八月
大藏省令第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出スヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ヘ届出ヘシ

第三項 免許證札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許證札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セントキハ其管廳ニ届出再渡又ハ替換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許屆書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○北海道酒造稅率

明治二十三年九月
法律第二十四號

朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム

- 酒造免許稅 金貳拾圓
- 酒造場一箇所ニ付 金貳圓
- 酒類造石稅 金貳圓
一類一石ニ付 金三圓
二類一石ニ付 金四圓
三類一石ニ付 金四圓
- 稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

○輸出酒類戻稅規則

明治二十一年七月
勅令第五十四號

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

輸出酒類戻稅規則

第一條 內國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サハル者ハ其効力ヲ失フヘシ

第二條 造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納ス

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻稅規則施行細則

明治二十一年八月
大藏省令第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通定ム

輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國ヘ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ズ在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ

第四條 造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

○沖繩縣酒類出港稅則

明治二十一年三月
勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣酒類出港稅則

- 第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類一石ニ付金三圓ヲ賦課ス
- 第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船政所ヲ設置ス
- 第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船政所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ
- 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船政所ニ届出ヘシ
- 第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ
- 第六條 但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ
- 第六條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス
- 第七條 第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑托ヲ受タル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此規則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

明治二十一年七月
大藏省令第七號

本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

- 第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナクモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇船政所へ申出其酒類ノ検査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收證ヲ受クヘシ
- 一 酒類ノ種目及石數
- 一 出港稅額
- 一 容器ノ種類及箇數
- 一 荷主ノ族籍住所姓名
- 一 船名及船長姓名
- 一 出港地名
- 第二條 船政所ハ酒類ヲ検査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ
- 第三條 第一條ノ場合ニ於テ稅金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ秤量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス
- 第四條 主任官船舶ノ検査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出

港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

東京府區內清酒輸入規則

明治二十一年十二月
勅令第八十八號

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京府區內清酒輸入規則

- 第一條 東京府區內ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ
- 第二條 免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區內ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得ス
- 第三條 免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ費消シ又ハ賣捌タルモノハ其代金ヲ追徵ス
- 第四條 清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第三條第四項ノ稅金ヲ連脱シタルトキハ其稅金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第五條 此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス
- 第六條 清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シテ之ヲ議定セシムヘシ
- 第七條 東京府知事ハ此規則實行ノ費ニ任ス

第八條 此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收ス

明治十九年七月
勅令第六十一號

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ内左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

- 釀造酒一石ニ付 金四圓
- 蒸溜酒一石ニ付 金五圓
- 再製酒一石ニ付 金六圓

酒造稅則暨鹽營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏處分方

明治十六年十二月
布告第四十三號

酒造稅則暨鹽營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證據取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

酒造稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證據取調處分時限及立會方

明治十六年十二月
大藏省令第七十七號

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内へ立入り證據取調ノ

處分ヲ爲スハ日出後日没前ニ於テシ其地(戸長)若クハ用掛隣
佑ノ内ヲシテ立會ハシシ候様取計フヘシ此旨相達候事

○酒稅其他諸印紙稅營業稅等通稅取
締ノ爲メ租稅官吏ニ於テ警部以下
ハ監査打合せ方

酒類稅其他諸印紙稅營業稅等通稅取締ノ義ハ租稅專務ノ吏
員警部等ト打合セ取締相立候儀勿論ニ有之候處當省租稅局員
巡回ノ節モ其時宜ニヨリ直チニ警部以下ハ監査打合せ候儀モ
可有之ニ付豫メ警部以下ハ相達置可申此旨相達候事

○醬麴營業稅則

明治十三年九月
布告第四十一號

醬麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布
告候事

醬麴營業稅則(別冊)

- 第一章 免許證札 營業稅
第一條 凡ソ醬麴(酒類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其
旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許證札ヲ受ケ一期營業稅
トシテ左ノ通納ムヘシ
第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以
テ一期トス
第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳
ニ納ムヘシ
第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十

- 月中管廳ヘ届出ヘシ
第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等
遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ
受ケヘシ
第六條 免許證札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ
差出シ書換テ請フヘシ
第七條 免許證札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ
管廳ニ願出再渡又ハ書換テ請フヘシ
第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免
許證札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ
第二章 禁令 罰令
第九條 免許證札ハ貸借スルヲ許サス
第十條 免許證札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其
營業稅ニ倍ノ金額ヲ徵スヘシ
第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等
ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨ
リ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ
第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類賣買醬麴賣買造營
業ヲ爲シ又ハ酒類(酒類)ヲ製造スルヲ許サス(同上本條以下
條條ヲ追加ス)
第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰
金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キ
タル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ
第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不罰罪及ヒ減輕再
犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場

合ハ此限ニアラス
第十五條 醬麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則
ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○醬油稅則

明治二十一年六月
勅令第四十七號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

- 第一條 醬油(稱)製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願
出製造場一箇所毎ニ免許證札ヲ受ケヘシ但製造人十六歳未
滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘ
シ
第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ
營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓
造石稅 醬油諸味一石ニ付 金一圓
溜ハ製成一石ニ付 金一圓
第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三
十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ
營業ヲ爲ス者ハ免許證札ヲ受ケタルトキ其半年分ノ營業稅ヲ
納ムヘシ
第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者
ハ其節之ヲ納ムヘシ
第一期 五月三十一日限
第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル
稅額
第三期 翌年一月三十一日限
九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定済石數ニ係
ル稅額

- 第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日
以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケヘシ
造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキ
ハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受ケヘシ
第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキ
ハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其
醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受
置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期
限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得
第七條 製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一期所以上ヲ
應シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出
檢査ヲ受ケヘシ
第八條 免許證札ハ貸借賣買及讓渡讓受人ニ於テ得ス
第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムテ得サル事故
ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石稅査定未済ノ醬油
ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス
第十條 醬油製造人ハ造石稅査定未済ノ醬油ヲ賣渡讓渡
又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラ
ス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災
又ハ避ヘカフナル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ
管應ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得
第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ
第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置
キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ
該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出
シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大
臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本
邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ
第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ
自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ
醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコ
トヲ得ス
第十五條 醬油賣買ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコ
トヲ得ス其同居者亦同シ
第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコト
ヲ得ス
第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並
仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査
スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ
第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又
ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコ
トヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ
第十九條 免許證札ヲ受ケシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル
者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製

造器械ヲ沒收ス
第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ
相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及
容器ヲ沒收ス
第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケタル者第八條第九條
第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ
第十五條第十六條ヲ犯シタル者及違稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記
載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五
條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ
沒收ス
第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケタル者
及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ
處ス
第二十三條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣
渡讓渡又ハ消廢シタルトキハ其代金ヲ追徵ス
第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數
罪俱發ノ例ヲ用ヒス
第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタル
トキハ其製造人ヲ處罰ス
醬油製造人十六才未満ノ幼年者及癡癩白痴又ハ瘡癩ニシテ
此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス
第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス
附則
第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニ
ハ當分此稅則ヲ施行セズ但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油

ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ
第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニ
シテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管
應ニ届出ヘシ
○醬油稅則施行細則 明治二十一年八月
大藏省令第九號
本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム
醬油稅則施行細則
第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其
製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラヌ都テ其一區域ヲ以
テ一箇所トシ之ニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ
製シ願書ニ添ヘ管應ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト
雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ設置スルニ止マルモ
ノハ管應ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得
第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ
其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ
社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ
第三條 免許證札ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ醬油製造用器
械ノ種類員數目錄ヲ所管稅檢査員派出所ニ届出ヘシ
第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ
増減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管稅檢査員派出所ニ
届出ヘシ
第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ
見込石數並其製造方法ヲ所管稅檢査員派出所ニ届出ヘシ
但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

新クニ免許證札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以內ニ前
項ノ届出ヲ爲スヘシ
第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則
ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ
第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月
日買入先キヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ
第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管應ニ申出檢査ヲ受ク
ヘシ
前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査
員派出所ニ申出檢査ヲ受ケヘシ但容器ニハ番號及管應ノ烙
印ヲ施スモノトス
丈量法
口徑口頭ヨリ三寸胴徑ノ中央底徑ノ箇所軌ノ内測ニテ縱横 \oplus 圖
ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ二テ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ
前後左右中心等軌ノ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ
和シ五ヲ以テ之ヲ除ス
但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス
算則
口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四
乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺
ヲ乘シ二ヲ以テ之ヲ除シ其容積ヲ
得
容器中現類其他異樣ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其
準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石數測定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿テサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實測徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ測徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シニテ除クニテ得ルニテ除クニテ得ルニテ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四一(乘率)石位トシ其差度ハ分位ニ止テ乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實測徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス 此口徑ヲ求ムルニハ入實測徑ニアルモノハ其測徑ヲ假定ノ口徑トシ入實測徑ニ滿テサルモノハ入實測徑ヨリ底徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シニテ除クニテ得ルニテ底徑トス

假定ノ口徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四一乘率シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管應ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日內ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 代替書替ハ 六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ 十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添へ管應ニ申出添書ヲ受ク二十日以内之ヲ移轉地ノ管應ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳記シ所管租稅檢查員派出所ニ申出ヘシ 前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢業シタルトキハ直ニ所管租稅檢查員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油製造帳

醬油仕込帳

醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢查ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、簡數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢查ヲ請ヒ檢查證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添へ稅關ニ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管內ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石

數、簡數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢查ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿テサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケタル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ式圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ 第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

第四款 煙草稅 菓子稅 賣藥稅

○煙草稅則 明治二十一年四月 勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ク刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ク又ハ人ノ依職ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ク又ハ人ノ依職ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ク之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管應ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡腫ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スルヲ爲メ證約狀ヲ管應ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限內ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上 五百圓以下

煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管應ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管應ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草仕込鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裝ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ検査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ其類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但賣流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但賣流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ

受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十七條 煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙ノ製造煙草若クハ包裝ノ解統毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裝ノ解統毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證憑ヲ携帶スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ抽稅ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ四十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ製記載ヲ怠リタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ賣流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ賣流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第二十條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裝ノ解統毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消滅シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條 煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セズ但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ包裝ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裝ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則第十一條但書ノ場合ニ於テノ取扱方
明治二十三年五月
大藏省訓令第八十七號

第一項 稅則第十一條但書ニ據リテ其金額ヲ納付シタル者ハ之ニ對スル稅關ノ證明書ニ右製造煙草ノ量目包數及ヒ價格目錄ヲ添テ其地稅檢査員派出所ニ届出テ檢査ヲ受ケシムヘシ

第二項 前項製造煙草ノ包裝又ハ貼用印紙當初輸出ノ際稅關

第四類 第二章 第四款 煙草稅

菓子稅 賣藥稅

七百二十四

ノ検査ヲ受ケタル時ノ形状ヲ變更シタルモノナルトキハ右輸入主ニ於テ最寄製造人ニ委託シ之ヲ改裝シテ相常印紙ヲ貼用セシムヘシ

○煙草稅則施行細則

明治二十一年四月 大藏省令第3號

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

一公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者 一身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者 第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

- 黒色 一枚 二厘
淡赭色 一枚 三厘
黄色 一枚 四厘
赭色 一枚 六厘
萌黄色 一枚 八厘
淡青色 一枚 一錢
茶褐色 一枚 一錢二厘
淡紅色 一枚 一錢六厘
桔梗色 一枚 一錢八厘
橙黄色 一枚 二錢
老綠色 一枚 二錢四厘
濃青色 一枚 三錢
淡黒色 一枚 三錢二厘
黄綠色 一枚 四錢
嬌栗色 一枚 四錢八厘

第四類 第二章 第四款 煙草稅

菓子稅 賣藥稅

七百二十五

第九條 製造煙草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

Table with columns for color (紫, 赤), quantity (枚), and weight (百匁入, 六十匁入, etc.).

通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裝ノ表面ニ記入スヘシ 第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉捲又ハ賃卷ノ爲ニ煙草職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第四類 第二章 第四款 煙草稅

七百二十六

一葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷造主ノ氏名、住所

一製造煙草ノ種類、包裝ノ區別、箇數、荷造主ノ氏名、住所

第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一印紙賣渡ノ年月日

一印紙ノ種類枚數

一賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ検査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅検査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若シハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管應ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一代替書換ハ六十日間

一其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 (二十四年四月大藏省令第三七號ヲ以テ本條ヲ刪除ス)

菓子稅 賣藥稅

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第三十一條ニ違反シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上ニ依リ本條中刪除ス)

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裝ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテ第一條及第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

○煙草稅則取扱方要領 明治二十一年四月大藏省令第三十二號

煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款 吸煙ノ用ニ供スル煙草類(混和製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一葉煙草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト

(二十四年四月大藏省令第三十九號ヲ以テ本項ヲ刪除ス)

一質抵當ニ係ル煙草ノ受授及廢業者所持ノ煙草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト

一煙草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト

一煙草製造器械ノ取締即烙印等ノ方法ヲ施スコト

第四類 第二章 第四款 煙草稅

七百二十七

一內國産製ニ非ラサル煙草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齢、免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造煙草ノ包裝ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅検査員派出所ニ届出置カシムヘシ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ煙草營業者所持ノ煙草包裝及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ該當官吏其實事ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續 明治二十一年四月大藏省令第五十八號

本年四月勅令第二十六號煙草稅則第三條ニ據リテ管應ニ差出ス證約狀ノ調製左ノ如シ

證約狀調製手續

第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項 證約金額ハ管應ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ住シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者一名以上ヲ要ス

證約狀

一金何十圓也

一私儀煙草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事項ヲ確守スル爲メ前項ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證約ヲ爲スコト如件

第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲ爲ス事

第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セタルトキハ徵收御達ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事

第三款 前記期限内ニ證約金ヲ上納セサルトキハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ辨納可致事

右之通相違無之候也

何府何郡何町 本人 何 某印

何府何郡何町 保證人 何 某印

何府何郡何町 保證人 何 某印

何府何郡何町 保證人 何 某印

○煙草印紙交換手續 明治二十一年七月大藏省令第八十九號

煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

煙草印紙交換手續

第一條 煙草營業者天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裝若シハ其包裝ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若シハ汚染シタルトキハ其損失ニ係ル印紙ノ價格一口

菓子稅 賣藥稅

第四類 第二章 第四款 煙草稅

菓子稅 賣藥稅

七百二十八

壹圓以上ノ者ニ限リ新印紙ト交換ヲ請求スルコトヲ得
第二條 印紙交換ヲ請求セントスル煙草營業者ハ其天災其他
抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ
係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其
證明ヲ受クヘシ

第三條 租稅檢査員其事實ヲ證明シ印紙交換ヲ許可スヘキモ
ノト認ルトキハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其煙草ニ封印ヲ施
シ煙草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書
ヲ調製セシメ其餘白ニ證明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官
印ヲ押捺シテ之ヲ煙草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 煙草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役
所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ
損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ價格
一 貳拾圓未満壹圓ニ付 八拾錢
一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ證明書ヲ調査シ前條ノ割
合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 煙草營業者新印紙ヲ附取リタルトキハ租稅檢査員派
出所ニ申出第三條煙草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙
ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

○煙草耕作人届出及取纏方

明治二十二年七月
大藏省訓令第五十二號

煙草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ
事件ナルカ故ニ右耕作人ノ届出ハ各地方收稅部出張所ニ於テ

之ヲ取纏メ稅則執行上ノ要用ニ供スヘシ尤右届出取纏メ方ハ
各地ノ事宜ニ應ジ簡便ヲ量リ之ヲ施行スル備ト心得ヘシ

○菓子規則

明治十八年五月
布告第十一號

菓子稅則別紙ノ通り制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス
但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館沖繩縣札幌縣根室縣ハ
當分ニテ施行セス

菓子稅則(別紙)

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子卸賣人 菓子小賣人
菓子製造シテ之ヲ菓子營
業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ賣入レシ之ヲ菓子營
業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者
ヲ云フ

第二條 菓子營業者ヲ爲サントスル者ハ管應ニ願出營業鑑札ヲ
受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二
種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ
爲サントスルトキハ管應ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受
ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ
營業鑑札料 一枚ニ付金拾錢
仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢
出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ管應
ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘ
シ

第四類 第二章 第四款 煙草稅

菓子稅 賣藥稅

七百二十九

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管應ニ届出鑑札ヲ還納ス
ヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二
種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅ス
ヘシ

製造營業稅

雇人十八人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓

雇人一人アル者 一箇年 金三圓

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十八人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓

雇人一人アル者 一箇年 金三圓

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓

雇人二人アル者 一箇年 金三圓

雇人一人アル者 一箇年 金貳圓

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別クテ算ス
ルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三
十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新
ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ
納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月
一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クル
トキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ
增稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五
ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ
第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限
第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日 翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三拾圓未満ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト
爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員
數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ
管應ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通
管應ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラ
ス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(同上勅令ヲ以テ)
 第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ
 第十六條 (同上勅令ヲ以テ)
 第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス
 第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上勅令ヲ以テ)
 第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(同上)
 第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○賣藥印紙稅規則

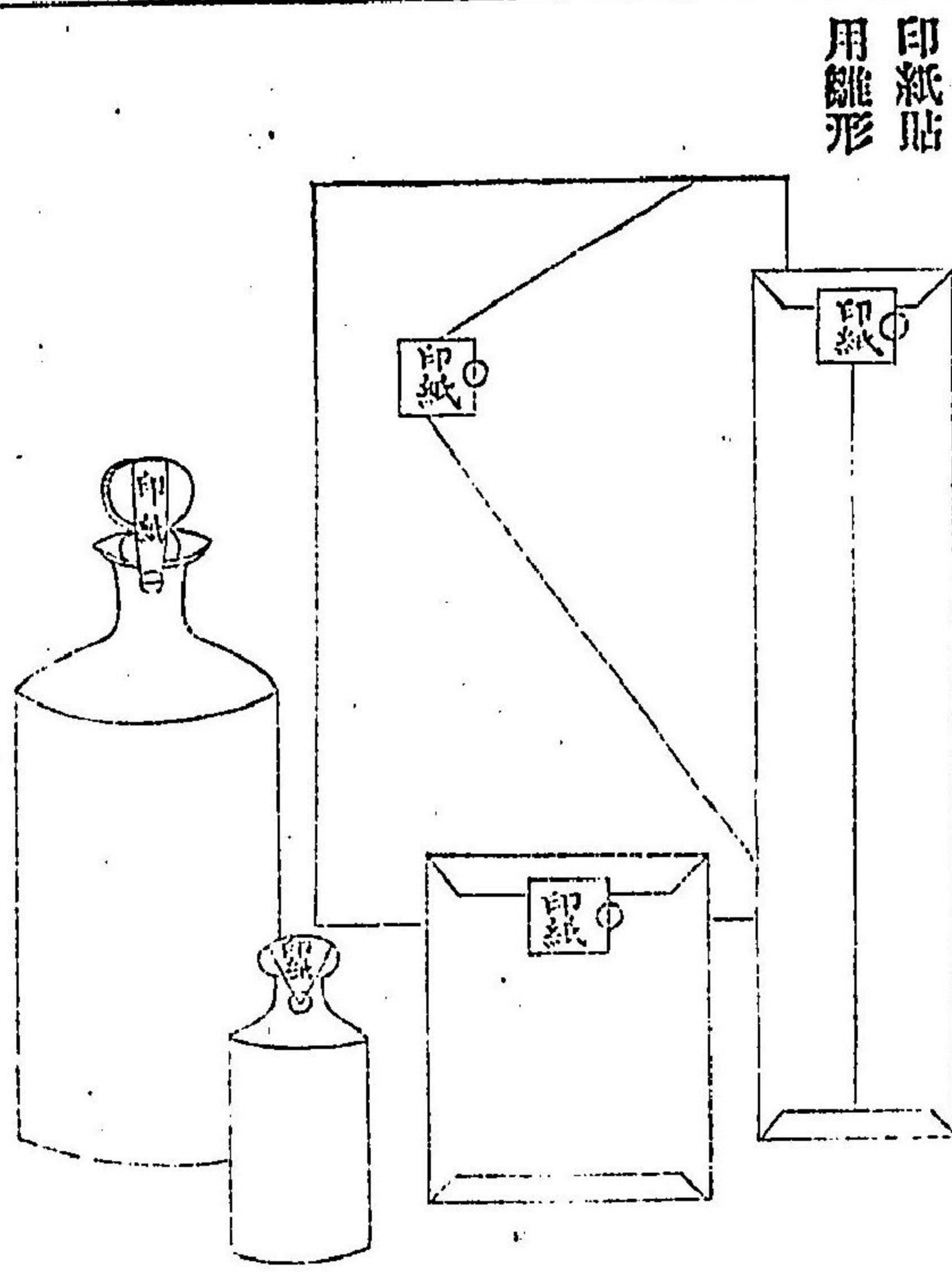
明治十五年十月

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 印紙稅ノ割合
 一定價壹錢迄 印稅 壹厘
 一同 貳錢迄 同 貳厘
 一同 三錢迄 同 三厘
 一同 五錢迄 同 五厘
 一同 拾錢迄 同 拾厘
 以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス
 第二條 印紙種目ハ左ノ如シ
 壹厘 淡青 黒
 貳厘 黃青 黒
 三厘 茶褐 黒
 肆厘 赭 黒
 伍厘 綠 黒
 陸厘 濃綠 黒
 柒厘 青 黒
 捌厘 橙 黒
 玖厘 紫 黒
 拾錢 深紅 色
 第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ
 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ク消印スヘシ
 第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス
 第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以

上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六條 賣藥者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

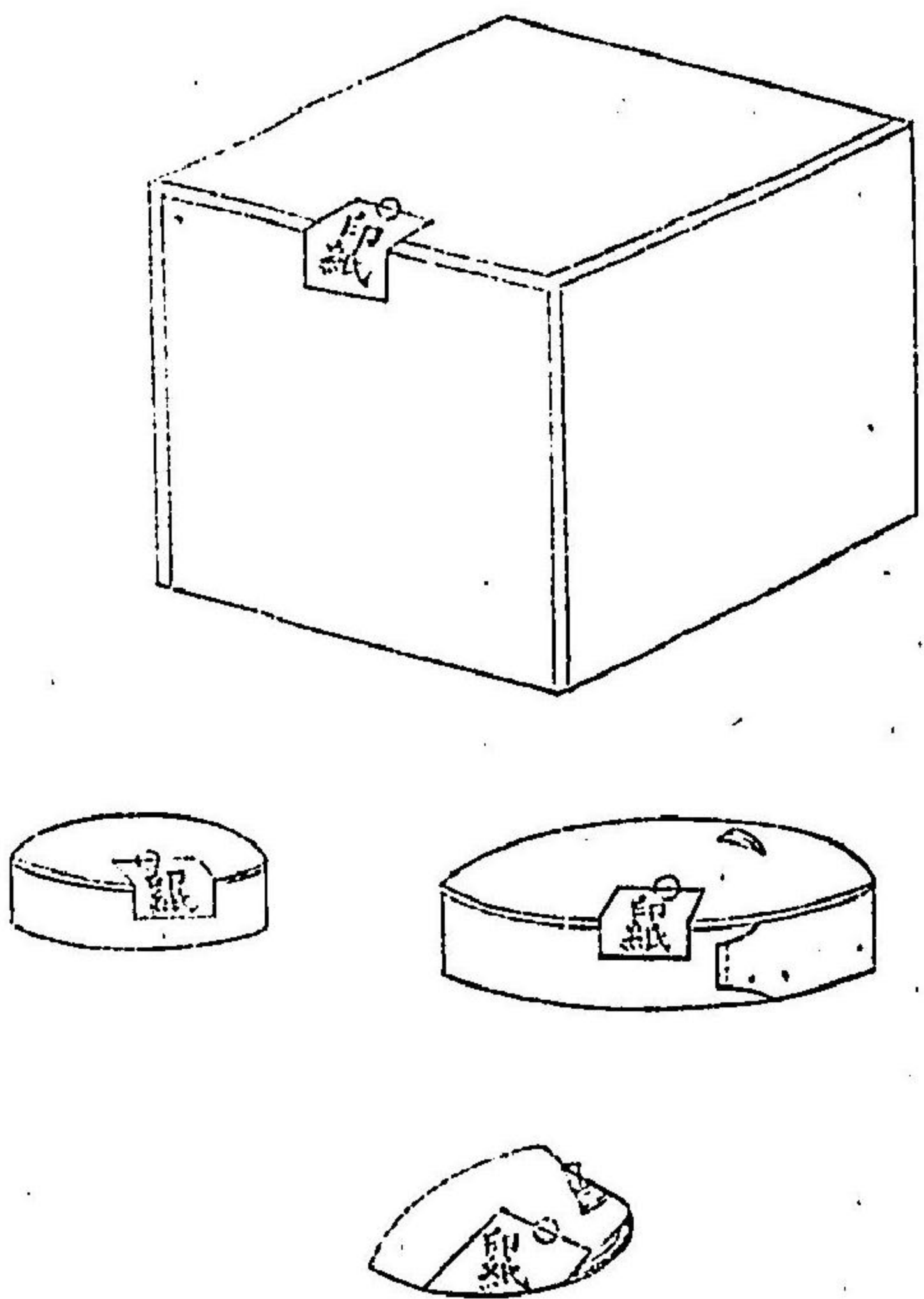


○賣藥印紙交換規則

明治十九年七月 大藏省令第二十三號

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性能効ヲ失シタルモノヲ廢棄セシムカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ
 一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙ハ八拾錢
 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢
 第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス



第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕牌ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ノ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受ヘシ

第五款 船稅 車稅 其他諸稅則

船稅規則

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

船稅規則(別冊)

第一章 鑑札 稅率 免稅
第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス
第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方應ニ願出検査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

- 西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
同 風帆船 同 金拾圓
日本形積石五拾石以上 百石ニ付同 金貳圓
同 積石五拾石未滿 長重船三間迄ハ一年金三拾錢
解漁船小廻船積石三拾 長重船三間迄ハ一年金五拾錢
但三間以上尙間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ
但日本形積石五拾石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ
第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方應ニ願出鑑札ヲ還納スヘシ
第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方應ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ
第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方應ニ願出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ
倉庫船
水田ノ耕作ニ用フル船
水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船
橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船
航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方應ニ上納スヘシ
第十二條 新製造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ
第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ
第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方應ニ願出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方應ニ願出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方應ニ願出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス
第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法

ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

船稅徵收手續

船稅徵收手續左ノ通相定メ(二十四年)一月一日ヨリ施行ス
(二十四年大藏省令第一號ヲ以テニ)
(十六年一月ヨリ施行スル旨ヲ示ス)
但明治十七年六月當省第三十八號達ハ同日ヨリ廢止ス
一 船籍證書ヲ受有スル船舶ハ其證書記載ノ登簿噸數又ハ積石數ヲ鑑札ニ記載シ其噸石數ニ據リ徵稅スヘシ其船籍證書ヲ受有セサルモノハ測度證書ニ據ルヘシ
一 測度ニ據リ在來徵稅ノ噸石數ニ増減ヲ生シタルトキハ其次期ヨリ更正ニ係ル稅金ヲ徵收スヘシ

車稅規則

明治六年(第三十一號)布告候傳馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年(第二十一號)布告候傳馬船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

- 馬車ニ正立以上 一箇年稅金三圓
同 一正立 一箇年稅金貳圓
荷積馬車 一箇年稅金壹圓
人力車二人乘 一箇年稅金貳圓

同 一人乘 一箇年税金壹圓
 牛車 一箇年税金壹圓
 荷積大七七八車 一箇年税金壹圓
 荷積中小車但大六以下 一箇年税金五拾錢

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長ヘ届出檢印可申受事
 但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事(二十二年大藏省令第七號ヲ以テ市制町制施行ノ地ニ於テ諸車ヲ檢印シテハント欲スルトキハ市ニ於テハ府縣知事ニ町村ニ於テハ郡長ニ申出ヘキコトトス)

第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ被解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戸長ヘ取集テ其管轄廳ヘ可相納事
 但前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事(十一年第四號布告ヲ以テ納稅期改正)

第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル狀又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事
附則 (二十一年勅令第七號ヲ以テ本則追加)

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲ケル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七七八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

○人力車一人乘二人乘ノ區別

明治十四年九月
大藏省令第三十二號

八年第二十七號布告車稅規則中人力車ノ備橫市内法曲尺式尺未滿ヲ以テ一人乗トシ右以上ヲ以テ二人乗ト相定區別可致此

旨相違候事

○荷積車大七車中小車ノ區別

明治十一年七月
大藏省令第三十五號

車稅規則中荷積車ノ備ハ荷臺(金ケ物ヲ載スル場所)ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車ト相心得更ニ區別可致此旨相違候事

○耕作一途ニ用フル車類車稅免除ノ檢印燒記方

明治八年三月
大藏省令第四十號

本年第二十七號布告車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印(免稅)ヲ爲取集一車毎ニ燒記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相違候事

○船車賣藥牛馬賣買等ノ税金

明治十一年二月
布告第四號

船車賣藥牛馬賣買等ノ税金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事
 但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得

○牛馬賣買免稅規則

明治五年十一月
布告第三十三號

牛馬賣買渡世人之者免稅ノ儀昨幸未十二月中大藏省ヨリ相

違候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之樣可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免稅ノ儀昨幸未十二月相違候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相違候免稅規則ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取集テ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月 大 藏 省

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬賣買票ニ付免稅證札壹枚相渡可申事
 但賣買票ハ牛馬共七匹ニ限リ免稅證札所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免稅證札新規受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅ノ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事(七年第四十五號布告ヲ以テ全條改正ス)

第三條 免稅證札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ事實取調免稅證札相渡可申事

第四條 免稅證札壹枚ニ付一ヶ年税金壹圓上納可致事(但昔ハ依リ消滅ス)

第五條 免稅證札燒印並押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各縣人共ヘ相渡可申事
 但免稅證札燒印並押切判其國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ヘ可差出事

第六條 右樣取締相立候上ハ向後無免稅證札ニテ賣買不相成萬一

無免稅證札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免稅稅十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬擲代金ノ十分ノ二倍美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬擲代並科料金ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 免稅證札ハ貸借決テ不相成候事(七年第四十五號布告ヲ以テ本條追加)
 但免稅證札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ條ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免稅稅五倍ノ科料可申付事

右之通規則相定候事

○牛馬賣買免稅規則中追加ス

明治八年十一月
布告第六十六號

明治七年第六十七號ヲ以テ布告候「酒造綾油商船並生糸」牛馬賣買免稅規則追加ノ儀相廢シ更ニ「商船生糸」牛馬賣買免稅規則中左ノ通追加候條此旨布告候事(前條ノ件ハ十六年第十三號布告ニ依リ消滅生糸ハ稅則廢止ニ付消滅)

〔商船 生糸〕 牛馬

右ノ免稅水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳ヘ届出新規免稅證札可申受事
 但手數料トシテ免稅證札一枚ニ付金貳拾錢可相納事

○牛馬賣買免稅規則中節取計方

明治九年七月
大藏省令第五十九號

牛馬賣買免稅規則中節取計方

明治二十年四月大藏省令第六號北海道水產稅則施行細則左ノ通改正ス

北海道水產稅則施行細則

第一條 水產稅ノ納期及其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ每納期ノ納額割合ヲ繰上ケ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第一期 六月二日ヨリ 百分ノ四十
第二期 八月一日ヨリ 百分ノ四十
第三期 十月一日ヨリ 百分ノ四十
第四期 十二月一日ヨリ 百分ノ四十
第五期 翌年三月三十一日ヨリ 百分ノ四十

但北海道廳長官ハ各地方漁業ノ期節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ本項ノ納期ヲ七月三十一日マテ繰下クルコトヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ具シ大藏大臣ニ報告スヘシ

石狩國 石狩郡 渡島國 函館區 龜田郡
第一期 六月一日ヨリ 百分ノ五
第二期 八月一日ヨリ 百分ノ二十
第三期 十月一日ヨリ 百分ノ二十五
第四期 十二月一日ヨリ 百分ノ二十五
第五期 翌年三月三十一日ヨリ 百分ノ二十五

第二條 納稅委員ハ每年水產物每種類產出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ產出ノ水產物總高尙尙價格ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ツヘシ但其產出ノ季節ヲ限ラサルモノハ前半年分ヲ其年八月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ取調ヘ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 水產物ノ總高取調ニ關シ水產物營業人ニ於テ其水產物產出高及價格ヲ偽リ又ハ納稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ罰以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但產出高及價格ヲ偽リタルモノ自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

北海道水產稅營業者納稅方

明治二十三年十月 大藏省令第二十五號

明治二十年三月勅令第六號北海道水產稅則附則第十六條ニ依リ納稅シ來レル水產營業者ハ二十年四月已後三箇年間ノ平均產出額ニ就キ本規則ニ據リ納稅スヘシ

北海道水產稅算出價額ニ係ル件

明治二十四年三月 大藏省令第四號

北海道水產稅ノ算出價額ハ明治二十一年一月ヨリ同二十三年十二月マテ三箇年間水產物ノ平均產出高並ニ賣買相場ニ依リ之ヲ改正シ二十五年度ヨリ施行ス

北海道水產稅品產出高及其價額

明治二十四年八月 大藏省令第六十四號

明治二十年五月當省第二九六五號ヲ以テ北海道水產稅品產出高

及其價額報告方相違置候處自今其年一月ヨリ六月マテノ分ヲ九月ニ七月ヨリ十二月マテノ分ヲ翌年三月ニ從前ノ様式ニ據リ主稅局ヘ報告スヘシ

國立銀行稅額

明治十一年九月 布告第三十九號

明治九年八月第六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ條ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事

但納期ノ條ハ一ヶ年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

米商會所株式取引所收稅規則

明治十八年十一月 布告第三十八號

米商會所並株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年九月第三十號布告明治十五年十二月第六十五號布告及同年同第六十七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所並株式取引所收稅規則

第一條 會所並取引所ノ稅金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテハ地方廳ニ上納スヘシ

賣買各約定代金高 萬分ノ六
米穀定期賣買 (二十一年十一月十二日勅令第七十五號ヲ以テ(千分ノ二)ヲ(萬分ノ六)ニ改ム)

賣買各約定代金高

公債證券定期賣買

萬分ノ三 賣買各約定代金高

諸株式定期賣買

萬分ノ六

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル稅金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之レヲ還付セス

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ検査セシムヘシ

鑛業稅及鑛區稅徵收取扱方

明治二十五年四月 大藏省令第二十二號

本年六月一日ヨリ鑛業條例施行ニ付鑛業稅及ヒ鑛區稅徵收取扱方左ノ通心得ヘシ

一 北海道廳長官府縣知事ハ鑛業稅及ヒ鑛區稅彙帳ヲ設ク毎納期前鑛山監督署長ヨリ鑛業人ノ住所氏名及ヒ納稅額等ノ通知ヲ受ク之ヲ整理スヘシ但開業廢業其他通知ヲ受クヘキ手續ハ豫メ鑛山監督署長ト協議シ置クヘシ

二 鑛業稅又ハ鑛區稅ヲ滯納スル者アルトキハ其都度滯納者ノ住所氏名及ヒ稅目金額ヲ收入官吏ヨリ鑛山監督署長ヘ通知セシムヘシ

第三章 證券印紙稅

證券印稅規則

明治十七年五月 布告第十一號

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

證券印稅規則(別冊)

第一條 凡ソ財產ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ捺捺ヲ請フコトヲ得

- 一 當座預リ金引出小切手 印稅五厘
- 一 委任狀 同 五厘
- 一 金高記載ナキ約定證文 同 壹錢
- 一 遺物證文 同 壹錢
- 一 跡式證文 同 壹錢
- 一 讓與證文 同 壹錢
- 一 期限ヲ定メタル預リ金證文 同 壹錢
- 一 耕地小作證文 同 壹錢
- 一 雇人請合狀 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 壹錢
- 一 地所預リ證文 同 壹錢
- 一 家屋預リ證文 同 壹錢
- 一 諸物品切手 同 壹錢
- 一 借家證文 同 壹錢
- 一 賣買仕切書 同 壹錢
- 一 保險證文 同 壹錢

- 一 諸會社株券 同 壹錢
- 一 送金手形 同 壹錢
- 一 金銀通帳 一年以内 同 壹錢
- 一 金銀判取帳 同 貳拾錢
- 一 結社約定書 同 壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 營業ニ關スル送狀 印稅壹錢
- 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

- 一 金錢借用證文 同 壹錢
- 一 地所賣買證文 同 壹錢
- 一 家屋賣買證文 同 壹錢
- 一 金高記載アル諸物品預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載アル諸物品借用證文 同 壹錢
- 一 諸物品賣買證文 同 壹錢
- 一 金錢定期預リ證文 同 壹錢
- 一 金高記載アル諸般ノ契約證書 同 壹錢

- 金高貳拾圓以上五拾圓未滿 同 貳 錢
- 金高五拾圓以上百圓未滿 同 四 錢
- 金高百圓以上百五十圓未滿 同 六 錢
- 金高百五十圓以上貳百圓未滿 同 八 錢
- 金高貳百圓以上三百圓未滿 同 拾 壹 錢
- 金高三百圓以上四百圓未滿 同 拾 四 錢
- 金高四百圓以上六百圓未滿 同 貳 拾 錢
- 金高六百圓以上八百圓未滿 同 貳 拾 六 錢
- 金高八百圓以上千圓未滿 同 三 拾 貳 錢
- 金高千圓以上千四百圓未滿 同 三 拾 八 錢
- 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同 四 拾 四 錢
- 金高千七百圓以上貳千圓未滿 同 五 拾 錢
- 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 同 六 拾 錢
- 金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同 七 拾 錢
- 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同 八 拾 錢
- 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九 拾 錢
- 金高四千圓以上 同 壹 圓

- 金高百圓未滿 印稅貳 錢
- 金高百圓以上 同 四 錢
- 一爲替手形 一荷爲替手形 一約束手形 同 四 錢
- 金高五拾圓未滿 印稅壹 錢
- 金高五拾圓以上百圓未滿 同 貳 錢
- 金高百圓以上貳百圓未滿 同 四 錢
- 金高貳百圓以上五百圓未滿 同 八 錢
- 金高五百圓以上千圓未滿 同 拾 五 錢
- 金高千圓以上貳千圓未滿 同 貳 拾 五 錢
- 金高貳千圓以上 同 五 拾 錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
 一官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル職員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
 一〔國庫金取扱所〕又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
 一〔國庫金取扱所〕又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
 一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ〔國庫金取扱所〕又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
 一諸上納金ニ付〔國庫金取扱所〕又ハ爲換方ヨリ納入ヘ差出ス請取證書
 一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書(第二十四條ノ法律ニ依リテ追加)
 第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ
 第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿テタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ
 第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿テタルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スル

コトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ
 第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得
 第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
 第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
 第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ附入證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス
 第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以

上一四九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

○證券印紙及手形用紙種類定價

明治十七年五月
大藏省布達第十二號

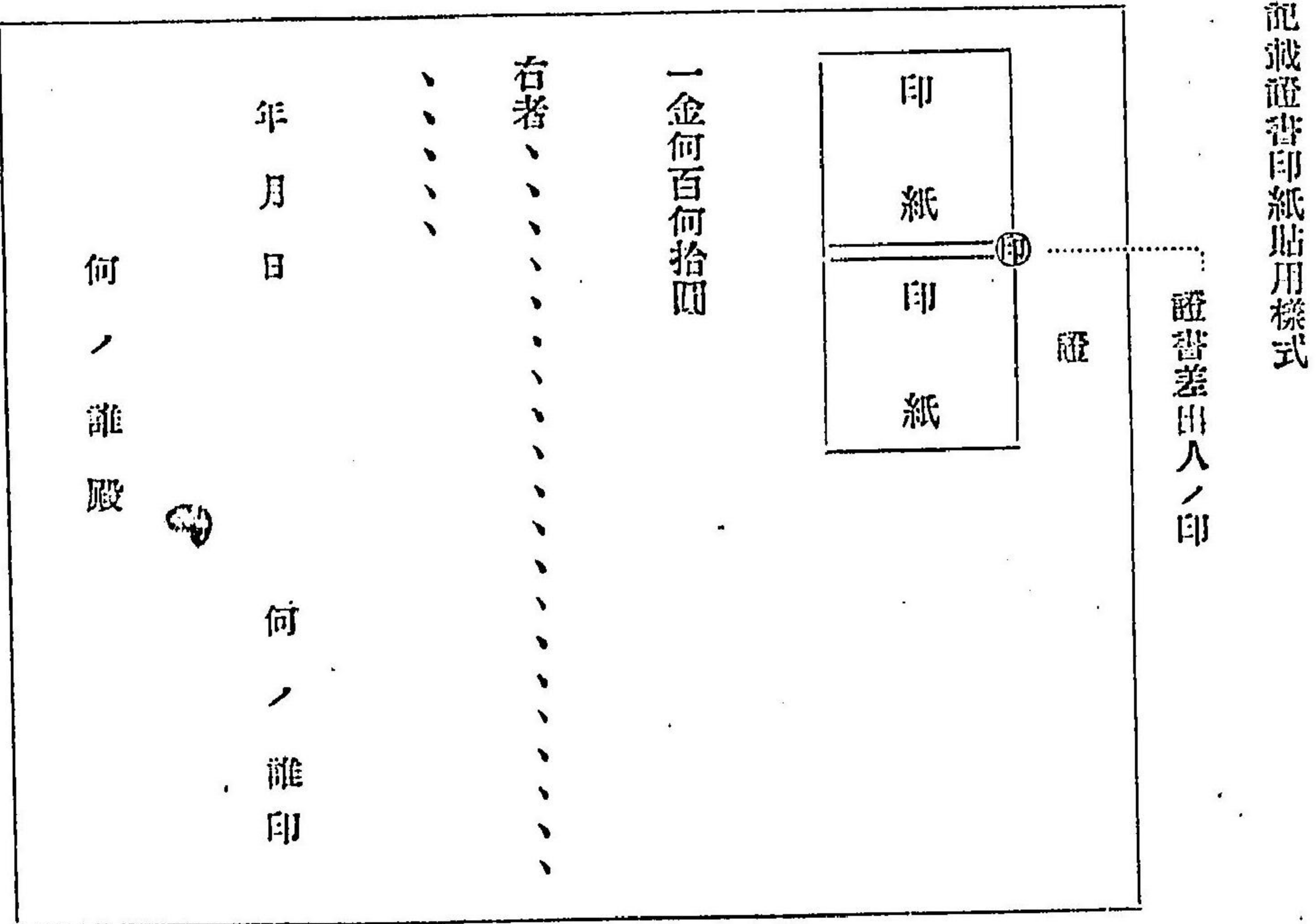
今般第十一號布告ヲ以テ證券印紙規則改正候ニ付テハ印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム
 但印紙ハ常分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

印紙	紺色	定價五厘	橙黃色	同壹錢
	黃綠色	同貳錢	蕪黃色	同五錢
	桔梗色	同拾錢	青色	同貳拾五錢
	淡黑色	同五拾錢	赤色	同壹圓
手形用紙	老綠色	定價壹錢	桔梗色	同貳錢
	淡黑色	同四錢	橙黃色	同八錢
	淡紺色	同拾五錢	淡紅色	同貳拾五錢
	淡青色	同五拾錢		

○證券帳簿印紙貼用様式

明治十七年五月
大藏省布達第五十六號

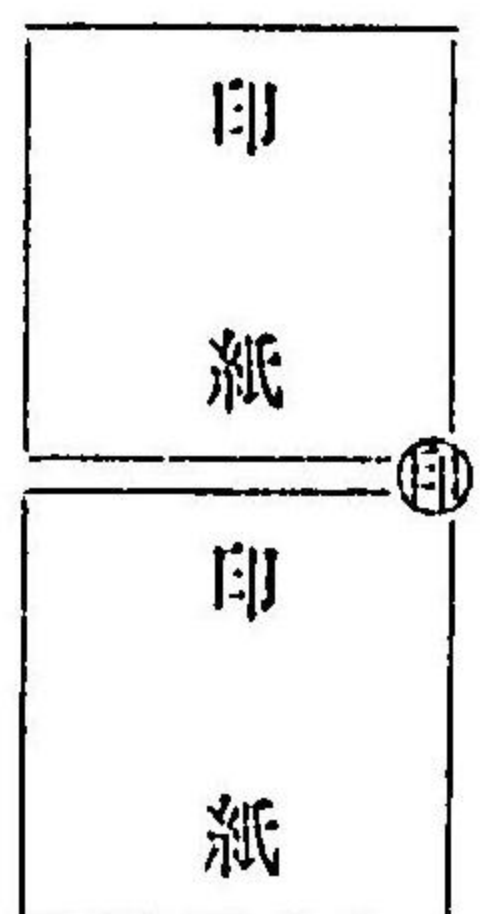
本年五月第拾壹號布告證券印紙規則改正相成候ニ付證書帳簿ヘ印紙貼用ノ様式左ノ通相定候條此旨告示候事



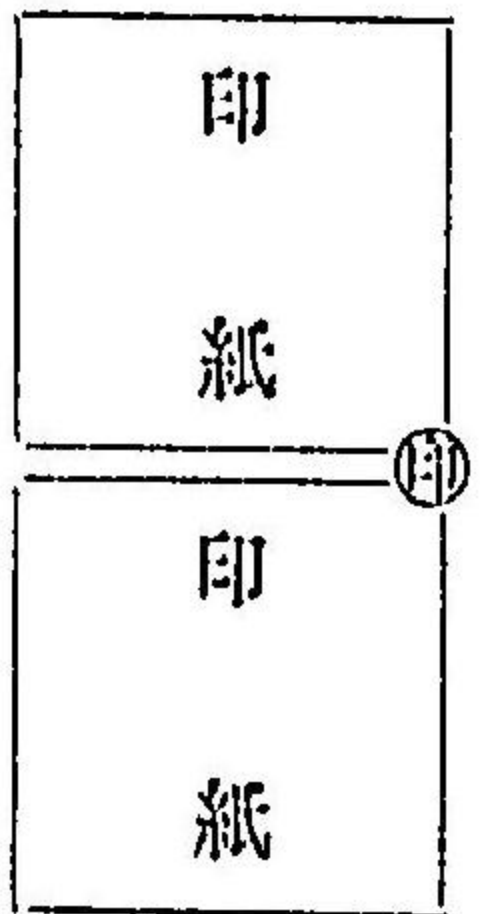
現行日本法令大全

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印



此帳簿附込期限何年何月何日何年



此帳簿附込見積金何千圓

附込期限何年何月何日何年

紙數何百何拾何葉

年月日

何ノ誰印

○印稅押捺ノ小切手銀行會社ニテ不用ノトキ押換ヲ請フヲ得

明治十二年六月 大藏省告示第十號

明治十二年第三十一號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リテ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ルモノハ手數料トシテ登割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九十枚ノ割合ヲ以テ稅印ヲ捺換スルモノトス

○當座預リ金引出小切手押印請求方

明治二十二年八月 大藏省告示第六十七號

證券印稅規則第二條第一類證書中當座預リ金引出小切手ノ押印ハ自今大藏省印刷局構内主稅局印紙稅課派出所ニ請求スヘシ

○稅印ノ押捺押印ヲ受タル小切手引出小切手稅印捺換ノ請ヲ允ス

明治二十年六月 大藏省告示第十號

明治十二年第三十一號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リテ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ルモノハ手數料トシテ登割ヲ減シ即チ舊小切手

百枚ニ對シ新小切手九拾枚ノ割合ヲ以テ稅印ヲ捺換スルモノトス

○證券印稅檢査ハ地方ノ情況ニ依リ臨時檢査ニ止ムルヲ得

明治二十年五月 大藏省告示第三十三號

證券印稅ハ地方ノ情況ニ依リ定期檢査ヲ執行セスシテ臨時檢査ニ止ムルモ妨無シ

○當座預引出小切手押印出願及納稅手續ヲ定ム

明治十七年六月 大藏省告示第七十五號

當座預金引出小切手押印出願及納稅手續左ノ通相定候條此旨告示候也
一 當座預金引出小切手ニ印稅押捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面ヘ小切手ヲ添ヘ主稅局ヘ差出スヘシ
一 主稅局ニ於テハ押印濟ノ上其枚數ヲ願人ヘ相違シ願人ハ此枚數ニ對スル稅金ニ左ノ雜形之通ナル預ク證書ヲ添ヘ東京國庫金取扱所ニ差出該證書ニ稅金預リ濟證印ヲ受ケ小切手引換ニ同局ヘ上納スヘシ

小切手押印稅

一金 何程

右現金何月何日東京國庫金取扱所ヘ相預ク上納候也

年月日

何 銀行

又何之 誰

○印紙類賣下賣捌規則

明治二十三年十一月 勅令第二百七十一號

朕印紙類賣下賣捌規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙 手形用紙共

煙草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣應ヨリ印紙類ヲ拂受ク之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ク之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣應ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七百四十七

現行日本法令大全

第五條 煙草營業人若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙、賣藥營業者請賣者行商者若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙ノ元賣捌及ヒ賣捌ヲ許可セス

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ
印紙類ノ賣下代金一回貳千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙額面ニ對シ百分ノ十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得
但交換印紙ハ拾錢以上取纏メケルモノニ限ル

一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ

一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其効ヲ失フモノトス

一 恩給若ハ扶助料ヲ受ケル者其權利消滅若ハ停止セラシタルトキ

一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ハラズ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

○印紙類賣下賣捌規則施行細則
明治二十三年十一月
大藏省令第三十四號

明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則施行細則左ノ通相定ム

印紙類賣下賣捌規則施行細則

第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各開稅分署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ

賣捌人ハ各開稅分署所轄内ヲ一區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ府縣知事適宜其人員ヲ定ムヘシ

第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ク又ハ賣渡スモノトス

一 開稅署ヨリ元賣捌人
〔登記印紙 百分ノ六〕
〔其他ノ印紙 百分ノ七〕

一 元賣捌人ヨリ賣捌人
〔登記印紙 百分ノ四〕
〔其他ノ印紙 百分ノ五〕

一 賣渡ストキ

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ

一 賣捌人ヨリ元賣捌人
〔登記印紙 百分ノ九〕
〔其他ノ印紙 百分ノ十〕

一 元賣捌人ヨリ開稅署
〔登記印紙 百分ノ八〕
〔其他ノ印紙 百分ノ九〕

一 請求スルトキ

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ元賣捌人ニ元賣捌人ハ開稅署ニ申出ヘシ

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限リ其抵當價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依ル

第五條 免許ヲ得タル元賣捌人ハ開稅署ヨリ賣捌人ハ開稅分署ヨリ各免許賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ
各賣捌人ノ改名轉居等ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ其訂正ヲ請フヘシ

廢業シタルトキハ標札ヲ返納スヘシ

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

附則

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙類賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

○印紙類賣捌人印紙類買入帳調製方
明治二十三年十二月
大藏省訓令第四百九號

本年十一月勅令第二百七十一號同年向月本省令第三十四號中印紙類賣捌人ハ印紙類買入帳ヲ製セシメ印紙類買入ヲ爲ス毎ニ買入ノ年月日印紙ノ種類枚數ヲ記入シテ之ヲ携帶セシメ元賣捌人ヲシテ之ニ賣渡ノ認印ヲ捺捺セシムヘシ

○訴訟身代限又ハ財產公賣ノ際
諸印紙類買上方
明治十七年十月
大藏省令第七十三號

民事訴訟身代限リ又ハ税金不納ニヨリ財產ノ全部ヲ公賣スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ノ際印紙ヲ所持スルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ手数料トシテ代價百分ノ十ヲ上納スルトキハ之ヲ管應ニ買上ルコトヲ得

但買上タル印紙類ハ各應元受ニ組入レ買上代金ハ收稅長ヨリ主稅官廳ヘ別途請求シ手数料ハ雜收入トシテ納付スヘシ
右相違候事

○印紙類賣捌人ニ人民所持ノ印紙
賣渡方
明治二十年一月
大藏省訓令第六十五號

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ共同〔郡區〕内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ルモノトス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ヲシテ其買取リタル事由及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置カシムヘシ〔明治廿二年一月四日大藏省訓令第五號ヲ以テ〔郡區〕ヲ〔府縣〕ニ改ム〕

一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ

一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省令第七十三號違ノ場合ニ該當スルトキ

第四類 第三章 證券印紙稅

一何人ニ限ラズ遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラルトキ

○印紙類賣下代金不納ノ者代金納付ノ分手数料ヲ給セス納付金減額

明治十九年九月
大藏省訓令第二十九號
明治十七年五月三十一日以前ニ係ル印紙類賣下代金不納ノ者爾後右代金ヲ納付スル分ハ別ニ賣下代金納付金ノ内ヨリ該手数料相當ノ金額ヲ減スヘシ

○印紙賣下賣捌規則取扱手續第八項 印紙代延納抵當公債證書價格

明治十九年六月當省訓令第二十二號印紙類賣下賣捌規則取扱手續第八項印紙代金ノ延納ヲ許可スル時其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ左ノ通之ヲ定ム

各入公債證書抵當價格	
中山道鐵道	額面百圓ニ付 金九拾五圓
七分利付金庫	額面百圓ニ付 金九拾五圓
五分同	
六分同	
起業	
金札引換	額面百圓ニ付 金九拾圓
海軍	
整理	

新公債……………額面百圓ニ付 金七拾貳圓

○印紙類出納規程

明治二十二年八月當省訓令第五十八號同年九月訓令第五十九號及同年十月訓令第六十一號印紙類出納ニ關スル規程左ノ通更正本年五月一日ヨリ施行ス

印紙類出納規程

- 第一條 印紙類ノ出納ハ總テ此規程ニ從フ
- 第二條 印紙類ノ出納ニ關スル命令ハ大藏大臣ノ委任ニ依リ大藏省ニ於テハ主稅局長府縣ニ於テハ府縣知事之ヲ掌ル
- 第三條 印紙類會計官吏ハ大藏省ニ於テハ大藏府ヲ以テ之ニ充テ府縣ニ於テハ收稅局ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 府縣印紙類出納命令官ハ印紙類ノ種類員數ヲ見積リ隨時大藏省印紙類出納命令官ニ向テ其配付ヲ請求スヘシ
- 第五條 印紙類出納命令官印紙類ノ請求還付買戻交換若ハ發送報告ヲ受ケタルトキハ印紙類會計官吏ニ其出納命令ヲナスヘシ
- 第六條 印紙類出納命令書ニハ其出納スヘキ年月日及ヒ支出又ハ受納ノ文字ヲ記載シ印紙類出納命令官ノ認印ヲ捺捺スヘシ但請求書願書等ノ欄外ニ之ヲ記載シ書式ヲ省略スルコトヲ得
- 第七條 印紙類會計官吏印紙類ノ出納命令ヲ受ケタルトキハ出納簿ニ登記シ現印紙ヲ出納スヘシ其受納ニ係ル分ハ仕出元印紙類會計官吏ニ領收證ヲ送付シ其支出ニ係ル分ハ仕出先印紙類出納命令官ニ發送報告ヲナスヘシ

第四類 第三章 證券印紙稅

第八條 印紙類其年度内ニ支出ニ至ラサルモノハ之ヲ其翌年度ノ元受ニ組入ルヘシ

一旦配付若ハ既ニ賣下タル印紙類ノ還付買戻又ハ交換ニ由テ收納シタルモノハ之ヲ其年度ノ元受ニ組入ルヘシ

第九條 印紙類會計官吏印紙類ノ送達ヲ運送受負者ニ委託シタルトキハ本人又ハ代理人ヲシテ其印紙類ノ種類員數ヲ調査セシメ其員數並荷物箇數量目ヲ記載シタル領收證ヲ徴スヘシ

第十條 印紙類到達シタルトキハ印紙類會計官吏ハ運送受負者又ハ其代理人立會ノ上開封シ受納命令書ニ照シ印紙類ノ種類員數ヲ調査シ領收證ヲ交付スヘシ

若シ其印紙類ノ種類員數ニ異同アルカ又ハ損傷汚染アルトキハ其證明書ヲ徴シ印紙類出納命令官ニ差出シ印紙類出納命令官ハ其證明書ヲ添ヘ仕出元印紙類出納命令官ヲ經テ仕出元印紙類會計官吏ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ印紙類會計官吏ハ實際領收シタル印紙類ヲ受入トナスヘシ

第十一條 印紙類會計官吏ハ毎月末日現在高表ヲ調製シ其保管ニ係ル印紙類ノ種類員數ヲ對照シ印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第十二條 印紙類會計官吏其保管ニ係ル印紙類ノ損傷汚染アルコトヲ發見シタルトキハ印紙類出納命令官ノ命令ヲ得テ損傷拂ニ立テ命令官立會ノ上府縣ニ於テハ燒却シ大藏省ニ於テハ煮潰スヘシ

府縣ニ於ル印紙ニシテ封包ノ保護膜顯著ニ係ル分ハ大藏省印紙類會計官吏ニ還付スヘシ

第十三條 (明治二十四年八月大藏省訓令第六十九號ヲ以テ本條削除ス)

第十四條 府縣ニ於ル物品會計規則第十一條ノ現品照合ノ爲メ検査官吏ヲ命スルコト及ヒ同第十五條第二項但書計算書調製ノ命令ハ府縣知事ニ委任ス

第十五條 本規則中府縣トアルヲ北海道廳若ハ島廳郡區役所ニ又府縣知事トアルヲ北海道廳長官ニ適用シ收稅長トアルヲ北海道廳理事官若ハ島司郡區長ニ適用ス

諸帳簿調製方備考

一用紙ハ厚質美濃紙ヲ使用スルモ妨クナシ

一印紙而價格ノ異ナル毎ニ記入シ其ノ末尾ニ合計ヲ附シ更ニ他ノ印紙ニ移ルヘシ

一印紙種類異ナル毎ニ適宜別帳ニナスモ妨クナシ

何年 度 簿 一用紙ニ記入シ其ノ末尾ニ合計ヲ附シ更ニ他ノ印紙ニ移ルヘシ

諸印紙類出納 一印紙種類異ナル毎ニ適宜別帳ニナスモ妨クナシ

府 縣 廳

(「内ハ米書」)

紙		
受	拂	殘高
100		100
500		600
	200	400
5		401
	4	396
	5	394
	2	444
50		144
	300	0
	144	
655	655	

現 行 日 本 法 令 大 全

第四類 第三章 證券印紙稅

明治何年度 印紙類受拂報告書	何 印 紙				
	年 月 日	摘 要	受	拂	殘高
	二十四年 一	前年度ヨリ越高	100		100
	四 六	謄膜糊著ノ分何府ヨリ返納			
	二十	但受納命令書第何號	300		400
	三十	糊著手直ノ爲印刷局渡シ 但支出命令書第何號		400	0
			400	400	

(用紙厚質美濃紙ニルモ妙引ナシ)

府 縣 廳

損傷汚染 交換受	計	賣下高	延 納	亡失毀 損	損傷汚染 交換渡	損傷汚染 燒却拂	天災其他汚染 ニ係ル交換渡	計	差引殘 高	備 考

七百五十三

現 行 日 本 法 令 大 全

第四類 第三章 證券印紙稅

何 年 度 印紙類出納簿		何 印 紙	
拂	殘高	年 月 日	摘 要
	1,000	二十四年 一	前年度ヨリ越高
500	500	四 十	主税局ヨリ受 但受納命令書第何號
		二十	元賣捌人何某へ賣下ケ 但支出命令書第何號
3,500	3,500	五 一	損傷ニ付交換ノ爲元賣捌人何某ヨリ返納 但受納命令書第何號
4,000	0	同上	同上交換渡シ 但支出命令書第何號
		十	損傷ニ付交換ノ爲返納ノ分燒却 但支出命令書第何號
		三十	保管中損傷汚染ノ分燒却 但支出命令書第何號
		六十	元賣捌人何某廢業ニ付買戻ノ分 但受納命令書第何號
		十二	謄膜糊著ノ分大藏省へ還納 但支出命令書第何號
		二十五年 三十一	二十五年度へ越高

主 税 局

何 年 度 損傷印紙類出納簿		何 印 紙	
年 月 日	摘 要	受	拂
二十四年 一	前年度ヨリ越高	1,000	
四 十	何府縣渡シ但支出命令書第何號		
二十	印刷局ヨリ受取高 但受納命令書第何號	3,000	
二十五年 三十一	二十五年度へ越高	4,000	

主 税 局

七百五十二

現 行 日 本 法 令 大 全

計	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	延納	賣下高	計	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	買戻	受取高	高	越

第四類 第三章 證券印紙稅

七百五十五

科 目	金額
手形用紙 約束	二四八十二五 五十五
爲換	二四八十二五 五十五
計	四九六四五 一一〇
登記印紙	二三五五十二五 十
計	二三五五十二五 十

明治何年度印紙類受拂前書ノ通相違無之候也
 年 月 日 府縣知事氏名印
 大藏大臣宛

現 行 日 本 法 令 大 全

計	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	延納	賣下高	計	損傷汚染 損傷却拂	損傷汚染 損傷却拂	買戻	受取高	高	越

第四類 第三章 證券印紙稅

七百五十四

科 目	金額
實業印紙 角形	二五二三四五十一 三五二三四五十一
長形	二五二三四五十一 三五二三四五十一
計	五〇四七九〇二 七〇四七九〇二
訴訟用印紙	三五五十二五 十
計	三五五十二五 十

第五類 貨幣 公債 度量衡

第一章 貨幣 紙幣 證券

○貨幣條例

明治八年六月 布告第八號

新貨幣條例之備明治四年... 則例目ノ刪補等有之候ニ付本年四月第六拾貳號布告但書之通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事

貨幣條例(別冊)

皇國往古ヨリ他邦貿易ノ事少ナク貨幣之制度イマヲ精密ナラズ其品類各種ニシテ其價位モ亦一定セス今其概略ヲ舉ムニハ慶長金アリ享保金アリ文字金アリ大小判金アリ一分金アリ二分金アリ...

ノ道ヲ塞キ流通ノ公益殆ソト絶エントスルニ至ル實ニコレ天下一般ノ窮厄ニシテ萬民ノ痛心更ニ之ヨリ大ナルモノナシ今其緣由ヲ尋繹スルニ全ク一定ノ價位ナシテ善惡良否ヲ雜用スルノ舊弊ヨリ生スル事ナリ...

明治四年辛未五月 太政官

貨幣例目

一貨幣ノ稱呼ハ圓ヲ以テ起票トシ其多寡ヲ論セス都テ圓ノ原稱ニ數字ヲ加ヘテ之ヲ計算スヘシ但シ一圓以下ハ錢一分一厘十分トテ以テ少數ノ計算ニ用フヘシ

一算則ハ都テ十進一位ノ法ヲ用ヒ一厘十ヲ合シテ一錢トシ一錢十ヲ併セテ十錢トイヒ十錢十即チ百錢ヲ以テ一圓トス一圓ヨリ上十百千萬ニ至ルトイフトモ皆十數ヲ合シテ一位ヲ進ム其他半錢五錢五十錢五圓ノ如キハ十數ヲ半割シ貳拾錢貳圓貳拾圓ノ如キモ亦一十ノ數ヲ倍スルマテニシテ固ヨリ

軌範ノ外ニ出ス

一厘ヨリ以下ハ別ニ鑄造ノ貨幣ナシト雖若シ計算ヲ要スレハ毛絲忽微纖ヲ以テ最少ノ數ヲ算スヘシ又萬ヨリ以上ハ十萬百萬千萬ニ至リ千萬十即チ萬々ヲ以テ一億トシ大數ノ計算ヲ爲スヘシ

一製貨中金銀純分ノ割合及其量目ハ都テ真形模寫ノ下ニ表出スルトイヘトモ鎔和鑄造ノ際僅少ノ差アルヲ免カンス故ニ今各種ノ貨幣ニ就テ其不得已シテ生スル量目並品位ノ公差ヲ表出シテ以テ毛絲ノ微細ヲ辨析ス

公		差		金		十		四		五		四		二		四		一	
量	目	品	位	純	金	混	物	純	金	混	物	純	金	混	物	純	金	混	物
一枚ノ差	ミリガラム	千	分	三三、三分一	二、	五、	一、	四六、二、九七	三三、一、四八	一、五、	七、五、	三、	四六、二、九	二、	一、	二、	一、	二、	一、
一枚ノ差	ミリガラム	千	分	三三、三分一	二、	五、	一、	四六、二、九七	三三、一、四八	一、五、	七、五、	三、	四六、二、九	二、	一、	二、	一、	二、	一、
一枚ノ差	ミリガラム	千	分	三三、三分一	二、	五、	一、	四六、二、九七	三三、一、四八	一、五、	七、五、	三、	四六、二、九	二、	一、	二、	一、	二、	一、
一枚ノ差	ミリガラム	千	分	三三、三分一	二、	五、	一、	四六、二、九七	三三、一、四八	一、五、	七、五、	三、	四六、二、九	二、	一、	二、	一、	二、	一、

現 行 日 本 法 令 大 全

日 本	目 量	目 目	目 目	目 目
一 オンテガラム	一 ガラム百分一	〇、一五四三	グレイン百分一、 五四三	〇、〇〇二六六二〇四
一 デシガラム	一 ガラム十分一	一、五四三二		〇、〇二六六二〇四
一 ガラム		一五、四三二〇		〇、二六六二〇四
一 デカガラム		一五四、三二〇〇		二、六六二〇四
一 ヘクトガラム		一五四三、二〇〇		二六、六二〇四
一 キロガラム		一五四三二、〇		二六六、二〇四
一 ミリヤガラム		一五四三二〇、		二六六一、〇四
日 本	目 量	目 目	目 目	目 目
一 糸		〇、三七五六	ミリガラム	〇、〇〇五七七九
一 毛		三、七七五六五	ミリガラム	〇、〇五七七七
一 厘		三七、五五六二	ミリガラム	〇、五七七七一
一 分		三七五、六五二一	ミリガラム	五、七七七一
一 錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七、九七一
一 十錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七九、七一
一 百錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七九七、一
一 貫文目		三七五、六五二一	ミリガラム	五七九七、一
一 グレイン「ハ	凡一厘七毛二絲五忽	但一グレイン「ハ	六十四ミリガラム「ハ	
一 オンス「ハ	凡八匁二分八厘	但一オンス「ハ	四百八十グレイン	

貨幣略圖并品位量目表(二十一年十一月八日勅令第七十四號ヲ以テ白銅貨五錢ノ項ヲ追加ス表ハ略ス)

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券 七百五十九

現 行 日 本 法 令 大 全

表	大數差	量 目	一枚ノ差	品 位	全 貨	重 純	分ノ内	位 千	純 銀	貨 易	銀 五十	錢 二十	錢 十	錢 五
一 ミリガラム	一 ガラム百分一	〇、〇一五四三	グレイン百分一、 五四三	〇、〇〇二六六二〇四										
一 オンテガラム	一 ガラム百分一	〇、一五四三	グレイン百分一、 五四三	〇、〇〇二六六二〇四										
一 デシガラム	一 ガラム十分一	一、五四三二		〇、二六六二〇四										
一 ガラム		一五、四三二〇		〇、二六六二〇四										
一 デカガラム		一五四、三二〇〇		二、六六二〇四										
一 ヘクトガラム		一五四三、二〇〇		二六、六二〇四										
一 キロガラム		一五四三二、〇		二六六、二〇四										
一 ミリヤガラム		一五四三二〇、		二六六一、〇四										
日 本	目 量	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目	目 目
一 糸		〇、三七五六	ミリガラム	〇、〇〇五七七九										
一 毛		三、七七五六五	ミリガラム	〇、〇五七七七										
一 厘		三七、五五六二	ミリガラム	〇、五七七七一										
一 分		三七五、六五二一	ミリガラム	五、七七七一										
一 錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七、九七一										
一 十錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七九、七一										
一 百錢		三七五六五、二	ミリガラム	五七九七、一										
一 貫文目		三七五、六五二一	ミリガラム	五七九七、一										
一 グレイン「ハ	凡一厘七毛二絲五忽	但一グレイン「ハ	六十四ミリガラム「ハ											
一 オンス「ハ	凡八匁二分八厘	但一オンス「ハ	四百八十グレイン											

貨幣略圖并品位量目表(二十一年十一月八日勅令第七十四號ヲ以テ白銅貨五錢ノ項ヲ追加ス表ハ略ス)

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券 七百五十八

貨幣通用制限

本位金貨幣即二十四圓ノ中一圓金ヲ以テ原貨ト定メ各種トモ何レノ拂方ニモ之ヲ用ヒ其高ニ制限アルコトナシ

互ノ都合ニ從テ答ナレハ右制限ニ不拘勝手次第ニ交通イタシ不苦候事

補助トハ本位貨幣ノ補助ニシテ制度ニヨリテ其價位ヲ定メテ融通ヲ資クルモノナリ故ニ通用ノ際コソカ制限ヲ設ケテ

造幣規則 (別冊) 第一條 大坂造幣本局若クハ東京該出張所ニ輸入スル内外人

金地金 不純粹金銀地金 舊金銀貨幣 金銀混合地金

三拾テンス「トロイ」凡百四拾八分 三百テンス「トロイ」凡百四拾八分

第四條 品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ試驗鑄解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル可シ但出張所ニ於テハ其試驗鑄解ヲ要スル者

阪支店又ハ横濱神戸ノ代理店ニ於テ左ノ區別及ヒ期日ニ依リ之ヲ拂渡スヘシ

現行日本法令大全

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡スヘシ (十九年大藏省令改正)

第十一條 鑄造料ハ金貨幣ハ千分ノ七銀貨幣壹圓ハ千分ノ拾ヲ收入ス可シ若シ試驗鑄解ヲ要スル地金ナレハ更ニ千分ノ一ヲ收入ス可シ

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應ジ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中銀七百五十分以上ヲ含有セザルトキハ需ニ應ゼス

精製スヘキ地金 精製料

一千分中銀 純金拾オンス「トロイ」ニ付 金六拾參錢
九百五十分以上 純銀拾オンス「トロイ」ニ付 金拾七錢
同 金銀 同 金六拾九錢
同 金銀 同 金拾九錢
同 金銀 同 金七拾六錢
同 金銀 同 金貳拾貳錢
八百五十分以上 同 金貳拾六錢
同 金銀 同 金貳拾參錢
八百分以上 同 金九拾參錢
同 金銀 同 金參拾壹錢
七百五十分以上 同

(二十四年十二月勅令第三百三十八號ヲ以テ本條改正)

第十三條 金銀地金類ヲ大阪本局ニ輸入シテ東京又ハ橫濱神戸ニ於テ代リ貨幣拂渡シテ望ムモノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京橫濱又ハ大阪神戸ニ於テ其拂渡シテ望ムモノ其運賃保險料ノ割合ハ實費ニ基キ大藏大臣時々之ヲ定メ告示スヘシ (十九年大藏省令第三十三號ヲ以テ改正二十二年同令第三十二號ヲ以テ補遺ノ下ニ神戸ノ二字ヲ加フ)

第十四條 輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サシテ返却スルトキハ

左ノ費用ヲ收入ス可シ

試驗鑄解料

金地金 五百チンス「トロイ」未滿 金壹圓
金銀混合地金 千分中銀分百 五百チンス「トロイ」以上 金貳圓
同 千チンス「トロイ」未滿 以上之ニ準ス 金貳圓
同 千チンス「トロイ」未滿 以上之ニ準ス 金貳圓

銀地金 千チンス「トロイ」以上 金壹圓
金銀混合地金 千分中銀分百 千チンス「トロイ」以上 金貳圓
同 千チンス「トロイ」未滿 以上之ニ準ス 金貳圓

試驗分析料

金地金 壹塊ニ付 金貳圓
金銀混合地金 壹塊ニ付 金壹圓
銀地金 壹塊ニ付 金壹圓

照査試驗料

試驗分析料ニ準ス

第十五條 流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量目以上ナレハ左ノ手數料ヲ收入シテ之ヲ受取リ其翌日代リ貨幣ヲ拂渡ス可シ

金貨幣量目五チンス「トロイ」 凡四分 千分ノ三、半
壹圓銀貨幣量目五拾チンス「トロイ」 凡四百 千分ノ五
補助銀貨幣 (須非次項ヲ別除ス)

第十六條 金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セザルヘシ

附則

本令ハ明治二十四年十二月七日ヨリ施行ス

現行日本法令大全

通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其體面ヲ流通ノ用ヲ缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

明治十一年一月 第二號布告

○通用貨幣鑄解及毀傷スルヲ禁ス

貿易銀ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ限リ通用候處今般更ニ一般ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上都ヲ授受可致此旨布告候事

明治十二年五月 第十二號布告

○貿易銀一般通用ヲ許ス

一貿易壹圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ排方ヲナス爲メ之ヲ差出ストキハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ債債其他ノ排方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル所ノ金高ヲ排方爲メ右壹圓銀ヲ差出ストキハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

○舊貨幣價格比較表

明治七年九月 第九十三號布告

明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳ニ引換方可申出右期限中

海關稅ヲ除ク外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自令廢止候條此旨布告候事

(別冊舊金銀貨幣價格表略之)

○舊銅貨ノ品位ヲ定ム

明治四年十二月 布告

舊銅貨之儀去ル辰年定價被仰出候處今般新貨御發行ニ付各種比較商量ノ上當分左ノ通品位被相定候條其旨相心得新貨幣并金札共取交無差支可致通用事

(新貨並金札之比較略之)

(舊銅貨品位圖而略之)

右ハ本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニ依テ定ムルカ故ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ一口ノ取遣リ一圓ノ高ヲ限リ用ニヘシ

但壹圓ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ尤相互ノ便宜ニ依リテ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルヘシ

右之通相定候事

○舊鐵錢ノ價位ヲ定ム

明治五年九月 第二百八十三號布告

新貨幣御發行ニ付去辛未十二月中舊銅貨ノ定價被仰出候處舊今般舊鐵錢之價位當分左ノ通被相定候條其旨相心得新貨幣並金札共取交無差支可致通用事

(舊鐵錢價位圖而略之)

右ハ新貨幣トノ比較ニヨリテ之ヲ定ム尤モ鐵錢一種或ハ兩種ヲ併セ用フルトモ一口ノ取遣方ニ新貨五拾錢ノ高ヲ限リ用フヘシ

但新貨五拾錢ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ然レトモ

現行日本法令大全

<p>第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券</p> <p>草保</p> <p>小判 一個 拾〇圓拾八錢四厘 內 金貨拾〇圓〇九錢〇 內 金貨拾九錢四厘</p> <p>一分判 一個 貳圓五拾四錢六厘 內 金貨貳圓五拾四錢三厘 內 金貨貳圓五拾四錢三厘</p>	<p>乾字</p> <p>小判 一個 壹圓貳拾九錢八厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘</p> <p>一分判 一個 壹圓貳拾九錢八厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘</p>	<p>元祿</p> <p>小判 一個 六圓九拾壹錢〇 內 金貨六圓六拾六錢三厘 內 金貨六圓六拾六錢三厘</p> <p>一分判 一個 壹圓七拾貳錢七厘 內 金貨壹圓六拾五錢壹厘 內 金貨壹圓七錢六厘</p> <p>二米判 一個 八拾六錢四厘 內 金貨八拾貳錢五厘 內 金貨八拾三錢九厘</p>
<p>草保</p> <p>小判 一個 拾〇圓拾八錢四厘 內 金貨拾〇圓〇九錢〇 內 金貨拾九錢四厘</p> <p>一分判 一個 貳圓五拾四錢六厘 內 金貨貳圓五拾四錢三厘 內 金貨貳圓五拾四錢三厘</p>	<p>乾字</p> <p>小判 一個 壹圓貳拾九錢八厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘</p> <p>一分判 一個 壹圓貳拾九錢八厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘 內 金貨壹圓貳拾八錢貳厘</p>	<p>元祿</p> <p>小判 一個 六圓九拾壹錢〇 內 金貨六圓六拾六錢三厘 內 金貨六圓六拾六錢三厘</p> <p>一分判 一個 壹圓七拾貳錢七厘 內 金貨壹圓六拾五錢壹厘 內 金貨壹圓七錢六厘</p> <p>二米判 一個 八拾六錢四厘 內 金貨八拾貳錢五厘 內 金貨八拾三錢九厘</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百六十五

現行日本法令大全

<p>慶長</p> <p>小判 一個 拾〇圓拾三錢貳厘 內 金貨拾〇圓〇三錢壹厘 內 金貨拾〇圓〇三錢壹厘</p> <p>武藏</p> <p>一分判 一個 貳圓五拾參錢參厘 內 金貨貳圓五拾〇錢八厘 內 金貨貳圓五拾〇錢八厘</p>	<p>舊貨幣價格表 (別冊)</p> <p>正德四年間所作ニ係ル因テ世ニ之ヲ正徳金トモ云フ</p> <p>慶長 小判 一個 拾〇圓拾三錢貳厘 武藏 一分判 一個 貳圓五拾參錢參厘</p>
<p>慶長 小判 一個 拾〇圓拾三錢貳厘 內 金貨拾〇圓〇三錢壹厘 內 金貨拾〇圓〇三錢壹厘</p> <p>武藏 一分判 一個 貳圓五拾參錢參厘 內 金貨貳圓五拾〇錢八厘 內 金貨貳圓五拾〇錢八厘</p>	<p>流通不便ノ金銀貨交換方</p> <p>明治二十二年三月 大藏省告示第三十一號</p> <p>○金銀地金類輸入ノ代リ貨幣拂渡ヲ望ム運賃保險料</p> <p>明治十九年十二月第百十三號告示別項運賃保險料ノ割合左ノ通改正四月一日ヨリ施行ス</p> <p>大阪本局ニ地金ヲ輸入シ東京ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 東京支局ニ地金ヲ輸入シ大阪ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 大阪本局ニ地金ヲ輸入シ横濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 前同斷神戶ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 東京支局ニ地金ヲ輸入シ東京ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ</p> <p>金貨同上 金八錢五厘 金貨同上 金拾六錢 金貨同上 金參錢五厘 金貨同上 金五錢五厘 金貨同上 金拾九錢 金貨同上 金參拾九錢</p> <p>前同斷橫濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 前同斷神戶ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ</p> <p>金貨同上 金拾八錢 金貨同上 金參拾五錢五厘 金貨同上 金拾三錢 金貨同上 金貳拾五錢</p> <p>○流通不便ノ金銀貨交換方 明治二十二年二月 大藏省告示第三號</p> <p>流通不便ノ金銀銅貨ハ本年四月一日以後當省金庫局及同局大阪出張所ニ於テ左ノ區別ヲ以テ交換スヘシ但手數料ハ徵收セズ</p> <p>一量目減少セサル者 全額 一量目減少セル者 現存價格</p> <p>○舊金銀價格表 明治十八年七月 大藏省告示第三百三號</p> <p>舊金銀貨價格表別冊ノ通り改正ス 右告示候事</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百六十四

現行日本法令大全

<p>元文</p> <p>小判 一個 五圓七拾九錢七厘 內金貨五圓六拾錢六厘 內壹圓銀拾八錢壹厘</p> <p>一分判 一個 壹圓四拾四錢九厘 內金貨壹圓四拾錢四厘 內壹圓銀四錢五厘</p>	<p>文政</p> <p>二分判 一個 貳圓五拾四錢〇 內金貨貳圓四拾錢六厘 內壹圓銀拾錢四厘</p> <p>小判 一個 五圓〇六錢壹厘 內金貨四圓八拾錢貳厘 內壹圓銀貳拾錢九厘</p>	<p>文政</p> <p>一分判 一個 壹圓貳拾六錢五厘 內金貨壹圓貳拾錢八厘 內壹圓銀五錢七厘</p>
<p>元文</p> <p>草文下云 元文金小判拾兩量目四号一九六一四 內金二号七四〇九二位千分中 金六五三、二 雜〇〇四、五 此貨幣銀壹圓八拾五錢六厘一四 計五拾八圓六拾九錢三厘七四 內 同三拾七錢八厘八五 同三拾八錢八厘一〇 同三拾九錢八厘一〇 同四拾錢八厘一〇 費用前二同シ 計五拾七圓九拾六錢五厘一一</p> <p>草文下云 文政二分判拾兩量目四号二〇五九二 內金二号三六七九三位千分中 金五三、〇〇 雜〇〇三、〇〇 此貨幣銀四拾九圓拾錢五厘六五 計五拾壹圓四拾四錢七厘二六 內 同三拾四錢六厘七九 同三拾五錢六厘七九 同三拾六錢六厘七九 同三拾七錢六厘七九 同三拾八錢六厘七九 同三拾九錢六厘七九 費用前二同シ 計五拾〇圓七拾九錢五厘一八</p>	<p>文政</p> <p>草文下云 文政金小判拾兩量目四号二一五一一〇 內金二号八四八七四位千分中 金五五、九四 雜〇〇二、〇〇 此貨幣 金四拾八圓八拾九錢四厘三一 計五拾壹圓貳拾六錢四厘四九 內 同三拾四錢五厘七九 同三拾五錢五厘七九 同三拾六錢五厘七九 同三拾七錢五厘七九 同三拾八錢五厘七九 同三拾九錢五厘七九 費用前二同シ 計五拾〇圓六拾壹錢四厘一一</p>	<p>一朱金</p> <p>一朱金拾兩量目七号一五〇〇〇 內金〇号八八一〇一位千分中 金八七、四〇 雜〇〇二、九 此貨幣 金拾八圓貳拾五錢壹厘二〇 計貳拾八圓貳拾六錢貳厘八六 內 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 費用前二同シ 計貳拾五圓八拾〇錢貳厘六一</p> <p>草文下云 文政二分判拾兩量目四号二〇九五六 內金二号一五二五八位千分中 金四八、七六 雜〇〇一、四 此貨幣 金四拾貳圓五拾六錢貳厘四九 計四拾五圓三拾貳錢〇厘二九 內 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 費用前二同シ 計四拾四圓七拾三錢貳厘九四</p> <p>保字下云 天保金小判拾兩量目三号六一二二一四 內金二号〇四九九九位千分中 金五七、七五 雜〇〇一、〇五 此貨幣 金四拾貳圓五拾八錢八厘二五 計四拾四圓五拾〇錢五厘一一 內 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 費用前二同シ 計四拾三圓九拾四錢壹厘六一</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

現行日本法令大全

<p>一朱金</p> <p>一朱金拾兩量目七号一五〇〇〇 內金〇号八八一〇一位千分中 金八七、四〇 雜〇〇二、九 此貨幣 金拾八圓貳拾五錢壹厘二〇 計貳拾八圓貳拾六錢貳厘八六 內 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 同貳拾錢七厘七六 費用前二同シ 計貳拾五圓八拾〇錢貳厘六一</p> <p>草文下云 文政二分判拾兩量目四号二〇九五六 內金二号一五二五八位千分中 金四八、七六 雜〇〇一、四 此貨幣 金四拾貳圓五拾六錢貳厘四九 計四拾五圓三拾貳錢〇厘二九 內 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 費用前二同シ 計四拾四圓七拾三錢貳厘九四</p> <p>保字下云 天保金小判拾兩量目三号六一二二一四 內金二号〇四九九九位千分中 金五七、七五 雜〇〇一、〇五 此貨幣 金四拾貳圓五拾八錢八厘二五 計四拾四圓五拾〇錢五厘一一 內 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 費用前二同シ 計四拾三圓九拾四錢壹厘六一</p>	<p>文政</p> <p>二分判 一個 貳圓貳拾三錢七厘 內金貨貳圓拾三錢三厘 內壹圓銀拾三錢四厘</p> <p>小判 一個 四圓三拾九錢四厘 內金貨四圓貳拾〇錢〇 內壹圓銀拾九錢四厘</p>	<p>天保</p> <p>一分判 一個 壹圓〇九錢九厘 內金貨壹圓〇五錢〇 內壹圓銀四錢九厘</p>
<p>一朱金</p> <p>草文下云 文政二分判拾兩量目四号二〇九五六 內金二号一五二五八位千分中 金四八、七六 雜〇〇一、四 此貨幣 金四拾貳圓五拾六錢貳厘四九 計四拾五圓三拾貳錢〇厘二九 內 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 費用前二同シ 計四拾四圓七拾三錢貳厘九四</p> <p>保字下云 天保金小判拾兩量目三号六一二二一四 內金二号〇四九九九位千分中 金五七、七五 雜〇〇一、〇五 此貨幣 金四拾貳圓五拾八錢八厘二五 計四拾四圓五拾〇錢五厘一一 內 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 費用前二同シ 計四拾三圓九拾四錢壹厘六一</p>	<p>文政</p> <p>草文下云 文政二分判拾兩量目四号二〇九五六 內金二号一五二五八位千分中 金四八、七六 雜〇〇一、四 此貨幣 金四拾貳圓五拾六錢貳厘四九 計四拾五圓三拾貳錢〇厘二九 內 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 同貳拾錢七厘九四 費用前二同シ 計四拾四圓七拾三錢貳厘九四</p> <p>保字下云 天保金小判拾兩量目三号六一二二一四 內金二号〇四九九九位千分中 金五七、七五 雜〇〇一、〇五 此貨幣 金四拾貳圓五拾八錢八厘二五 計四拾四圓五拾〇錢五厘一一 內 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 費用前二同シ 計四拾三圓九拾四錢壹厘六一</p>	<p>天保</p> <p>草文下云 天保金小判拾兩量目三号六一二二一四 內金二号〇四九九九位千分中 金五七、七五 雜〇〇一、〇五 此貨幣 金四拾貳圓五拾八錢八厘二五 計四拾四圓五拾〇錢五厘一一 內 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 同貳拾錢九厘九八 費用前二同シ 計四拾三圓九拾四錢壹厘六一</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

現行日本法令大全

<p>古二朱金 一個 三拾六錢七厘</p> <p>內 金貨三拾貳錢壹厘 內 壹圓銀四錢六厘</p>	<p>五兩判 一個 拾八圓八拾三錢〇</p> <p>內 金貨拾八圓六拾貳錢三厘 內 壹圓銀貳拾錢七厘</p>	<p>安政 小判 一個 三四五拾貳錢八厘</p> <p>內 金貨三圓三拾七錢四厘 內 壹圓銀拾五錢四厘</p> <p>一分判 一個 八拾八錢貳厘</p> <p>內 金貨八拾四錢三厘 內 壹圓銀三錢九厘</p>
<p>古二朱金拾兩量目四号一九八八四</p> <p>內 金二号二五二九六位千分中 金二九八四 內 銀二号九三八八四位千分中 銀六九九九四 此貨幣 金貳拾五圓九拾八錢壹厘五九 銀三圓七拾六錢七厘七五 計貳拾九圓七拾四錢九厘三四</p> <p>內 同拾八錢壹厘八七 費用前二同シ 內 同七錢七厘二九 殘金貳拾五圓六拾七錢四厘四二 銀三圓六拾五錢貳厘七八 計貳拾九圓三拾貳錢七厘二〇</p>	<p>五兩判一枚量目一号〇八四六一</p> <p>內 金〇号九〇八三七 金八三七五 內 銀〇号一七四〇八 銀一六〇二五 此貨幣 金拾八圓八拾三錢六厘〇八 銀貳拾錢三厘一八 計拾九圓〇五錢九厘二六</p> <p>內 同拾三錢貳厘八五 費用前二同シ 內 同四錢五厘 殘金拾八圓六拾貳錢三厘三九 銀貳拾錢六厘三七 計拾八圓八拾貳錢九厘七六</p>	<p>正字下云 安政金小判拾兩量目二号八九〇一〇</p> <p>內 金一号六四六四九位千分中 金五九一七 內 銀一号二七五四位千分中 銀四二八二 此貨幣 金三拾四圓四拾四錢壹厘七 銀壹圓五拾八錢六厘五八 計三拾五圓七拾貳錢八厘三五</p> <p>內 同貳拾三錢八厘九九 費用前二同シ 內 同三錢貳厘五五 同壹錢五厘八七 殘金三拾三圓七拾三錢八厘二二 銀壹圓五拾三錢八厘一六 計三拾五圓貳拾七錢六厘二九</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百六十八

現行日本法令大全

<p>安政 二分判 一個 九拾五錢五厘</p> <p>內 金貨七拾七錢七厘 內 壹圓銀拾七錢八厘</p>	<p>新 小判 一個 壹圓三拾壹錢三厘</p> <p>內 金貨貳圓貳拾五錢六厘 內 壹圓銀五錢七厘</p> <p>一分判 一個 三拾貳錢八厘</p> <p>內 金貨三拾錢四厘 內 壹圓銀貳錢四厘</p>	<p>新二朱金 一個 拾三錢七厘</p> <p>內 金貨拾錢四厘 內 壹圓銀貳錢三厘</p>
<p>安政二分判拾兩量目三号六二六九九八</p> <p>內 金〇号七五八七六 位千分中 金二〇九九二 內 銀二号八六〇六〇 位千分中 銀七八八七一 此貨幣 金拾五圓七拾三錢三厘八一 銀三圓六拾六錢七厘四三 計拾九圓四拾〇錢壹厘二四</p> <p>內 同拾七錢五厘八八 費用前二同シ 內 同七錢五厘三三 同三錢六厘六七 殘金拾五圓五拾四錢七厘七九 銀三圓五拾五錢五厘五三 計拾九圓拾〇錢三厘三一</p>	<p>新小判拾兩量目一号〇六八八九四</p> <p>內 金〇号六一三三四 位千分中 金五七三六 內 銀〇号四三三三三 位千分中 銀四二四〇 此貨幣 金拾貳圓七拾錢四厘二一 銀五圓八拾八錢壹厘〇七 計拾三圓貳拾九錢五厘二八</p> <p>內 同八錢壹厘三〇 費用前二同シ 內 同八錢壹厘九二 同五厘八一 殘金拾貳圓五拾六錢三厘九〇 銀五圓六拾三錢三四 計拾三圓拾貳錢七厘二四</p>	<p>新二朱金拾兩量目一号九三八二一</p> <p>內 金〇号四四三八五 位千分中 金三二九〇〇 內 銀一号四九九〇八 位千分中 銀七六九九〇〇 此貨幣 金九圓貳拾〇錢三厘七九 銀壹圓九拾九錢〇厘八七 計拾壹圓拾壹錢四厘六六</p> <p>內 同六錢四厘三九 費用前二同シ 內 同六錢四厘四三 同三錢九厘二〇 殘金九圓〇九錢四厘九七 銀壹圓八拾五錢貳厘五五 計拾〇圓九拾四錢七厘五三</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百六十九

現行日本法令大全

<p>新二分判 一個 五拾四錢六厘 內金貨四拾五錢三厘 內銀貨九錢三厘</p>	<p>天保吹増 享保長 大判 一個 七拾五圓貳拾壹錢〇 內金貨七拾三圓貳拾六錢五厘 內銀貨四圓九拾四錢五厘</p>	<p>元祿大判 一個 五拾九圓六拾四錢八厘 內金貨五拾六圓六拾八錢九厘 內銀貨四圓九拾五錢九厘</p>
<p>新二分判拾兩量目一号九三六九九 內金〇号四四二五九位千分中 金三三八五 內銀一号四九〇四七位千分中 銀七六九五〇 此貨幣金九圓九拾九錢七厘六六 銀四圓九拾九錢〇厘八六 計拾壹圓〇八錢八厘五三 內金四錢四厘二六 內銀六錢九厘二〇 費用前ニ同シ 殘金九圓〇六錢九厘一七 銀四圓八拾五錢貳厘五五 計拾〇圓九拾貳錢壹厘七二</p>	<p>天保吹増 享保長 大判一枚量目五号三二〇六七 內金三号五七五四九位千分中 金六七二〇〇 內銀一号五六四二八位千分中 銀三九四〇〇 此貨幣金七拾四圓四拾四錢肆厘九〇 銀貳圓〇〇錢五厘四九 計七拾六圓四拾四錢七厘三九 內金三拾五錢七厘五五 內銀五拾錢八厘九九 費用前ニ同シ 殘金七拾三圓貳拾六錢五厘三六 銀四圓九拾四錢四厘三〇 計七拾五圓貳拾〇錢九厘六六</p>	<p>元祿大判一枚量目五号三〇九〇四 內金二号七六六五四位千分中 金五二二一 內銀二号三八〇五七位千分中 銀四四八四 此貨幣金五拾七圓三拾六錢七厘二八 銀三圓〇五錢貳厘〇二 計六拾〇圓四拾壹錢九厘三〇 內金貳拾七錢六厘六五 內銀四拾〇錢壹厘五七 費用前ニ同シ 殘金五拾六圓六拾八錢九厘〇六 銀貳圓九拾五錢八厘八九 計五拾九圓六拾四錢七厘九五</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百七十一

現行日本法令大全

<p>新大判 一個 貳拾八圓四拾三錢三厘 內金貨貳拾五圓五拾五錢〇 內銀貨四圓八拾八錢三厘</p>	<p>安永二朱銀 一個 壹圓銀四拾〇錢七厘</p>	<p>文政二朱銀 一個 壹圓銀三拾〇錢〇</p>	<p>文政一朱銀 一個 壹圓銀拾〇錢五厘</p>
<p>新大判一枚量目三号六二九八九 內金二号三四六八七位千分中 金三四三二五 內銀二号三三〇二二位千分中 銀六三九二二 此貨幣金貳拾五圓八拾五錢五厘二四 銀四圓九拾九錢七厘四六 計貳拾八圓四拾貳錢九厘八八 內金拾八錢〇厘九九 內銀貳錢九厘〇二 費用前ニ同シ 殘金貳拾五圓五拾四錢九厘五六 銀四圓八拾八錢三厘八七 計貳拾八圓四拾三錢三厘四三</p>	<p>安永二朱銀拾兩量目二十六号二四九八三 內銀二十五号六五九二一位千分中 銀九七七五 此貨幣三拾貳圓八拾九錢六厘四二 內三拾貳錢八厘九六 鑄造料 殘三拾貳圓五拾六錢七厘四六</p>	<p>文政二朱銀拾兩量目十九号三三七二九 內銀十八号九一一八七位千分中 銀九七八〇〇 此貨幣貳拾四圓貳拾四錢五厘九九 內貳拾四錢貳厘四六 費用前ニ同シ 殘貳拾四圓〇〇錢三厘五三</p>	<p>文政一朱銀拾兩量目十三号五三一九一 內銀十三号一八九五五位千分中 銀九七四七 此貨幣拾六圓九拾〇錢九厘六八 內拾六錢九厘一〇 費用前ニ同シ 殘拾六圓七拾四錢〇厘五八</p>

第五類 第一章 貨幣 紙幣 證券

七百七十一

古一分銀 一個 壹圓銀三拾五錢壹厘	古一分銀拾兩量目十一号一五四三五 內銀十一号〇五八四二位千分中 此貨幣拾四圓拾七錢七厘四六 內拾四錢壹厘七七 殘拾四圓〇三錢五厘六九 費用前ニ同シ
一米銀 一個 壹圓銀七錢五厘	一米銀拾兩量目九号七四五三五 內銀九号四三一五五位千分中 此貨幣拾貳圓〇九錢壹厘七三 內拾貳錢〇厘九二 殘拾壹圓九拾七錢〇厘八一 費用前ニ同シ
一分銀 一個 壹圓銀三拾壹錢五厘	一分銀拾兩量目十一号一二五〇四 內銀九号九三四六六位千分中 此貨幣拾貳圓七拾三錢六厘七四 內拾貳錢七厘三七 殘拾貳圓六拾〇錢九厘三七 費用前ニ同シ
安政二米銀 一個 壹圓銀四拾七錢〇	安政二米銀拾兩量目三十号五一〇二五〇 內銀二十九号六四七五七位千分中 此貨幣三拾八圓〇〇錢九厘七〇 內三拾八錢〇厘一〇 殘三拾七圓六拾貳錢九厘六〇 費用前ニ同シ

○通用貨幣ノ總テ流通ノ用ヲ缺ク所爲ヲ禁ス
明治十一年一月 布告第九號
 通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其他總テ流通ノ用ヲ缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

○舊貨幣價格及引換期限
明治七年九月 布告第九拾三號
 明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通告定シ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除ノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今廢止候條此旨布告候事
別冊(十八年大藏省第百三號告示) 以テ價格改正ニ付除之)

○舊貨幣交換代金下渡方
明治十一年九月 大藏省達乙第四拾貳號
 舊貨幣交換代金ノ儀自今銀貨幣ノ內ヲ以テ可相渡尤モ古金ハ其價格拾圓ニ付金貨八圓貿易銀貳圓ヲ以テ下渡古銀ハ同ク貿易銀ヲ以テ可下渡候條古金銀交換申出候ハ、右ノ割合ヲ以テ交換方取計可申此旨相違候事

○價造金銀銅貨紙幣等取扱規則
明治九年四月 布告第五十七號
 銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節價造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

價造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等價造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄「警察出張所」或ハ「屯所」或ハ區戶長ニ差出シ其頭末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來ル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳へ引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正價定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其充分ナラス通
 用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其價造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣價造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條 價造ヲ知ルト雖モ斷截セシテ持主ニ還付シ又ハ申立テ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

○紙幣
明治四年十二月 布告
 維新已來太政官並ニ民部省發行ノ金札製造ノ粗ナルヨリ價造ヲ謀ル者間々有之且又從來舊藩々ニ於テ發行ノ金銀錢札ハ其

現行日本法令大全

管轄限リ通用ノ儀ニ付一般流通ノ便ヲ失ヒ其弊害不少依之今般御多端ノ折柄莫大ノ入費ヲ不被爲原精工ノ新紙幣百圓五拾圓貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五拾錢貳拾錢五錢ノ各種ヲ製造シ來壬申年二月十五日ヨリ右各種ノ內差向壹圓五拾錢貳拾錢拾錢ノ四種ヲ發行セシメ遲々製造成功ノ都合ニヨリ從來官辦兩樣ノ金札ト引換條厚キ御趣意ヲ體認シ無礙念通用可致尤モ一般引換ノ都合ハ猶更相違儀儀モ可有之依テ各種ノ新紙幣相違此段相違候事

別紙布告文ノ通愈來二月十五日ヨリ今般新製ノ紙幣發行致シ候ニ付テハ僻地小民共ハ前以テ趣意了知セシメ篤ト心得居候機不致テハ或ハ新奇ノ思ヲナシ厭忌ノ情ヲ生シ候モ難計發行ノ際ニ臨ミ右様ノ事有之候テハ難相成候條各地方廳ニオイトテ厚ク注意致シ末々ニ至ル迄解シ易キ樣更ニ布告文ハ假名ヲ加ヘ管下ノ人民ヘ遺漏ナク布達行届候條可取計尤モ各府縣ヘ各種紙幣拾五枚ツ、相廻シ其內壹枚ヘハ各種印章及ヒ書込文字等ノ場所ヘ張紙ヲ以テ記入致シ候間各地方廳ニオイトテ同様取計都合ノ地又ハ人民稀薄ノ場所ヘモ各布告文同様揭示イタシ置キ廣ク人民ヘ相示シ候條可致此段更ニ相違候事

○征討臨時費支辨ノ爲メ紙幣發行

明治十年十二月 第八十七號布告

九州地方ノ賊徒征討以來莫大ノ臨時費本年ノ歲入ヲ以テ支辨難相成ニ付損札交換ノ爲メ備置候紙幣ノ內更ニ貳千七百萬圓發行候事

一交換ノ爲メ備置候紙幣貳千七百萬圓發行候ニ付テハ目今流通致居候半圓貳拾錢拾錢ノ級幣高貳千七百拾萬餘圓ハ來明

取扱ハシムヘシ

○鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シ又ハ描改ノ正札等取扱方

明治九年五月 大藏省達乙第百四十號

大政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ揭載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改入ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ハ、該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換進シ退テ右改入ヨリ差出セシ書面ヘ現札添紙幣察ヘ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混雜區別可致候此旨相違候事
但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ贋換ノモノニ付右ハ假札ヲ以テ處分可致候

○損傷紙幣交換國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ取扱方

明治十七年二月 大藏省達第八號

損傷紙幣交換ノ儀本年三月一日ヨリ各地國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ爲取扱候條管下人民ヨリ直ニ同所ヘ持參引換候條無池可及告示此旨相違候事

○損傷紙幣交換規則

明治十七年四月 大藏省告示第四十一號

明治十四年五月當省甲第七十五號布達損傷紙幣交換規則左ノ通改正候條右ニ照準シ引換方可取計候此旨告示候事

損傷紙幣交換規則

治十一年ヨリ明治二十五年迄十五ノ年間ニ補助ノ銀銅貨ニテ交換致シ右半圓以下ノ紙幣ハ截斷シ其時々可及布告事一右發行ノ紙幣貳千七百萬圓ハ十五ノ年間ニ交換スヘク候ヘ共紙幣ヲ以テ金札公債證書ニ交換致度旨願出候者ハハ明治六年第百二十一號公布ニ準據シ紙幣ト引換公債證書ヲ下付シ年六分ノ利息ヲ相渡引換候紙幣ハ截斷致シ其時々更ニ可及布告事
右布告候事

○拾圓五圓壹圓三種ノ紙幣改造

明治十三年二月 第五號布告

現今流通ノ紙幣ハ紙質脆弱破裂等ノ憂不少候ニ付此度拾圓五圓壹圓三種ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條此旨布告候事
但差向壹圓紙幣製造出來ニ付右見本札各管轄廳ヘ下ク渡置候事

○五拾錢貳拾錢兩種ノ紙幣改造

明治十五年八月 第四十五號布告

半圓貳拾錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條當分ノ內在來ノ紙幣ト取交通用スヘシ
但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下ク渡置スヘシ

○紙幣漸次銀貨ニ交換

明治十八年六月 第十四號布告

政府發行ノ紙幣ハ來明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ
但交換ノ手續ハ「大藏卿」ニテ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ

水火災或ハ鼠咬蟲喰等ノ爲メ毀損セシ者ヲ交換スルトキハ毀損ノ原因ヲ取札シ左ノ箇條ニ照準交換スヘシ
第一條 小破或ハ二ツ切レ三ツ切レ等幾片ニ細斷スルトモ中央ノ數位 錢位トハ各紙幣ノ種類ニ隨ヒ拾圓、五圓、壹圓、五拾圓、拾圓、貳拾圓、拾錢、拾錢トアル種色ノ文字ヲ云フ以下皆之ニ同シ全存シ大藏卿出納局長ノ印章記録局長ノ制印上下ノ番記號 四箇マテ接續スルモノ又全部所々破損スルトモ中央ノ數位全存シ大藏卿出納局長ノ印章記録局長ノ制印ノ內壹箇上下番記號四箇所ノ內二箇所記號一箇所番記號一箇所又ハ番存在スルモノ又中央ノ數位半存ト雖モ各印章全存番記號二箇所ヲ認ムルモノハ全額ヲ以テ交換ニ付スヘシ
但全紙接續スルトモ左右ノ番記同シカラサルモノ又ハ彩紋等不合他ノ紙幣ヲ以テ接續スルト認ムルモノハ交換ニ付セス

第二條 縱又ハ横斜等半片ハ消滅シ殘リ半片ノ紙幣ハ中央數位半存シ大藏卿印章或ハ出納局長ノ印章記録局長制印ノ內壹箇上下番記號ノ內壹箇ヲ認ムルモノハ半額ヲ以テ交換ニ付スヘシ
第三條 大藏卿及ヒ其他ノ印章番記號トモ全存スルト雖モ中央ノ數位ヲ認メサルモノ中央ノ數位存在スルトモ各印章及ヒ番記號ヲ認メサルモノハ交換ニ付スヘカラス

○變造紙幣取扱方

明治九年五月 大藏省甲第十二號布達

本年四月大政官第五拾七號公布變造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等變造品ハ其持主ノ前ニ於テ斷截云々ト揭載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓、拾圓ト五圓、貳圓ト壹圓、半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描

現行日本法令大全

改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比
々有之右ハ素ヨリ國製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該
紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ疊ヒ描改ノ證ヲ所持
人ハ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所ニ於テハ右紙幣ノ原
因其外取亂處分相濟候ハ、引揚切ニ取計「紙幣察」へ相納候儀
ト可相心得此旨布達候事
〔別紙裏面紋色等之〕

○大藏省證券條例 明治十七年九月
布告第二十四號
大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

- 大藏省證券條例(別紙)
- 第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行
スルモノトス
 - 第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期掛ニシテ其發行シタル
年度ノ歲入ヲ以テ仕掛ヲ爲スモノトス
 - 第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定
シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ
 - 第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ
別テ其仕掛期限ハ三月六月九月トス但其仕掛期日ハ
各證券面ニ記載スヘシ
 - 第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受買賣スルヲ得
 - 第六條 大藏省證券ノ仕掛及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行
ニ於テ取扱ハシムヘシ
 - 第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕掛ノ期日ニ至リ日本銀行
本支店又ハ代理店ニ於テ其仕掛ヲ請求スヘシ但其仕掛ハ通

- 貨ヲ以テスルモノトス
- 第八條 大藏省證券ハ其仕掛期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之
ヲ仕掛フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕掛ヲ爲サルモ
ノトス但仕掛期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス
- 第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店
又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記
號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正ナルヲ認認シ得ヘキ
者ニアラザラハ引換サルヘシ
- 第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由
並ニ券面ノ金額仕掛期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續
ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘ
シ大藏卿ハ其證券ノ授受買賣引換及ヒ仕掛ヲ差止ムヘキ旨
ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ
届出ヘシ
- 第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店
又ハ代理店ニ於テ滿足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於
テハ其元利金額ヲ仕掛フヘシ
- 第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノ
ハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○大藏省證券條例ニ據リ
證券發行ノ事務 明治十九年八月
大藏省令第二十六號

明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發
行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第二章 公債 貸付

○新舊公債證書發行條例 明治八年五月
第九十五號布告

明治六年三月第百拾五號及ヒ同七年六月第六十六號布告新舊公債
證書發行條例別冊ノ通改定候條此旨布告候事

新舊公債證書發行條例(別冊)

- 明治五年壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ
逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ク其債主ヘ
ハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政
府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ
- 第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ
第一條 弘化元年辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用
シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元年戊辰年太政更改以後明治
四年未年七月廢藩迄及明治五年壬申年迄ノ間舊諸藩ニ於テ借
用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ
- 第二條 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第
五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓壹百圓五拾圓貳拾五圓
ノ五種ニ區別スヘシ
- 第三條 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却ス
ヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分ニ別テ(いろは)四十七字ノ
記號ヲ證書面ニ命名スヘシ
- 第二條 新舊公債併却ノ年度及
第一條 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治
五十四年迄五十年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ每
年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ
- 第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄

二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽
籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割
合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明
治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄
十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ 但此公債ノ
都合ニヨリ金銀貨又ハ紙(九年第五十號布告ヲ以テ毎年)
幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ(ノ下六月以下ノ十字ヲ加フ)

- 第三條 (二十一) 年勅令第七十
號ヲ以テ別除ス
- 第四條 (二十一) 年勅令第七十
號ヲ以テ別除ス
- 第五條 新舊公債證書之
第一節 (二十一) 年勅令第七十三
號ヲ以テ本節ヲ別除ス
- 第二節 (二十一) 年勅令第七十三
號ヲ以テ本節ヲ別除ス
- 第三節 (二十一) 年勅令第七十三
號ヲ以テ本節ヲ別除ス
- 第四節 (二十一) 年勅令第七十三
號ヲ以テ本節ヲ別除ス
- 第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受
取方申出ラス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過クル
トキハ之ヲ償還セサルヘシ(十二年第二十六號布告ヲ以テ但舊共追加
下五十七字ヲ之ヲ改メ)
但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ス(二十一年勅令第
七十三號ヲ以テ
未文三十二
字ヲ削ル)
- 第六條 (二十一) 年勅令第七十三號ヲ以テ
第七條 (未條)ヨリ第十一條ヲ別除ス
- 第八條
- 第九條

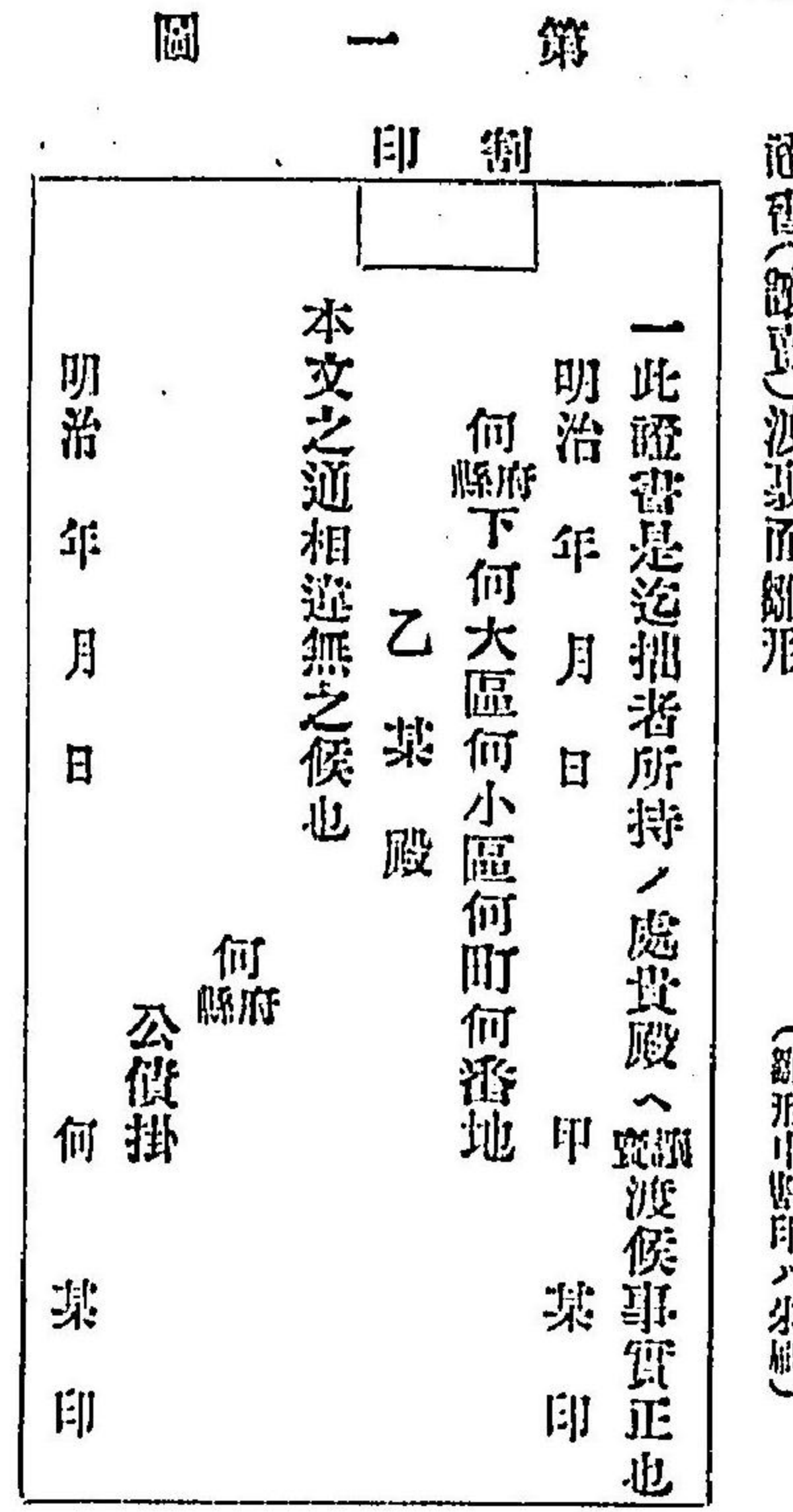
第十條
第十一條
第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリ要用ノ事アルハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコトアルヘシ

第二節 右增補改正等アルハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

右之通相違候事

證書(讓賣)渡裏而離形 (離形中割印ハ朱刷)



乙某寄留人ナル時ハ左ノ通

本貫何府 郡 民カ

何府 何縣 何大區 何小區 何町 何番地

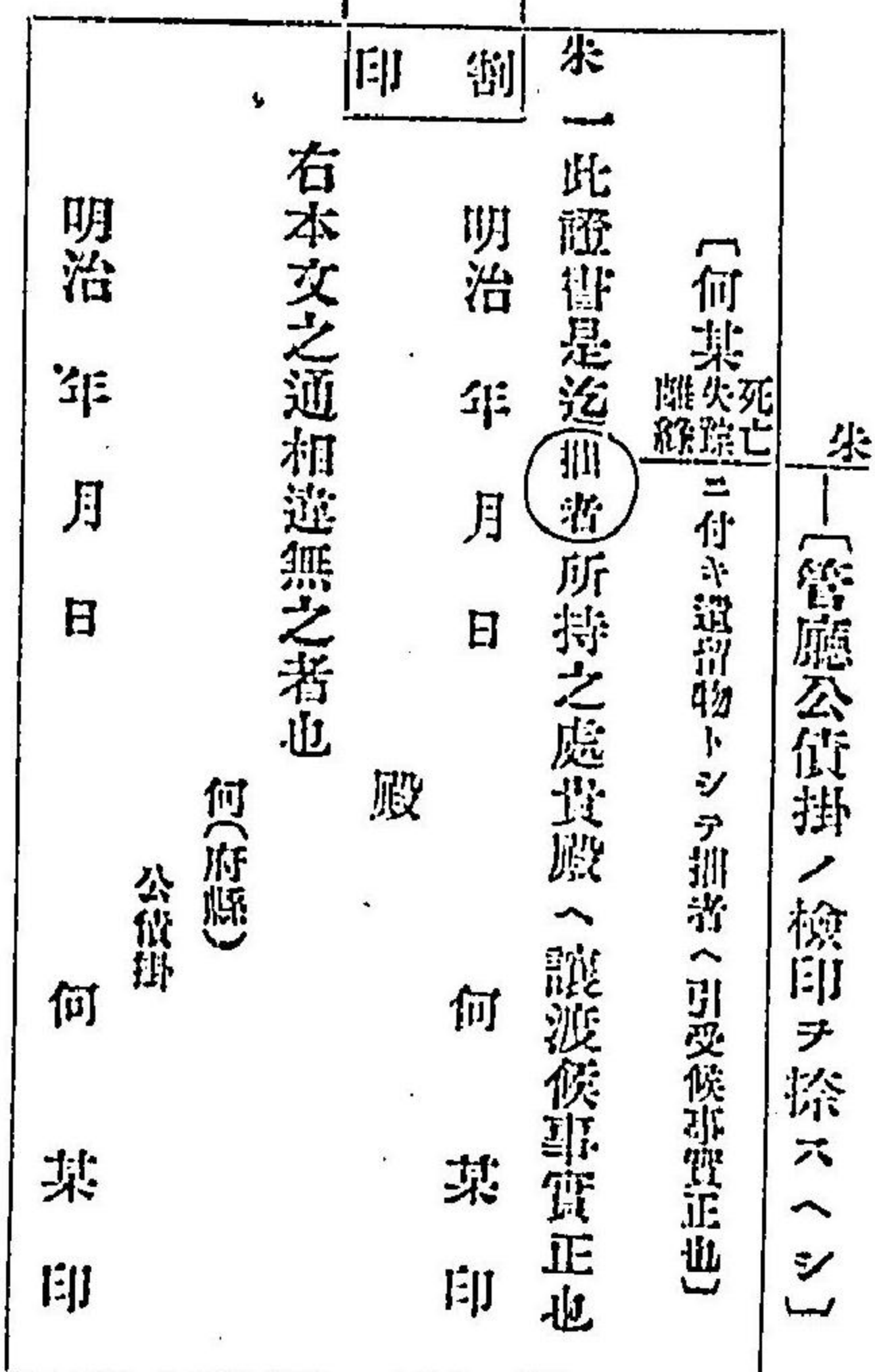
何所 何番地 何居留

乙 某 殿

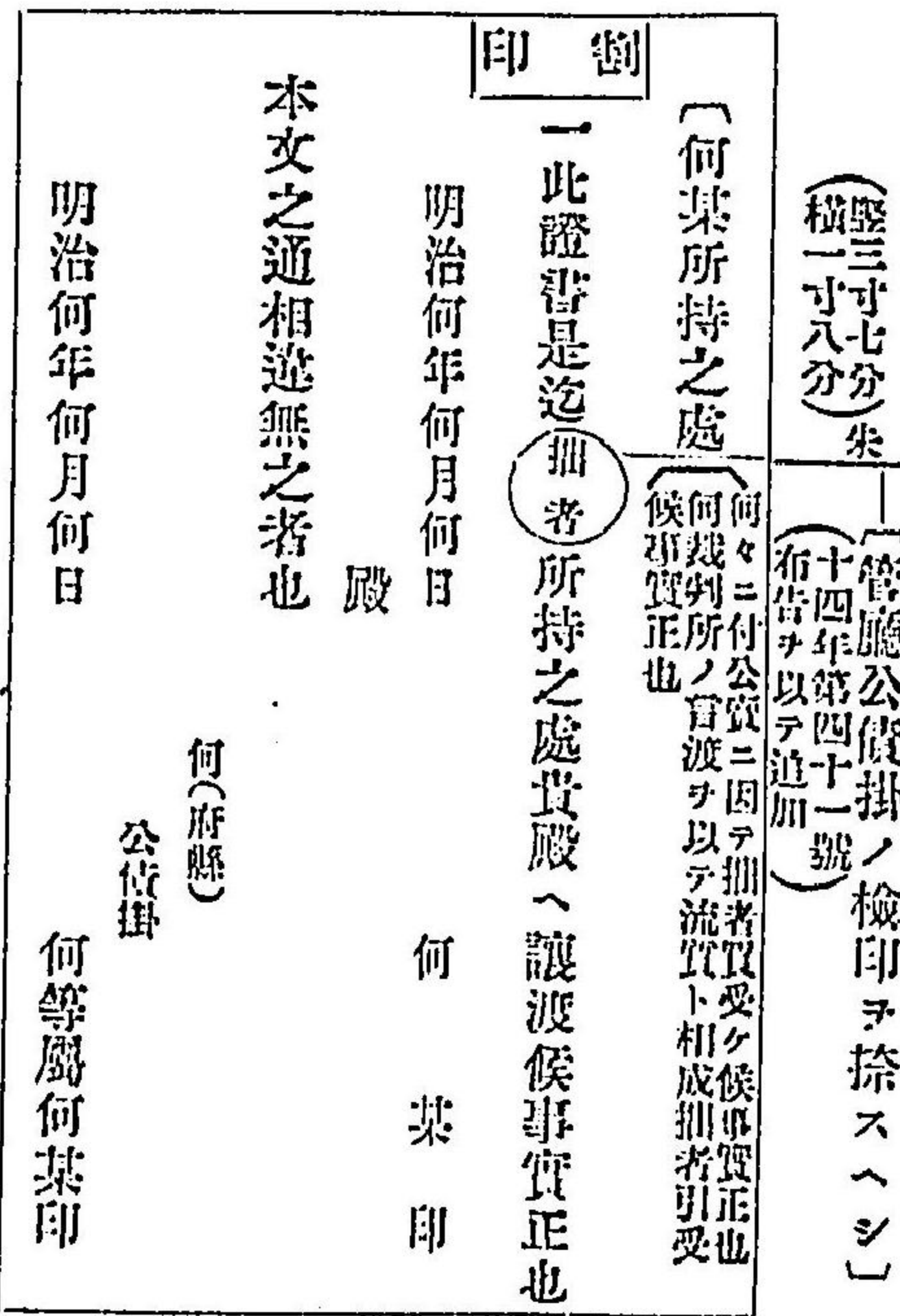
右ノ通タルヘシ尤施行濟ノ分ハ此限ニ非ス

(割印及○並○ハ朱刷以下亦同)

附錄第二圖



附錄第三圖



○舊公債證書ノ内貳拾五圓五拾圓 證書ノ金額ヲ集メ五百圓證書ト交換ヲ許ス

明治九年七月 大藏省布達甲第十五號

舊公債證書ノ内貳拾五圓五拾圓ノ證書多分所持有之者ハ枚數嵩張常々不便利ノ趣ニ相聞候條違般特殊之詮議ヲ以右二種ノ證書ニ限リ金額集メテ五百圓ニ盈ツル分ハ五百圓證書ト交換差許候條志願之者ハ明細書ヘ本證書ヲ添テ管轉應ヘ可願出管轉應ニテハ即當省ヘ本證書ヲ上納シテ證書ヲ受取所持人ニ可下付就テハ管轉應ノ公債掛ハ公債簿及計表上右交換相濟候故證書ノ種類番號記號等總テ致刪除代リトシテ新々ニ請取候證書ノ種類番號記號等更ニ購簿並計表ヘ登記可致此旨布達候事

○諸公債證書ノ元金拂渡期限ヲ經過シ受取方不申出所有主ノ損失ニ歸シタル證書取扱方

明治十九年二月 大藏省布達第二號

諸公債證書ノ元金其條例ニ定メテハ拂渡期限ヲ經過シ受取方申出テス所有主ノ損失ニ歸シタル證書ハ當省ニ於テ該證書ノ無効タルヘキ旨ヲ告示スヘキニ付右ノ證書コソアルトキハ公債簿冊ニ據リ該證書ノ種類金高記號番號等其年十二月末日ノ現狀ヲ以テ取調翌年一月三十一日限り其地發遣當省ヘ届出ツヘシ

右相違候事

○諸記名公債ノ元利賦金渡方日本銀行ニ於テ取扱ハシム

明治十九年七月 大藏省令第二十四號

北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ儀來十一月一日ヨリ總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ

於テ之ヲ取扱ハシム但其代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ

○新公債、金錄公債、金札引換公債 元金償還ノトキ廣告及通知方

明治二十二年三月 大藏省令第四號

新公債、金錄公債、金札引換公債元金償還ノトキハ日本銀行ヨリ當籤證書ノ金額種類記號番號ヲ官報ヘ廣告シ記名者ヘハ同行ヲシテ其證書ノ記號番號ヲ通知セシメ更ニ新聞紙ヲ以テ當籤ノ旨ヲ廣告セシム

○起業公債證書ヲ整理公債證書ニ交換ノ手續

明治二十年四月 大藏省布達第四號

本年三月當省告示第二十九號ニ據リ起業公債證書ヲ以テ整理公債證書ニ交換セシコトヲ望ムモノアルトキハ該證書ノ裏面ニ第一國立銀行若クハ三井銀行本支店又ハ代理店ノ證印ヲ受ク之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參シ其交換ヲ請求スヘシ

但起業公債ニ屬スル利子ハ本文ノ證印ヲ受クルノ時其月マテ分テ月割ヲ以テ拂渡スモノトス

○六分利付各種公債交換ヲ得セシム

明治二十年三月 大藏省告示第二十九號

一七分利付金錄公債ニ限リ整理公債ニ交換スルヲ得ヘキ旨客年十一月大藏省告示第百一十一號ヲ以テ告示ニ及候處自今六分以上利付各種公債共所有者ノ望ニ由リ其交換ヲ請フコトヲ得

一前項ノ交換ヲ望ムモノハ其請求書ニ本證書ヲ添へ日本銀行
本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ
但舊證書ハ當省ヨリ新證書發行ノ月マテ新證書ハ其翌月
ヨリ利子ヲ付スルモノトス

○新舊金祿中山道鐵道金札引換無記
名公債證書及金札引換公債條例ニ
發行シタル諸公債證書ノ取扱方ヲ
示ス

明治八年第九十五號布告新舊公債證書發行條例同九年第百八
號布告金祿公債證書發行條例同十三年第四十七號布告金札引
換公債條例同十六年第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例
同第四十八號布告金札引換無記名公債證書條例ニ據リ發行シ
タル諸公債證書ノ取扱ハ金祿公債金札引換公債金札引換無記
名公債證書ノ利子支拂期日ヲ毎年五月一日ヨリ同二十五日マ
テ十一月一日ヨリ同二十五日マテトスルノ外明治十九年大
藏省令第三十號整理公債取扱順序第十三條ヨリ第三十一條第
二條ニ據ル但第十四條第十六條第二十條第二十一條第
二十三條第三十一條中無記名證書ニ該當スル取扱ハ新舊公債
證書發行條例金祿公債證書發行條例金札引換公債條例ノ記名
證書ニ適用セザルモノトス
本令ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○諸記名公債證書元金償還ノトキ
所有者へ通知方

明治二十年五月
大藏省令第三十三號
記名諸公債元金償還ノトキ當該證書ノ種類及記號番號等ハ當

○記名公債證書月割利金算出方

明治二十年六月
大藏省令第四十三號
諸記名公債償還ノ時日本銀行本支店及代理店へ報告スヘキ月
割利金ハ本月以降償還ノ分ヨリ各債主ノ當該額ニ對シ算出ス
ヘシ

○記名公債證書ヲ無記名公債證書又
ハ六分利付記名公債證書ヲ整理公
債證書ニ變換讓賣引換等後見人ヨ
リ出願ノ取扱方

明治二十年十月
大藏省令第六十三號
海軍公債及整理公債記名證書所有者ノ後見人ニ於テ其記名證
書ヲ無記名證書ニ變換又ハ讓賣ノトキ及本年三十大藏省告示第
二十九號ニ依リ六分以上利付記名公債證書ヲ整理公債證書ニ
引換フトキハ親類連署ヲ爲サシメ區戶長ニ於テ證明セシムヘ
シ

○諸公債條例改正ニ付債主簿其他諸
公債證書取扱上ノ書類日本銀行へ
引渡方

明治二十年十一月
大藏省令第四十四號
本年勅令第七十三號ニ據リ諸公債條例ノ改正ニ付テハ其應ニ
備ヘアル債主簿其他諸公債證書取扱上必要ノ書類ハ總テ整理
濟ノ上來ル十二月二十五日マテニ管下ノ日本銀行本支店若ク
ハ代理店ニ引渡スヘシ

○紛失消滅ニ係リタル諸公債證書及
利札取扱方

明治二十一年十二月
大藏省令第六十五號
本年十一月勅令第七十三號同大藏省令第十五號ニ據リ諸公債
條例ノ改正ニ付テハ本年十二月三十一日以前ニ紛失消滅ニ係
リタル無記名起業公債中山道鐵道公債金札引換無記名公債ノ
證書若クハ利札ノ取扱ハ來ル二十二年一月一日以降整理公債
條例ニ據ルモノトス
但代證書若クハ利子交付時期ハ其紛失消滅ニ係リタル届出
ノ月ヨリ起算ス

○六分以上利付公債證書ノ元金償還
ノトキ本人請求ニ由リ整理公債證
書交付ノトキ其期限及手續廣告方

明治二十二年三月
大藏省令第二十八號
一明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例第三十條ニ據リ
六分以上利付公債證書ノ元金償還ノ時本人ノ請求ニ由リテ
整理公債證書ヲ交付スルトキハ日本銀行ヨリテ其請求期限
及其他ノ手續ヲ廣告セシム
一償還ヲ受クヘキ證書ノ額而五拾圓未滿ニシテ整理公債證書
ノ額而ニ滿タルモノアルトキハ之ニ他ノ六分以上利付公
債證書ヲ加ヘテ前項ノ請求ヲナスコトヲ得
一償還元金ノ代リトシテ交付スル整理公債證書ノ利子ハ請求
期限内申込ヲナシタルモノニシテ金祿公債、中山道鐵道公債、
金札引換無記名公債證書ニ對シ交付スルモノニハ償還ノ翌
月ヨリ金札引換公債及起業公債證書ニ對スルモノニハ其償

還月ノ十五日以前ニ在レハ下半年ヨリ月ノ十六日以後ニ在
レハ翌月分ヨリ之ヲ付シ期限外ニ申込ヲナシタルモノニハ
何レモ申込ノ翌月ヨリ之ヲ付ス

○金祿公債證書發行條例

明治九年八月
布告第百八號
家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制
限ヲ定メ來明治十年ヨリ別紙條例之通公債證書ヲ以テ一時ニ
下賜候條此旨布告候事

金祿公債證書發行條例 (別紙)

第一條 華土族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ
定メ一時ニ之ヲ下渡スコトト爲シ以テ公債證書ヲ付與スヘ
シ

一永世祿ノ者ヘハ
金祿元高貸典祿アルモノハ家
祿ニ合算シ元高トス

年限	七萬圓以上	六萬圓以上	五萬圓以上	四萬圓以上	三萬圓以上	二萬圓以上	一萬圓以上	七千圓以上	五千圓以上	三千圓以上	二千圓以上	一千圓以上	五百圓以上	二百圓以上	百圓以上	五十圓以上	十圓以上	十圓以下
年限	五ヶ年分	五ヶ年二分五厘分	五ヶ年半分	五ヶ年七分五厘分	六ヶ年分	六ヶ年二分五厘分	六ヶ年半分	六ヶ年七分五厘分	七ヶ年分	七ヶ年二分五厘分	七ヶ年半分	七ヶ年七分五厘分	七ヶ年九厘分	七ヶ年一分五厘分	七ヶ年二分五厘分	七ヶ年四分五厘分	七ヶ年六厘分	七ヶ年七厘分

右一少五分ノ利子ヲ給ス
 千四百 七少七分五厘分
 九百 八少年分
 八百 八少年二分五厘分
 七百 八少年七分五厘分
 六百 九少年二分五厘分
 五百 九少年七分五厘分
 四百 九少年二分五厘分
 三百 九少年七分五厘分
 二百 十少年二分五厘分
 百 十少年七分五厘分
 右一少年六分ノ利子ヲ給ス
 百 十一少年分
 五十 十一少年二分五厘分
 二十 十一少年七分五厘分
 十 十二少年分
 五 十三少年分
 二 十三少年二分五厘分
 一 十四少年分
 右一少年七分ノ利子ヲ給ス
 一終身ノ者ハハ
 右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス
 但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ
 一年限祿ノ者ハハ

十年以上ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス
 十年未滿ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス
 八年未滿ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス
 六年未滿ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス
 四年未滿ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス
 二年ノ者ハハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス
 但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ
 第二條 此公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下渡スコトトス
 第三條 家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルトキ元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル制限左ノ如シ
 一金壹萬圓 家祿賞典祿合高
 此六少年半分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一少年五歩
 一金九千九百圓 家祿賞典祿合高
 此六少年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此公債證書ノ利子一少年五歩金三千三百四十一圓二十五錢トナル
 右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓二十五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓二十五錢ヲ引去リ利子三千二百五十四圓ニ適當スル公債證書ヲ下渡シ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス
 第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云トモ其發行スル種類ハ左ノ如シ
 五圓 十圓 二十五圓 五十圓 百圓

三百圓 五百圓 千圓 五千圓
 第五條 前條公債證書ヲ付與スルトキニ當リテ公債證書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡スヘシ
 第六條 此公債證書ノ元金ハ五少年間之ヲ据置キ六少年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十少年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ
 第七條 此公債證書發行ニ付テハ順序其外トモ此條例外ノ事
 件ハ都テ新舊公債證書發行條例ノ通リタルコトト心得ヘシ
 ○舊藩々賞賜祿高引直等ノ願採用
 致サス 明治九年九月 布告第百二十三號
 明治六年ニ第三十五號ヲ以テ舊藩々賞賜祿高引直ノ願ノ儀同年三月三十一日限り可申出右期限後ハ一切採用不致旨布告候處爾後祿高ニ關シ種々願出候向モ有之候得共本年八月第八號布告ヲ以テ祿制改定候ニ付總テ現今ノ處置ヲ以テ定度トシ如何様ノ事實有之共一切採用不致候條此旨更ニ布告候事
 ○舊藩主ニ於テ士民ヘ分與セシ
 賞典祿處分方 明治九年八月 布告第百二十二號
 家祿賞典祿ノ儀明治九年八月第八號ヲ以テ布告及置候通本年ヨリ金祿公債ノ處分相成候ニ付テハ舊藩主ヘ下賜賞典祿ノ内ヨリ代數ヲ限リ或ハ終身或ハ年限ヲ以テ士民ヘ分與セシ分ハ舊藩主ニ於テ適宜處分可致候條此旨布告候事
 ○金祿公債證書ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ヲ集メテ五百圓證書ト交換

ナ許ス 明治十三年五月 大藏省布告第百七十一號
 金祿公債證書ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ノ證書多分所持致居候者ハ枚數相當ニ不便利ノ趣ニ相開候ニ付今般右三種ノ證書ニ限リ所持高集メテ五百圓ニ滿ツル分ハ五百圓證書ト交換差許候條志願ノ者ハ明細書ハ本證書相添管轄廳ヘ可願出尤手數料トシテ五百圓證書壹枚ニ付金拾壹錢宛上納可致此旨布告候事
 但本文布達候ニ付テハ管轄廳於テ取扱方ハ明治九年七月當省甲第拾五號布達ノ通可相心得候事
 ○金祿公債證書別途ニ下付ス
 明治十一年八月 大藏省布告第百二十七號
 明治九年八月第八號公布ヲ以テ發行相成候金祿公債證書ノ儀ハ用紙ノ都合ニ依リ先ツ十年分同十九年マテノ利子小札記載有之因テ殘ル二十年分ノ利子札ハ追テ別途ニ下附可致候條此旨布達候事
 但此公債證書ハ利子小札ニテ番記號記載有之ニ付切取ノ節一枚毎ノ界ヘ所持主割印ニ不及候事
 ○神官配當祿公債證書 明治十年三月 布告第百三十二號
 各社領米黑印地并除地收領中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ並ハ右配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五少年分ノ合計配當祿公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債證書ハ明治八年八月第三十號布告ノ通可相心得此旨布告候事
 但配當米金受來候者ハ確證相添來ル四月三十日限り其管轄廳ヘ可申出若シ右期限後ニ至リ如何様ノ事情申出候共採用

不相成候條此旨兼テ可相心得事

(別紙)

祿制

配當現米

千石以上	祿制現米
九百石	三百石
八百石	二百八拾石
七百石	二百六拾石
六百石	二百四拾石
五百石	二百二拾石
四百石	二百石
三百石	百六拾石五斗
二百石	百二拾石五斗
一百石	八拾七石五斗
九十石	五拾石
八十石	四拾五石貳斗貳升
七十石	四拾石四斗四升
六十石	三拾五石六斗七升
五十石	三拾石八斗九升
四十石	貳拾六石壹斗壹升
三十石	貳拾壹石三斗三升
二十石	拾六石五斗六升
十石	拾壹石七斗八升
五石以下	七石
	五石
	從前之通

○金札引換公債條例

明治十三年十二月 布告第四十七號

明治六年三月第百貳拾壹號布告金札引換公債證書發行條例並改正追加ノ分共更正別冊ノ通改定候條此旨布告候事

改定金札引換公債條例(別冊)

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ支拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ三種トス

第三條 (何人ニテモ)外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書而シテ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債證書ニ交換スルコトヲ得(シ) (十六年第四十八號布告)

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年据置四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂渡スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ンハ前月迄ノ分十六日後ニ係ンハハ半ヶ月分ヲ下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシトキ迄ノ分下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者

ハ其紙幣並ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管應ニ差出スヘシ

第七條 地方管應ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取リ其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管應ヨリ其受領證ヲ交付スルコト各月十五日以前ナシハ其月十六日以後ナシハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管應ニ送達スヘシ

第十條 地方管應ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側ハ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管應ノ割印ヲ加ヘ本人ニ渡置キタル受領證ト引換ヘニ證書ヲ交付スヘシ

但證書交付ノ後他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ每翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條 公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ニ送致スヘシ

第四章 證書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖トモ金札引換公債證書ハ從前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ

文字ハ朱書ヲ以テ點讀スヘシ

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之ヲ他人(外國人ヲ除ク)ニ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其證書ヲ其地方管應ニ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ

管應ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ下付シ名前替替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄十月一日ヨリ十一月十五日迄證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年五月第九拾五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ箇條ニ準據スヘシ

○金札引換無記名公債證書條例

明治十六年十二月 布告第四十八號

金札引換無記名公債證書條例左ノ通制定シ明治十三年十月第四拾七號布告金札引換公債條例第三條ヲ停止ス

金札引換無記名公債證書條例

第一條 金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス 此公債證書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス

第二條 此公債證書ハ望入ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行
スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコ
トアルヘシ

第三條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ
三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト
定ム此證書ヲ引受クシコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支
店又ハ代理店へ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其ノ證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其
翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ
(二十一年十一月六日勅令第七十
三號ヲ以テ本條中但書ヲ削除ス)

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度
ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽
籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ
拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日
前
後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日
以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 (二十一年十一月六日勅令
第七十三號ヲ以テ削除ス)

第十條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十一條

第十二條

第十三條

第十四條 (上)

第十五條

第十六條

第十七條 此公債ノ元金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十
五ヶ年ヲ過クルトキハ之ヲ償還セサルヘシ(同上勅令ヲ以テ
二ヶ年ヲ)

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元
金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ

○起業公債 明治十一年四月
布告第七號

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賈
ヲ盛ニスルコトニ新ニ壹千貳百五拾萬圓ノ內國債ヲ起シ其費
用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿へ御委任相成候條
此旨布告候事

但詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○起業公債證書發行條例 (別冊)

明治十一年五月
大藏省布達第十三號

今般內國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因
リ起業公債證書發行條例別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此
旨布達候事

起業公債ハ明治十一年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要
用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ
公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ

之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債證書ノ元高種類並利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五拾萬圓ニシテ年六分(百分
ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目(即チ明
治十三年)ヨリ向二十三箇年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)
毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲ケル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ
之ヲ拂戻スヘシ而シテ其利息ハ(第三條第二節)但書並ニ第四
節ノ分ヲ除キ)募金拂込ミ普濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年
六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合
ニ依リ金額及ハ紙幣ヲ以テ
之ヲ下渡
スヘシ)

但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年
六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六
日以後ニ係ルハ半月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽
籤法ヲ行ヒシトキ迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書而ノ金高ヲ五百圓、百圓、五十圓ノ三種ニ
區別シ利息ノ小札付キトス(二十一年十一月六日勅令第七
十五號ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第二條 (公債證書授受賣買等ノコトヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管應
ノ檢印ヲ受クル等ノ手續無クシテ授受賣買等各自ノ隨意ヲ
ルヘシ(同上勅令ヲ以テ(無書)ノ下十七
字及(賣買等)ノ下八字ヲ削除ス)

但賣入書入及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手ナルヘシ(同上勅令ヲ
以テ賣入
ノ下四字
ヲ削除ス)

第三條 (募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 此公債ノ募集方並ニ元金ノ渡方トモ都テ第一國立
銀行並ニ三井銀行へ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手
續、引受ノ實商、期限、場所及利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ

條件ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取扱仲間等ヨリ追テ
新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フヘシ

第二節 募リニ應ジ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引
受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割
拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等
ヨリ廣告スヘシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル
月割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ(十一年同布告第七十三號布達ヲ以テ
ス)ノ下十三字ヲ削リ其他四十二
字ヲ第四節月割ノ下ニ移ス)

第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ
第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假證券ヲ與ヘ第二割
拂ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟
ニ至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付スヘシ

但公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定
期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合
ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半月分分十六日以後
ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ
内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ(同上(月割)ノ
下劃註ヲ加フ)

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ
初度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金
ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ
歸セシメテ返與セサルヘシ

第六節 出金未ダ普濟ニ至ラス此公債證書ヲ受取ラサル以前
タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券
ヲ授受賣買實入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手ナル

ハシ尤モ授受買賣ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所トヲ記載シ且ツ調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルトキハ本條第五節ノ通りタルヘシ

第七節 若シ申込ノ出金高募集スヘキ見込高ヨリ超過スルトキハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付クテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設クテ之ヲ減却スルコトモアルヘシ

第四條 (抽籤ノ手續概略ヲ示ス) (二十一年十一月大藏省令第十五號ヲ以テ上ノ四條ヲ削ス)

第五條

第六條 (記名公債證書ニ變更スル手續並ニ變更セシ以後ノ規則ヲ示ス)

第七條 (證書廢造等ノ處分ヲ示ス)

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スヘシ

第二節 右增補改正等アルトキハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五月 大藏省

記名紙離形 (括弧内並ニ印ハ總テ朱)

本文證書(何大區何小區何町何某)ハ相渡候者也

〔印〕

明治何年何月何日

〔何縣〕公債掛

〔何〕某印

一此證書是迄抽者所持之處費殿へ讓渡候事實正也

明治何年何月何日

〔甲〕何某印

〔何縣〕下何大區何小區

〔乙〕何某殿

何町何番地(住居)

何町何番地(貸居)

本文之通相違無之候也

〔何縣〕公債掛

〔何〕某印

明治何年何月何日

○起業公債證書條例改正ニ付債主簿其他同公債證書取扱上ノ書類日本銀行へ引渡方

明治二十一年十一月 大藏省令第十五號

大藏省令第十五號ニ據リ起業公債證書條例ノ改正ニ付テハ其應ニ備ヘアル債主簿其他同公債證書取扱上必要ノ書類ハ來ル十二月二十五日マテニ管下第一國立兩銀行本支店若シハ代理店へ引渡スヘシ

○中山道鐵道公債證書條例

明治十六年十二月 布告第四十七號

中山道鐵道公債證書條例左ノ通制定ス

中山道鐵道公債證書條例

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス (十七年第十七號ニテ下及ヒ以下ニテ字ヲ加フ)

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓四百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高ハ大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルトキハ其超過高ニ比例シ各申込人へ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ

拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第九條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十一條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取リ之ヲ引換ニ拂渡スヘシ

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京橫濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スルモノヲ拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書而ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受買賣ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以届出ヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ